OLYMPUS

CAMEDIA
デジタルカメラ

C-4100 ZOOM

取扱説明書

■ご使用前にこの説明書をお読みください。

■大切なもの（海外旅行など）をお撮りになる前には、必ず試し撮りをして、カメラが正常に機能することをお確かめください。

■取扱説明書で使用している液晶画面やカメラのイラストは、実際の製品とは異なる場合があります。

はじめに

このたびはオリンパス　デジタルカメラをお買上げいただき、ありがとうございます。この説明書をよくお読みのうえ、安全に正しくお使いください。また、お読みになったあとは、必ず保管してください。

- ●本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。商品名、型番等、最新の情報についてはカスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。
- ●本書の内容については、万全を期して作成しておりますが、万一ご不審な点、誤り、記載もれなど、お気づきの点がございましたらご連絡ください。
- ●本書の内容の一部または全部を無断で複写することは、個人としてご利用になる場合を除き、禁止されています。また、無断転載は固くお断りします。
- ●本製品の不適当な使用により、万一損害が生じたり、逸失利益、または第三者からのいかなる請求に関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
- ●本製品の故障、オリンパス指定外の第三者による修理、その他の理由により生じた画像データの消失による、損害および逸失利益などに関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
- ●本製品で撮影された画像の質は、通常のフィルム式カメラの写真の質とは異なります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。
飛行機内では、離発着時のご使用をお避けください。
本製品の接続の際、当製品指定のケーブルを使用しない場合、VCCI基準の限界値を超えることが考えられます。必ず、指定のケーブルをご使用ください。

商標について

Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。
MacintoshおよびAppleは米国アップルコンピュータ社の登録商標です。
その他本説明書に記載されているすべてのブランド名または商品名は、それらの所有者の商標または登録商標です。

カメラファイルシステム規格について

カメラファイルシステム規格とは、電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された規格「Design rule for Camera File system/DCF」です。

目　次

1 準備　24

2 使い方早わかりガイド　37

3 メニューのしくみ 43

4 撮影の基本 52

目　次

7 *再生* *119*

目　次

10 別売品を使う 176

11 その他 180

安全にお使い頂くために

ご使用の前に、この「安全にお使い頂くために」の内容をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。

製品を正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害と財産の損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

危険

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う差し迫った危険の発生が想定される内容を示しています。

警告

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

製品の取り扱いについてのご注意

⚠ 警告

☞ **可燃性ガス、爆発性ガス等がある場所では使用しない。**
これらのガスが、大気中に存在するおそれのある場所での本製品の使用はおやめください。引火・爆発の原因となります。

☞ **フラッシュを人（特に乳幼児）に向けて至近距離で使用しない。**
目に近づけて撮影すると、視力障害をきたすおそれがあります。特に乳幼児に対して、至近距離で撮影しないでください。

☞ **幼児、子供の手の届く場所に置かない。**
以下のような事故発生のおそれがあります。
- 誤ってストラップを首に巻き付け、窒息を起こす。
- 電池や小さな付属品を飲み込む。万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。
- 目の前でフラッシュが発光し、視力障害を起こす。
- カメラの動作部でけがをする。

☞ **カメラで日光や強い光を見ない。**
視力障害をきたすおそれがあります。

☞ **通電中の充電器、充電中の電池に長時間触れない。**
充電中の充電器や電池は温度が高くなります。また、別売のACアダプタをご使用時も長時間お使いになっていると、本体の温度が高くなります。長時間、皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。

☞ **ほこりや湿気、油煙、湯気の多い場所で使ったり、保管しない。**
火災や感電の原因となることがあります。

☞ **フラッシュの発光部分を手で覆ったまま発光しない。**
連続発光後も発光部分に手を触れないでください。やけどのおそれがあります。

☞ **分解や改造をしない。**
感電やけがをする原因となります。

☞ **内部に水や異物を入れない。**
万一、水に落としたり、内部に水が入ったりしたときは、火災や感電の原因になりますので、すぐに電源を切り電池を抜き、販売店または当社サービスステーションにご相談ください。

⚠ 注 意

☞ **異臭、異常音、煙が出たりするなどの異常が生じたときは使用をやめる。**
このようなときは、やけどに注意しながらすぐに電池を取り外し、販売店または当社サービスステーションにご連絡ください。火災や、やけどの原因となります。（電池を取り出す際は、素手で電池を触らないでください。また、可燃物のそばを避け、屋外で行ってください。）

☞ **濡れた手で操作しない。**
感電の危険があります。またACアダプタの抜き差しは、濡れた手では絶対にしないでください。

☞ **持ち運びのときは、ストラップが引っかからないよう注意する。**
カメラをストラップで下げているときは、他のものに引っかかったりしないように、注意してください。けがや事故の原因となることがあります。

☞ 温度の高い所へ放置しない。
部品が劣化したり、火災の原因となります。

☞ 専用のＡＣアダプタ以外は使用しない。
カメラ本体または電源が故障したり、思わぬ事故がおきる可能性があります。また別売のAC アダプタは日本国内用です。海外ではご使用になれません。専用以外のAC アダプタの使用により生じた傷害は保証しかねますので、あらかじめご了承ください。

☞ ACアダプタのコードを傷つけない。
AC アダプタのコードを引っ張ったり、継ぎ足したりは絶対にしないでください。必ず電源プラグを持って、抜き差しを行ってください。
以下の場合はただちに使用を中止し、販売店または当社サービスステーションに御相談ください。
- 電源プラグやコードが熱い、焦げ臭い、煙が出た場合。
- AC アダプタのコードに傷、断線、またはプラグに接触不良があった場合。

使用条件についてのご注意

- 本製品には精密な電子部品が組み込まれています。本製品を使用または保管する場合、以下のような場所で長時間放置すると動作不良や故障の原因となる可能性がありますので、避けてください。
  - ■高温多湿、または温度・湿度変化の激しい場所
    直射日光下や夏の海岸、窓を閉め切った自動車の中、冷暖房器、加湿器のそばなど
  - ■砂、ほこり、ちりの多い場所
  - ■火気のある場所
  - ■水に濡れやすい場所
  - ■激しい振動のある場所
- カメラを落としたりぶつけたりして、強い振動やショックを与えないでください。
- レンズを直射日光に向けて撮影または放置しないでください。CCDの褪色・焼きつきを起こすことがあります。
- 長期間使用しないと、カビがはえたり故障の原因になることがあります。使用前には動作点検をされることをおすすめします。
- 三脚に取り付ける際、カメラを回さず、三脚のネジを回してください。
- 本体の電気接点部には手を触れないでください。
- レンズに無理な力を加えないでください。

電池についてのご注意

液漏れ、発熱、発火、破裂、誤飲などによるやけどやけがを避けるため、下記の注意事項を必ずお守り下さい。

⚠ 危 険

- 充電式電池は、専用のオリンパス製電池と充電器をご使用ください。電池は指定の充電器以外で充電しないでください。ご使用になる際は、電池、充電器等の説明書をよく読んで、正しくお使いください。
- 火中への投下や、加熱をしないでください。
- ＋－を金属等で接続したり、金属製のネックレスやヘアピン等と一緒に持ち運んだり、保管しないでください。
- 強い日なた、炎天下の車内やストーブの前面など、高温の場所で使用･放置しないでください。
- 直接ハンダ付けしたり、変形や改造・分解をしないでください。端子部安全弁の破壊や、アルカリ液の飛散が生じ危険です。
- 電源コンセントや自動車のシガレットライターの差し込み等に、直接接続しないでください。
- 電池の液が目に入ると、失明の原因になります。こすらずに、すぐ水道水などのきれいな水で充分に洗い流し、直ちに医師の治療を受けてください。
- 電池を誤って飲まないよう、乳幼児の手の届かぬ場所で保管および使用してください。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。

⚠ 警 告

- 電池を水や海水などにつけたり、端子部を濡らさないでください。
- 以下の内容を守らない場合、電池の液漏れ、発熱、発火、破裂により、火災やけがのおそれがあります。
  - ■ このカメラで指定されていない電池を使わないでください。
  - ■ 古い電池と新しい電池、充電した電池と放電した電池、また、容量、種類、銘柄の異なる電池を一緒に混ぜて使用しないでください。
  - ■ 充電できないアルカリ電池やリチウム電池、リチウム電池パック（CR-V3）を充電しないでください。
  - ■ ＋－を逆にして装着・使用しないでください。また、機器にうまく入らない場合は無理に接続しないでください。
  - ■ 外装シール（絶縁被覆）を一部またはすべて剥がしている電池や、破れがある電池をご使用になりますと、電池の液漏れ、発熱、破裂の原因になりますので、絶対にご使用にならないでください。
  - ■ 市販されている電池の中にも、外装シール（絶縁被覆）の一部またはすべてが剥がれている電池があります。このような電池も絶対にご使用にならないでください。

●このような形状の電池はご使用になれません

シール（絶縁被覆）をすべて剥がしているもの（裸電池）、または一部が剥がされているもの。

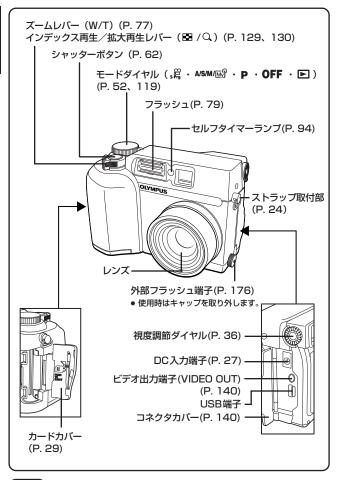
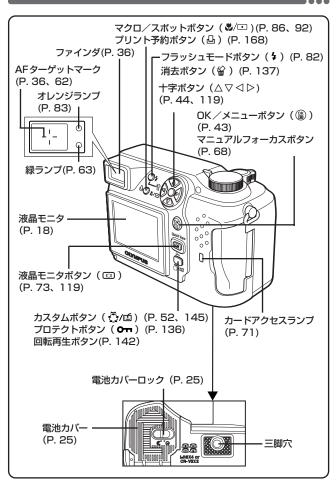
負極（マイナス面）の一部に膨らみがあるが、負極がシール（絶縁被覆）で覆われていないもの。

負極（マイナス面）が平らな電池。（負極の一部がシールに覆われていても、また覆われていなくても使用できません。）

- ニッケル水素電池の充電が、所定充電時間を越えても完了しない場合は、充電を中止してください。
- 液漏れや、変色、変形その他異常が発生した場合は使用を中止し、販売店またはオリンパスサービスステーションにご相談ください。火災や感電の原因となります。
- 電池の液が皮膚・衣類へ付着したときは、直ちに水道水などのきれいな水で洗い流してください。皮膚に傷害を起こす原因になります。
- カメラの電池室を変形させたり、異物を入れたりしないでください。
- 電池に強い衝撃を与えたり、投げたりしないでください。

⚠ 注 意

- 電池の＋－極が汗や油で汚れていると、接触不良をおこす原因になります。乾いた布でよく拭いてから使用してください。
- 当社製ニッケル水素電池はオリンパスデジタルカメラ「CAMEDIA（キャメディア)」専用です。他の機器に使用しないでください。
- 充電式電池をお買い上げ後初めてご使用になる場合、また長時間使用しなかった場合は、必ず充電してください。
- 充電式電池は必ず使用する電池を同時に（機種により４本または2本）充電してご使用ください。
- 電池を使ってカメラを長時間連続使用した後は、すぐに電池を取り出さないでください。やけどの原因となります。
- アルカリ電池は電池の銘柄、製造日からの保存期間、使用温度により内部抵抗・容量に差があるため、ニッケル水素電池やリチウム電池パック（CR-V3 ）などに比べて寿命が極端に短い場合があります。また、低温時は使えません。
- マンガン電池は使用できません。電池寿命が短いばかりでなく、電池の発熱等により本体に損害をもたらすおそれがあります。
- 電池は、一般に低温になるにしたがって一時的に性能が低下します。寒冷地で使用するときは、カメラを防寒具や衣服の内側に入れるなどして保温しながら使用してください。なお、低温のために性能の低下した電池は、常温に戻ると回復します。

● ニッケル水素電池ご使用推奨温度範囲
放電（機器使用時）：0℃〜40℃
充電：0℃〜40℃
保存：－20〜30℃
上記温度範囲外での使用は性能・寿命の低下の原因となります。保管の際はカメラから電池を取り出してください。
● 長時間ご使用にならない場合は、カメラから電池を外しておいてください。電池の液漏れ・発熱により、火災やけがの原因となることがあります。
● 撮影条件、使用環境および電池により撮影枚数が減少する場合があります。
● 長期間の旅行などには、予備の新しい電池を用意することをおすすめします。特に海外では、地域によって入手困難なことがあります。
● 電池を捨てる際は、地域の規定に従って処分してください。

液晶モニタとバックライトについて

本製品は背面の表示には、液晶モニタを使用しています。これらは液晶モニタに関するご注意です。

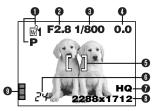
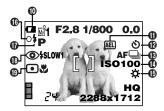
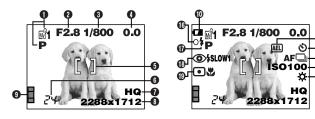
● 液晶モニタは強く押さないでください。画面上ににじみが残り、画像が正しく再生されなくなったり、液晶モニタが割れたりする恐れがあります。万一破損した場合は中の液晶を口に入れないでください。液晶が手足や衣類に付着した場合は、ただちに石鹸で洗い落してください。
● 液晶モニタの画面上下に光が帯状に見えることがありますが、故障ではありません。
● 被写体が斜めのとき、液晶モニタにギザギザが見えますが、故障ではありません。再生時には目立たなくなります。
● 一般に低温になるにしたがってバックライトは点灯に時間がかかったり、一時的に変色したりする場合があります。寒冷地で使用するときは、保温しながら使用してください。低温のために性能の低下したバックライトは、常温に戻ると回復します。
● 液晶モニタに使用されている液晶画面のバックライトおよびコントロールパネル*には寿命があります。画面が暗くなったり、ちらつき始めたら、当社サービスステーションにお問い合わせください。（保証期間外の修理は有料となります。）
● **本製品の液晶画面は、精密度の高い技術でつくられていますが、一部に常時点灯あるいは常時点灯しない画素が存在することがあります。これらの画素は、記録される画像に影響はありません。また、見る角度により、特性上、色や明るさにむらが生じることがありますが、液晶モニタの構造によるもので故障ではありません。ご了承ください。**

＊ 一部搭載していない機種もあります。

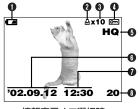
カメラ

ズームレバー（W/T）（P. 77）
インデックス再生／拡大再生レバー（ / ）（P. 129、130）
シャッターボタン（P. 62）
モードダイヤル（ ・ A/S/M/ ・ P ・ OFF ・ ）
(P. 52、119)
フラッシュ(P. 79)
セルフタイマーランプ(P. 94)
OLYMPUS
ストラップ取付部
(P. 24)
レンズ
外部フラッシュ端子(P. 176)
● 使用時はキャップを取り外します。
視度調節ダイヤル(P. 36)
DC入力端子(P. 27)
ビデオ出力端子(VIDEO OUT)
(P. 140)
USB端子
コネクタカバー(P. 140)
PUSH TO EJECT
カードカバー
(P. 29)

マクロ／スポットボタン（ 🌷/⊡ ）(P. 86、92)
プリント予約ボタン（ 凸 ）(P. 168)
ファインダ(P. 36)
フラッシュモードボタン（ ⚡ ）(P. 82)
消去ボタン（ 🗑 ）(P. 137)
AFターゲットマーク
(P. 36、62)
十字ボタン（△▽◁▷）
(P. 44、119)
オレンジランプ
(P. 83)
OK／メニューボタン（ OK ）
(P. 43)
マニュアルフォーカスボタン
(P. 68)
緑ランプ(P. 63)
液晶モニタ
(P. 18)
Quick View
OLYMPUS
液晶モニタボタン（ ▭ ）
(P. 73、119)
カスタムボタン（ ⚙/凸 ）(P. 52、145)
プロテクトボタン（ O⊓ ）(P. 136)
回転再生ボタン(P. 142)
カードアクセスランプ
(P. 71)
電池カバーロック（P. 25）
電池カバー
(P. 25)
三脚穴
LR6X4 or
CR-V3X2

液晶モニタ表示〜撮影情報

画面に表示させる情報量をメニュー機能を使って選択することができます。
☞ 情報表示(P. 155)
表示内容は撮影モードにより異なります。＊

情報表示オフ：
下図の情報を撮影中、常に表示。
（ボタン操作をした後や、メニューから抜けた後は、右の「オン」選択時の情報量が約1秒間表示されます。）

情報表示オン：
下図の情報を撮影中、常に表示。

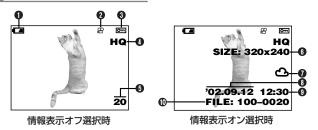
＊ イラストは撮影モードを My1 に設定している場合

撮影情報	表示例	参照頁
❶ 撮影モード	P、A、S、M、My1、My2、My3、My4、	P. 52
❷ 絞り値	F2.8〜F11	P. 58、60
❸ シャッター速度	16〜1/1000	P. 59、60
❹ 露出補正 露出状態	−2.0〜＋2.0 −3.0〜＋3.0	P. 110 P. 61
❺ AFターゲットマーク	−	P. 67
❻ 撮影可能枚数 撮影可能秒数	24 24"	P. 73、75、105
❼ 画質	TIFF・SHQ・HQ・SQ1・SQ2	P. 104
❽ 画像サイズ	2288x1712、その他	P. 105

撮影情報	表示例	参照頁
❾ メモリゲージ		P. 22
❿ 電池残量		P. 22
⓫ AEロック AEメモリ	AEL MEMO	P. 88、91 P. 91
⓬ セルフタイマー		P. 94
⓭ ドライブモード	、 、AF 、BKT	P. 95
⓮ ISO感度	ISO100、ISO200、ISO400	P. 109
⓯ ホワイトバランス	、 、 、 1 、 2 、 3	P. 112
⓰ 緑ランプ	○	P. 63、73
⓱ フラッシュ発光予告 手ぶれ警告 フラッシュ充電中マーク	点灯 点滅 点滅	P. 82
⓲ フラッシュモード	、 、 、 SLOW1、 SLOW2、 SLOW1	P. 79
⓳ スポット測光/マクロモード スーパーマクロモード	、 、 S	P. 86、92 P. 93

液晶モニタ表示～再生情報

画面に表示させる情報量をメニュー機能を使って選択することができます。
☞ 情報表示(P. 155)

静止画再生情報

情報表示オフ選択時

情報表示オン選択時

再生情報	表示例	参照頁
❶ 電池残量	(電池マーク) → (電池マーク)	P. 22
❷ プリント予約マーク	(プリント予約マーク)	P. 170
❸ プリント枚数	x2～x10	P. 170
❹ プロテクトマーク	(プロテクトマーク)	P. 136
❺ 画質モード	TIFF・SHQ・HQ・SQ1・SQ2	P. 104
❻ 日付	'02.09.12	P. 32
❼ 時刻	12:30	P. 32
❽ コマ番号	20	—
❾ 画像サイズ	2288x1712、その他	P. 105
❿ 露出補正値	－2.0～＋2.0	P. 110
⓫ ホワイトバランス	(晴天)、(曇天)、(電球)、(蛍光灯1)、(蛍光灯2)、(蛍光灯3)	P. 112
⓬ ISO感度	ISO100、ISO200、ISO400	P. 109
⓭ ファイル番号	100－0020	P. 161

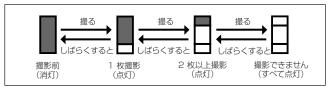
重要！DPOFを使用せずにプリントサービスを利用される方へ

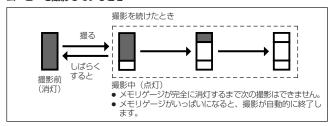
写真店などのプリントサービスをご利用になる場合は、プリントする画像は必ずファイル番号で指定してください。コマ番号で指定すると間違った画像がプリントされる場合があります。

ムービー（動画）再生情報

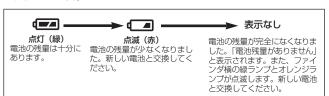
情報表示オフ選択時　　情報表示オン選択時

再生情報	表示例	参照頁
❶ 電池残量	(電池マーク) → (電池マーク)	P. 22
❷ ムービーマーク	(ムービーマーク)	P. 40
❸ プロテクトマーク	(プロテクトマーク)	P. 136
❹ 画質モード	HQ, SQ	P. 104
❺ コマ番号	20	—
❻ 画像サイズ	320x240、その他	P. 105
❼ ホワイトバランス	(晴天)、(曇天)、(電球)、(蛍光灯1)、(蛍光灯2)、(蛍光灯3)	P. 112
❽ 日付	'02.09.12	P. 32
❾ 時刻	12:30	P. 32
❿ ファイル番号 撮影時間	FILE: 100-0020 0"/15" ムービー再生中では、記録時間が次のように表示されます。 再生している秒数 ―0"/15"― 全体の秒数	P. 161 P. 75

注 意

- ムービーの場合は、画像を選択して表示したときと、ムービー再生中で表示内容が異なります。(P. 119、121)

液晶モニタ表示～メモリゲージ&電池残量

メモリゲージ

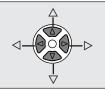
撮影すると、メモリゲージが点灯します。点灯中はスマートメディアへの記録を行っています。メモリゲージの表示は、撮影状態によって次のように変化します。メモリゲージがいっぱいになったときは、しばらく待ってから撮影を再開してください。

静止画を撮影しているとき

ムービーを撮影しているとき

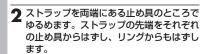
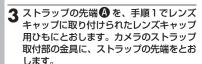
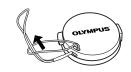
電池残量

カメラの電源を入れたときや使用中に電池残量が少なくなると、電池残量表示が以下のように表示されます。

本書の見方

本取扱説明書では、モードダイヤルのセット位置と使用するボタンをイラストで記載しています。記載されているモードダイヤルの位置にセットした後、それぞれのステップに示されているボタンを押し、番号にしたがってカメラを操作していきます。

黒く塗られているボタンを押します。（この例では上下キーを押します。）

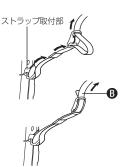
この機能が使用できるカメラのモードを示しています。モードダイヤルをここに示されているいずれかにセットします。

ここではメニューの使い方が示されています。矢印の順にメニューで機能を設定します。メニューを使う前に、詳細について3章「メニューのしくみ」をお読みください。

十字ボタンのどの方向キーを押すかを△、▽、◁、▷ マークで示しています。
(この例では十字ボタンの左方向キーを押します。)

このページは説明のためのサンプルです。実際のページの説明とは異なる場合があります。

ストラップを取り付ける

1 最初に、レンズキャップにレンズキャップ用ひもを取り付けます。レンズキャップ用ひもをレンズキャップの穴に通し、レンズキャップ用ひものもう一方をくぐらせて引っ張ります。

2 ストラップを両端にある止め具のところでゆるめます。ストラップの先端をそれぞれの止め具からはずし、リングからもはずします。

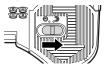
3 ストラップの先端Ⓐを、手順1でレンズキャップに取り付けられたレンズキャップ用ひもにとおします。カメラのストラップ取付部の金具に、ストラップの先端をとおします。

4 図の矢印にしたがい、ストラップの先端をリングと止め具にとおします。

5 ストラップの長さを決めたら、ストラップを止め具のところ（Ⓑ）で引っ張ってゆるみをとり、ストラップが抜けないことを確かめます。

6 もう一方の金具にも手順3～5にしたがって、ストラップを取り付けます。

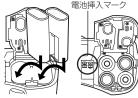
注 意

- カメラを持ち運びの際には、専用ケースに入れてください。
- カメラをストラップで下げているときは、他のものに引っかかったりしないように、注意してください。怪我や事故の原因となることがあります。
- 上の図にしたがってストラップは正しく取り付けてください。万一、誤った取り付けによりストラップが外れて本体を落とすなどした場合、損害など一切の責任は負いかねますのでご了承ください。

電池を入れる

電池はCR-V3（当社製LB-01）リチウム電池パック2個、あるいは単３ニッケル水素電池、ニッカド電池、アルカリ電池、リチウム電池4本を使用します。

重要：

- **CR-V3は充電式電池ではありません。**
- リチウム電池パックCR-V3のラベルは、剥がさないでください。

1 カメラの電源が入っていないことを（モードダイヤルがOFFの位置）確認します。

2 電池カバーロックを、 ⊘ の方向へスライドします。

3 電池カバーを矢印の方向へスライドさせて（Ⓐ）、開けます（Ⓑ）。

- カバーをスライドさせるときは指の腹を使ってあけてください。爪などを使うとけがをすることがあります。

4 電池の方向を間違わないように挿入してください。

リチウム電池パックをご使用のとき　単3電池をご使用のとき

5 電池カバーで電池を押さえながら閉じて（Ⓒ）、カバーの矢印の刻印と逆方向へスライドさせます。（Ⓓ）

- カバーの端を押すと、カバーが閉まりにくくなります。
- 正しく閉じられると、電池カバーは固定されます。

1 準備

6 **電池カバーロックを、⊖ の方向へスライドします。**

注 意

●電池を外した状態で約1時間放置すると、全ての設定は初期設定に戻ります。

電池使用時のご注意

デジタルカメラは動作状態により、消費電力が大きく変わります。消耗した電池やアルカリ電池などをお使いのときは、電池残量警告(P. 22)が出ずに、カメラの動作が停止する場合もあります。

別売の電池やACアダプタを上手に選ぶ

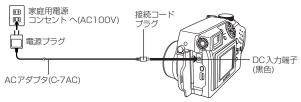
このカメラでは、次の電池・AC アダプタを使用することができます。用途にあわせてお選びください。

■ **リチウム電池パック**

オリンパス製リチウム電池パックCR-V3（LB-01）は、寿命が長く旅行などにも便利です。リチウム電池パックは、充電できません。

■ **充電式電池**

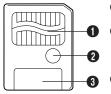
オリンパス製ニッケル水素電池（充電器セットBU-50SNH）は、撮影後に充電すると繰り返し使用できるので経済的です。また、低温にも強く、寒い地域でも有効です。

■ **アルカリ電池**

急に電池が必要になったときは、どこでも入手しやすい単3アルカリ電池を使用できます。ただし、銘柄や使用条件によって撮影可能枚数に大きな差が生じます。使用するときは、液晶モニタをこまめに切ってください。

■ ACアダプタ

画像をダウンロードするなど、時間がかかる作業を行なうには、ACアダプタをおすすめします。
家庭用コンセントを使う場合は専用のACアダプタ(C-7AC)が必要となります。専用のACアダプタ以外はご使用にならないでください。また、電源は必ず100Vでご使用ください。

注 意

●マンガン電池は使用できません。
●電池の寿命は、お使いの電池の種類、メーカー、カメラの使用条件などにより大きく異なります。
●電池を使用してカメラをパソコンに長時間接続しているとき、途中で電池残量がなくなると画像データにトラブルが生じることがあります。ACアダプタのご使用をおすすめします。ただし、パソコンとの接続中にはACアダプタを抜き差ししないでください。
●以下の条件では撮影をしなくても電力を消費するため、撮影可能枚数が減少することがあります。
  • 液晶モニタが点灯している。
  • 撮影モードでシャッターボタンの半押しをして、オートフォーカス動作を繰り返す。
  • ズーム動作を繰り返す。
  • フルタイムAFをオンにしている。
  • 再生モードで長時間、液晶モニタを点灯する。
  • パソコンとの通信時。
●「安全にお使い頂くために」およびACアダプタの取扱説明書をよくお読みください。
●カメラに電池が入っている場合も、ACアダプタから電力は供給されます。カメラ内の電池は充電されません。
●カメラの電源が入っているときに、電池やACアダプタを抜き差ししないでください。カメラに設定されている設定値や、機能にトラブルが生じる場合があります。

カードについて

このカメラで撮影した画像は、スマートメディアに記録されます。本書では、スマートメディアをカードと呼びます。

スマートメディアとは？

撮影した画像を記録するためのフィルムにあたるものです。スマートメディアに記録された画像は自由に削除したり上書きしたり、パソコンで加工することができます。

❶ **接触面（コンタクトエリア）**
カメラの信号読み取り接点が接触する部分です。

❷ **ライトプロテクトエリア**
書き込み禁止状態にしたいときは、ここに付属のライトプロテクトシールを貼ります。撮影に使用するときは、貼らないでください。

❸ **インデックスエリア**
カードに保存されている内容がわかるようにここに付属のラベルを貼ります。

使用できるスマートメディア

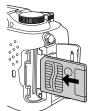
- 付属の16MBの標準カード
- 別売のオリンパス製カード（4・8・16・32・64・128MB）
- 市販の3V (3.3V)カード（4・8・16・32・64・128MB）

注 意

- 2MBのカードは使用できません。
- 市販の5Vカードは使用できません。
- オリンパス製以外の市販のカード（3V（3.3V））や、パソコンなどの他の機器でフォーマットしたカードは、このカメラで認識できないことがあります。お使いになる前に、必ずこのカメラでフォーマットしてください。(P. 31、139)

カードのお取り扱い上の注意

- 動作温度：0℃～55℃、保管温度：－20℃～65℃、
  動作・保管湿度：95%以下
- 保管時・携帯時は、静電気防止ケースに入れてください。
- カードを曲げたり、衝撃を与えないでください。
- カードの取扱説明書（付属）もお読みください。
- カードのコンタクトエリアには直接手を触れないでください。

カードを入れる/ 取り出す

1 カメラの電源が入っていないことを（モードダイヤルがOFFの位置）確認します。

2 カードカバーを開けます。

3 ■カードを入れる
接触面（コンタクトエリア）を液晶モニタ側にして、カードがカチッとはまるまで奥に押し込みます。

- カードが斜めに入らないように、まっすぐに押し込みます。
- カードを表裏逆にしたり、入れる向きを逆にして押し込むと、抜けなくなることがあります。

■カードを取り出す
カードを一度奥に向かって押し、取り出しやすい位置まで出てきたらつまんで引き抜きます。

4 カードカバーをカチッという音がするまで閉じます。

注意

- カメラ作動中やパソコンとの通信中には、絶対にカードカバーを開けたり、カードや電池を取り出したり、電源プラグを抜いたりしないでください。カード内のデータが破壊されることがあります。
- 破壊されたデータの復旧はできません。

電源を入れる／切る

1 レンズキャップのつまみを矢印のように押してレンズキャップを外します。

2 モードダイヤルをP、A/S/M/ MY 、 S-Prg または ▶ にします。
- 電源が入ります。
- モードダイヤルを ▶ 以外に設定していると、レンズがせり出してきます。

3 モードダイヤルをOFFにします。
- 電源が切れます。

ヒント

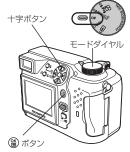
- 電源を入れたままで何も操作しないと、電池の消耗を防ぐため、カメラは3分でスリープモード（待機状態）に入ります。ズームレバーやシャッターボタンを操作すると動きます。

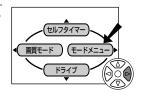
液晶モニタ画面

電源を入れたり切ったりしたとき、液晶モニタには画像が表示されます。このときの画像を自分で登録できます(P. 160)。

スタートアップ／
シャットダウン画面（初期設定）

カードチェック

電源を入れると、カードチェックが自動的に行われます。

表示	ヒント
カードを認識できません	**カードがカメラに入っていない、またはカードが奥までしっかりと入っていません。** → カードを入れます。すでにカードが入っているときは、いったんカードを取り出して入れ直します。
このカードは使用できません	**カードに問題があります。** → 新しいカードを使用します。
カードセットアップ 電源オフ フォーマット 選択 実行 OK フォーマット すべてのデータが消去されます フォーマット 中 止 選択 実行 OK	**カードがこのカメラのシステムでは読めません。** →カードのフォーマットを行います。 ① **十字ボタンの▽を押して「フォーマット」を選択し、OKを押します。** ●「フォーマット」画面が表示されます。 ② **△を押して「フォーマット」を選択し、OKを押します。** ● フォーマットが始まります。フォーマットが終わると、撮影できる状態になります。 ● フォーマットを行なうと、カード内のすべてのデータは消去されます。

日時の設定

カメラに内蔵されている時計の時間と日付の設定をします。
日時は撮影した画像と一緒に保存されますので、撮影前に正しく設定されているかを再度ご確認ください。

1 モードダイヤルをPにします。
- 電源を入れる前に、レンズキャップは必ず外しておきます。(P. 30)

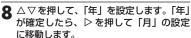
2 Ⓞを押します。
- 液晶モニタが自動的に点灯し、トップメニューが表示されます。

3 十字ボタンの▷を押して、「モードメニュー」を選択します。

4 ▽を押して「設定」タブを選択後、▷を押します。
- 設定メニュー項目が表示されます。

5 **△▽を押して「日時設定」を選択後、▷を押します。**

- 日時設定画面が表示されます。

6 **が選択されているときに、△▽を押して日付の順序を選択します。**

- 順序は
  日・月・年、
  月・日・年、
  年・月・日
  の中から選択します。
- この手順以降は、年・月・日に設定した場合の説明をします。

日時設定画面

7 **▷を押して、年の設定に移動します。**

8 **△▽を押して、「年」を設定します。「年」が確定したら、▷を押して「月」の設定に移動します。**

- 「分」までの設定を同様に繰り返します。
- ◁を押すと、ひとつ前の数値の設定位置に戻ります。
- カメラの時間表示は24時間表示を使用しています。たとえば、午後2時は14：00と表示されます。

「年」の上の2桁は固定されています。

9 OK を押します。

- 設定メニュー画面に戻ります。
- 0秒の時報に合わせ OK を押すと、正確に時間を合わせられます。時計はこのとき動き始めます。
- 再度 OK を押すと、メニューが消えます。

10 電源を切るときは、モードダイヤルをOFFにします。

- レンズが元の位置に戻ります。

注 意

- 電源を切っても、設定は変更するまで保存されます。
- 電池を抜いた状態で約1時間すると、設定した日付は解除されます(当社試験条件による)。この場合は再度日時の設定を行ってください。また、カメラに電池を入れていた時間が短い場合は、これよりも早く日付けが解除されます。

画面表示の言語の切り替え　AあÄ文

メニューなどの画面表示を日本語だけでなく、他の言語にすることもできます。日本語に戻すこともできます。

モードダイヤル設定 ＞ P ｜ A/S/M/My ｜ S-Prg ｜ ▶

■ 現在の画面表示が日本語の場合

1 トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「AあÄ文」を選択し、▷を押します。
- 言語選択画面が表示されます。

2 △▽を押して表示したい言語（下記参照）を選択し、Ⓞを押します。再度、Ⓞを押すとメニューが消えます。

☞ メニューの操作方法（P. 44）

メニューでの選択肢	画面表示の言語
日本語	日本語
ENGLISH	英語
FRANÇAIS	フランス語
DEUTSCH	ドイツ語

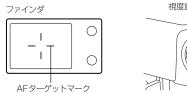
現在の画面表示が日本語の場合

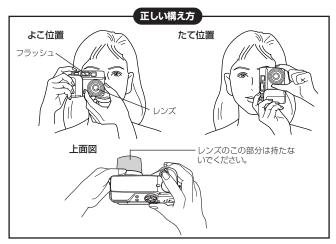
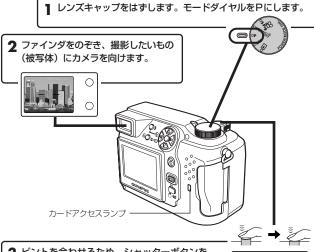
■ 現在の画面表示が日本語以外の場合（例：英語）

1 トップメニューから「MODE MENU」→「SETUP」→「AあÄ文」を選択し、▷を押します。
- 言語選択画面が表示されます。

2 △▽を押して表示したい言語（上記参照）を選択し、Ⓞを押します。再度、Ⓞを押すとメニューが消えます。

☞ メニューの操作方法（P. 44）

初期設定：日本語

現在の画面表示が英語の場合

視度調節～ファインダを見やすくする

視度調節ダイヤルをまわし、AFターゲットマークが鮮明に見える位置に合わせます。

カメラを構える

両手でしっかりカメラを持ち、脇をしっかりしめます。
レンズ、フラッシュに指やストラップがかからないようにご注意ください。ズームを使用したときは、画像がぶれやすくなるので、特に注意してください。

正しい構え方

よこ位置

フラッシュ

レンズ

たて位置

上面図

レンズのこの部分は持たないでください。

静止画を撮る　P

1 レンズキャップをはずします。モードダイヤルをPにします。

2 ファインダをのぞき、撮影したいもの（被写体）にカメラを向けます。

カードアクセスランプ

3 ピントを合わせるため、シャッターボタンを軽く押します。（半押し）

- ピントが合うと、緑ランプが点灯します。
  ☞ シャッターボタンの使い方(P. 62)

緑ランプ

4 撮影するには、シャッターボタンを半押しした状態から、さらにボタンを静かに押します。（全押し）

- フラッシュが必要な条件では、オレンジランプが点灯したらフラッシュは自動的に発光します。
- 緑ランプとカードアクセスランプが点滅し、カード記録が始まります。

注 意

- カードアクセスランプの点滅中には、絶対にカードカバーを開けたり、電池やカードを抜いたり、ACアダプタの電源プラグを抜いたりしないでください。今撮影した画像が記録されないだけでなく、記録済みの画像が破壊されるおそれがあります。
- 強い逆光などで撮影すると、画像の影の部分に色がつく場合があります。

ムービーを撮る

1 レンズキャップをはずします。モードダイヤルを S-Prg にします。

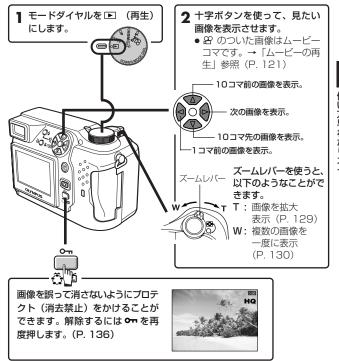
● S-Prg は、はじめは に設定されています。ムービーモードにするには、まず ボタンを押します。液晶モニタを見ながら、◁▷ を押して を選択し、OK を押します。

2 カメラを被写体に向けて、液晶モニタを見ながら構図を決めます。

3 シャッターボタンを半押しします。

● ファインダ横の緑ランプが点灯します。

4 シャッターボタンを全押しして、撮影を始めます。

● ムービー撮影中は、ファインダ横のオレンジランプが点灯し、液晶モニタの マークが赤く点灯します。

5 再度シャッターボタンを全押しして、撮影を終了します。

● カードアクセスランプが点滅して、カードへの記録がはじまります。

● 表示されている撮影可能時間が0になると、自動的に撮影を終了し、カードへの記録を始めます(P. 75)。

静止画を見る

1 モードダイヤルを ▶ （再生）にします。

2 十字ボタンを使って、見たい画像を表示させます。
- 🎥 のついた画像はムービーコマです。→「ムービーの再生」参照（P. 121）

10コマ前の画像を表示。
次の画像を表示。
10コマ先の画像を表示。
1コマ前の画像を表示。

ズームレバー

ズームレバーを使うと、以下のようなことができます。
T：画像を拡大表示（P. 129）
W：複数の画像を一度に表示（P. 130）

画像を誤って消さないようにプロテクト（消去禁止）をかけることができます。解除するには O┳ を再度押します。（P. 136）

注 意

●液晶モニタ点灯時は、3分以上何もカメラの操作をしないと、自動的に消灯します。再度、点灯させるには、 ◻ ボタンを押すか、いずれかのボタン操作をしてください。

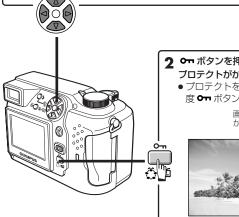
ムービーを見る

1 ムービー再生したいコマ（🎞 マークのついた画像）を表示しておきます。→P. 39の手順1、2参照

2 Ⓞ を押します。
- トップメニューが表示されます。

3 十字ボタンの△ を押して、「ムービープレイ」を選択します。

4 △または▽ を押して、「ムービープレイ」画面で「ムービー再生」を選択します。この画面から抜けるには、◁ を押します。

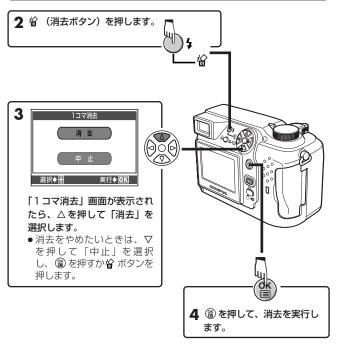
画像を誤って消さないようにプロテクト（消去禁止）をかけることができます。解除するには O-n を再度押します。（P. 136）

5 Ⓞ ボタンを押して、再生を開始します。
- 再生が終わると、ムービーの最初に戻ります。
- 再生終了後に、再び Ⓞ を押すと「ムービー再生」画面が表示されます。ムービー再生モードから抜けるには、△▽を押して「中止」を選択し、Ⓞ を押すと、ムービー再生モードから抜け、ムービープレイ画面に戻ります。

注 意

- カードアクセスランプが点滅しているときは、カードからカメラへの画像の読み出しが行われています。画像の読み出しには時間がかかることがあります。

画像にプロテクト（消去禁止）をかける ⊶

1 十字ボタンでプロテクトをかけたい画像を表示します。
→P. 39の手順1、2参照

2 ⊶ ボタンを押すと、その画像にプロテクトがかかります。

- プロテクトを解除するには、再度 ⊶ ボタンを押します。

画像にプロテクトがかかると表示されます。

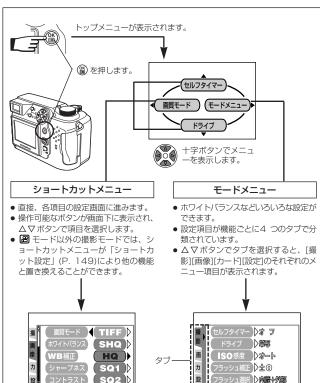
注 意

- プロテクトされた画像は、全コマ消去しても消されることはありませんが、フォーマットするとすべて消去されます。
- ライトプロテクトシールの貼ってあるカードには、プロテクト操作はできません。

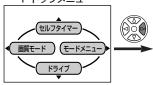
画像を消去する

1 消したい画像を表示しておきます。→P. 39の手順1、2参照

「1コマ消去」画面が表示されたら、△を押して「消去」を選択します。

- 消去をやめたいときは、▽を押して「中止」を選択し、OKを押すか消去ボタンを押します。

注 意

- プロテクトをかけた画像は、消去できません。
- 画像を消さないためのプロテクトシールがカードに貼られていたら、消去できません。

メニューについて

カメラの電源を入れて ㊖（OK/メニュー）を押したとき、液晶モニタに表示される画面をトップメニューと呼びます。カメラの各設定はメニューで行います。ここではPモードの画面を使って、メニューのしくみについて説明します。トップメニューはモードによって異なります。→モード別ショートカットメニュー(P. 46)

ショートカットメニュー

- 直接、各項目の設定画面に進みます。
- 操作可能なボタンが画面下に表示され、△▽ボタンで項目を選択します。
- 🎥 モード以外の撮影モードでは、ショートカットメニューが「ショートカット設定」(P. 149)により他の機能と置き換えることができます。

モードメニュー

- ホワイトバランスなどいろいろな設定ができます。
- 設定項目が機能ごとに4 つのタブで分類されています。
- △▽ボタンでタブを選択すると、[撮影][画像][カード][設定]のそれぞれのメニュー項目が表示されます。

メニューの操作方法

1 🆗 を押してトップメニューを表示します。▷ を押します。

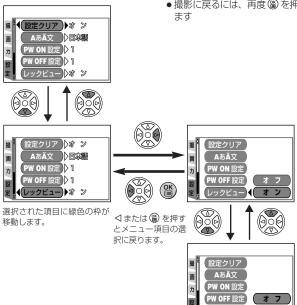
撮：撮影
ISO感度やデジタルズームなど、撮影時に使う機能。

画：画像
画質モードの設定やホワイトバランスの調整など、主に画像に関する機能。

カ：カード
カードのフォーマットなど、使用するカードに関する機能。

設：設定
日時設定やショートカット設定など、主にカメラの設定に関する機能。

2 △▽を押してタブを選択し、▷ を押します。

◁ を押すとタブの選択に戻ります。

3 △▽を押して設定する項目を選択し、▷を押します。

4 △▽を押して設定を変更します。㊋を押すと設定が完了します。

- 撮影に戻るには、再度㊋を押します

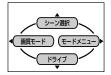
選択された項目に緑色の枠が移動します。

◁または㊋を押すとメニュー項目の選択に戻ります。

注意

- カメラの状態や設定内容などにより、使用できない項目は選択できません。
- 撮影時にメニューを表示した状態でシャッターボタンを押すと、そのとき選択されている設定で撮影することができます。
- 設定した機能を電源を切っても保持させておきたい場合は、「設定クリア」の機能を「オフ」に設定してください。☞設定クリア～設定を保持する(P. 143)

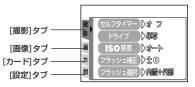
モード別ショートカットメニュー

Pトップメニュー

トップメニュー

トップメニュー

A/S/M/
トップメニュー

トップメニュー
(静止画)

トップメニュー
(ムービー)

セルフタイマー	セルフタイマー撮影をします。	P. 94
シーン選択	バーチャルダイヤル画面を表示して撮影モードを選択します。	P. 52
A/S/M/	バーチャルダイヤル画面を表示して撮影モードを選択します。	P. 53
画質モード	撮影する画像の画質を選択します。	P. 104
ドライブ	単写・連写・AF連写・BKT(ブラケット撮影)から選択します。	P. 95
デジタルズーム	光学ズームの最大倍率からさらに高倍率(最大約10倍まで)のズーム撮影が可能です。	P. 78
自動再生	カードに記録されている画像を、連続で再生します。	P. 120
ムービープレイ	撮影したムービーを再生します。またそのムービーの編集やインデックス作成をすることもできます。	P. 121
情報表示	撮影した画像の情報をすべて表示するか、最小限にするかを選択します。	P. 155
ヒストグラム表示	撮影した画像のヒストグラム(輝度分布)を表示します。	P. 157

タブとモードメニュー機能一覧（撮影）

撮影モードの場合、モードメニューのなかは4つのタブに分けられています。△▽を押してタブを選択すると、それぞれの機能が表示されます。

[撮影] タブ

セルフタイマー	セルフタイマー撮影をします。	P. 94
ドライブ	連写モードを単写・連写・AF連写・BKT（ブラケット撮影）から選択します。	P. 95
ISO感度	ISO感度を、オート、または100/200/400の中から選択できます。	P. 109
フラッシュ補正	被写体に合わせてフラッシュの発光量を増減できます。	P. 85
フラッシュ選択	外部フラッシュをご使用になる際、内蔵フラッシュと併用するか、または外部フラッシュのみで使用するかを選択します。	P. 176
スローシンクロ	遅いシャッター速度でフラッシュを発光させます。	P. 82
ノイズ リダクション	長時間露光時に、画像に発生するノイズを軽減します。	P. 118
マルチ測光	正確な露出を得にくい撮影条件（明暗の差が大きいときなど）でも、画面の明るさを最大8ヶ所まで測り、その平均値で適正露出を算出することができます。	P. 87
デジタルズーム	光学ズームの最大倍率からさらに高倍率（最大約10倍まで）のズーム撮影が可能です。	P. 78
フルタイムAF	シャッターボタンを半押ししなくても、カメラを向けている被写体に常にピントを合わせます。	P. 66

[撮影] タブ

項目	説明	ページ
AF方式	オートフォーカスの方式を、iESP方式またはスポット方式から選択できます。	P. 65
スーパーマクロ	被写体に約2cmまで近づいて撮影できます。	P. 93
パノラマ	カードのパノラマ機能を使って、パノラマ撮影ができます。	P. 99
合成ツーショット	連続して撮影した2枚の静止画を合成します。	P. 101
ファンクション撮影	モノクロやセピアカラーなどの画像撮影を楽しめます。	P. 103
AFターゲット選択	AFターゲットマークの位置を十字ボタンで移動することができます。	P. 67
撮影情報表示	撮影した画像の情報をすべて表示するか、最小限にするかを選択します。	P. 155
ヒストグラム表示	画像のヒストグラム（輝度分布）を表示します。	P. 157

[画像] タブ

項目	説明	ページ
画質モード	撮影する画像の画質を選択します。	P. 104
ホワイトバランス	光源に応じて、適切なホワイトバランスを設定できます。	P. 111
WB補正	手動による微妙なホワイトバランス設定が可能です。	P. 114
シャープネス	画像の鮮鋭度を調節します。	P. 115
コントラスト	画像のコントラスト（明暗の差）を調節します。	P. 116
彩度	色あいを変化させずに、色の濃さを調節します。	P. 117

[カード] タブ

項目	説明	ページ
カードセットアップ	カードをフォーマットします。	P. 139

[設定] タブ

項目	説明	参照
設定クリア	カメラの電源をオフにしたときに、設定内容を保持するかどうかを選択します。	P. 143
AあÄ文	画面表示の言語を選択します。	P. 35
PW ON設定	電源を入れたときに液晶モニタに表示されるスタートアップ画面の選択をします。	P. 159
PW OFF設定	電源を切ったときに液晶モニタに表示されるシャットダウン画面の選択をします。	P. 159
レックビュー	撮影した画像の記録中にその画像を表示するかどうかを選択します。	P. 158
ビープ音	カメラの操作音や警告音をオフにしたり、またその音量を設定できます。	P. 156
マイモード設定	MY モードで設定される機能をここで登録します。	P. 151
ファイル名メモリー	カメラ内に自動的に記録されるフォルダ名/ファイル名の付け方を選択します。	P. 161
ピクセルマッピング	CCDや画像処理機能のチェックをします。	P. 163
モニタ調整	液晶モニタの明るさを調節します。	P. 156
日時設定	日付と時間を設定します。	P. 32
m/ft設定	マニュアルフォーカス時に表示される長さの単位をメートル、またはフィートに切り替えます。	P. 164
ビデオ出力	再生に使うテレビの映像信号方式に合わせて、NTSCかPALを選択します。映像信号方式は国によって決まっています。	P. 165
ショートカット設定	お好みのメニュー機能をトップメニューに登録できます。	P. 148
カスタムボタン設定	カスタムボタンに機能を自由に設定できます。	P. 145

タブとモードメニュー機能一覧（再生）

静止画を再生しているとき、モードメニューのなかは3つのタブに分けられています。ムービーを再生しているときは、モードメニューのなかは2つのタブに分けられています。△▽を押してタブを選択すると、それぞれの機能が表示されます。[編集]タブは、ムービー再生時には選択できません。

静止画再生時

ムービー再生時

[編集] タブ

リサイズ	撮影した画像のサイズを変更して、別の画像として保存します。	P. 132
トリミング	撮影した画像の一部を拡大して、別の画像として保存します。	P. 133

[カード] タブ

カードセットアップ	カードをフォーマット、またはカード内の画像を全て消去します。	P. 139

[設定] タブ

設定クリア	カメラの電源をオフにしたときに、設定内容を保持するかどうかを選択します。	P. 143
AあÄ文	画面表示の言語を選択します。	P. 35
PW ON設定	電源を入れたときに液晶モニタに表示されるスタートアップ画面の選択をします。	P. 159
PW OFF設定	電源を切ったときに液晶モニタに表示されるシャットダウン画面の選択をします。	P. 159

[設定] タブ

画面登録	「PW ON設定」・「PW OFF設定」で選択する画面に、自分で撮影した画面を使用できるように登録します。	P. 160
ビープ音	カメラの操作音や警告音をオフにしたり、またその音量を設定できます。	P. 156
モニタ調整	液晶モニタの明るさを調節します。	P. 156
日時設定	日付と時間を設定します。	P. 32
ビデオ出力	再生に使うテレビの映像信号方式に合わせて、NTSCかPALを選択します。映像信号方式は国によって決まっています。	P. 165
インデックス表示	インデックス再生時の液晶モニタに一度に表示する画像の枚数を設定します。	P. 131

撮影モードの設定〜モードダイヤル

モードダイヤルを以下のモードのいずれかに設定します。

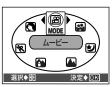
撮影モード：P、A/S/M/ 、

● 電源が入り、レンズが前に出てくるので、レンズキャップをはずしておきます。

● A/S/M/ と にすると、自動的に液晶モニタが点灯します。

モード設定

モードダイヤルを の位置にすると、次のなかから撮影モードを選択できます。モードは液晶モニタに表示するバーチャルダイヤル画面を使って選択します。

撮影モード：

ムービー撮影

セルフポートレート撮影

夜景撮影

風景撮影

記念写真撮影

スポーツ撮影

ポートレート撮影（初期設定）

☞ 撮影モードの種類(P. 54)

モードダイヤル設定 S-Prg

1 **モードダイヤルを に設定します。**

2 **（カスタム）ボタンを押して、バーチャルダイヤル画面（撮影モード選択画面）を表示します。**

3 **使いたいモードが中央に表示されるまで、◁ ▷ ボタンを繰り返し押します。 を押します。**

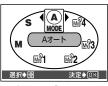
●バーチャルダイヤル画面が消えます。

バーチャルダイヤル画面

A/S/M/My モード設定

モードダイヤルをA/S/M/My の位置にすると、次のなかから撮影モードを選択できます。

撮影モード：

A 絞り優先撮影（初期設定）
S シャッター優先撮影
M マニュアル撮影
My1 マイモード撮影1
My2 マイモード撮影2
My3 マイモード撮影3
My4 マイモード撮影4

☞ 撮影モードの種類（P. 54）

モードダイヤル設定 ＞ A/S/M/My

1 モードダイヤルをA/S/M/My に設定します。

2 （カスタム）ボタンを押して、バーチャルダイヤル画面（撮影モード選択画面）を表示します。

3 使いたいモードが中央に表示されるまで、◁ ▷ ボタンを繰り返し押します。OK を押します。

- バーチャルダイヤル画面が消えます。

バーチャルダイヤル画面

撮影モードの種類

P　プログラム撮影
絞り値とシャッター速度はカメラが自動的に決めて、静止画を撮影します。フラッシュ発光モードやドライブモードなどのその他の機能は、自由に設定できます。

A/S/M/Ⓜ 絞り優先/シャッター優先/マニュアル 撮影／マイモード撮影
モードダイヤルをA/S/M/Ⓜにしたときの撮影モードの設定方法は、前ページをお読みください。

●A　絞り優先撮影
絞り値を自分で設定できます。シャッター速度は、カメラが自動的に設定します。絞り値（F値）を小さくすると、ピントの合う範囲が狭くなって、背景のぼけが強くなります。絞り値（F値）を大きくすると、ピントの合う範囲が前後に広くなって、背景にもピントが合いやすくなります。背景の描写に変化をつけたいときに、このモードをお使いください。
☞ 絞り値の設定（P. 58）

絞り値を（F値）を小さくする

絞り値を（F値）を大きくする

●S　シャッター優先撮影

シャッター速度を自分で設定できます。絞り値は、カメラが自動的に設定します。目的に応じて、シャッター速度を設定してください。
☞ シャッター速度の設定（P. 59）

シャッター速度を速くすると、すばやい動きをとらえて、止まっているように撮影します。

シャッター速度を遅くすると、動いているものは、ぶれて撮影されます。このぶれが躍動感や動きのある仕上がりになります。

●M　マニュアル撮影

絞り値とシャッター速度を自分で設定します。適正露出かどうかは、露出レベル表示で確認できます。このモードは、適正露出にとらわれることなく、独自の撮影意図を反映することができます。
☞ 絞り値とシャッター速度の設定（P. 60）

● My　マイモード撮影

メニューの「設定」内の「マイモード設定」で、各種の機能を自由に設定して登録しておくことができます。この撮影モードで電源を入れるたびにその設定で動作します。設定には、絞り値やズーム位置などがあります。露出モードは、P・A・S・M・S-Prgから選択します。機能の設定は、メニュー画面での選択になります。
「マイモード設定」は4つのパターンまで登録できます。ショートカットメニューも、PモードやS-Prgモードとは違った設定が可能です。
☞ マイモード設定（P. 151）

S-Prg　ムービー／シーンプログラム撮影

モードダイヤルを S-Prg にしたときの撮影モードの設定は、P. 52をお読みください。

4
撮影の基本

● 動画（ムービー）撮影

ムービーを撮影します。絞り値とシャッター速度は、カメラが自動的に決めます。露出はシャッターボタンを半押ししたときに決まります。音声は記録できません。

● セルフポートレート撮影

撮影者がカメラを持って、自分を撮るのに最適です。ピントは近くに合うようになっています。カメラが自動的にセルフポートレート撮影に適した条件を設定します。ズームはできません。

● 夜景撮影

夜の景色を撮るには最適です。通常の撮影よりも長いシャッター速度で撮影します。Pモードで街灯が輝く街の夜景を撮影すると、明るさが不足するので光っている点だけの画像になってしまいます。夜景撮影モードでは、街の様子も写し出します。カメラが自動的に夜景撮影に適した条件を設定します。夜景撮影時は、シャッター速度が遅くなりますので、カメラを三脚などで固定して撮影してください。

● 風景撮影

風景を撮るのに最適です。 近景から遠景までピントが合うように写します。また、青や緑の色をよりきれいに再現するので、自然のなかでの撮影には効果的です。カメラが自動的に風景撮影に適した条件を設定します。

● 記念写真撮影
人物と背景をいっしょに撮るのに最適です。近くの被写体と背景の両方にピントを合わせるように撮ります。カメラが自動的に記念写真に適した条件を設定します。

● スポーツ撮影
スポーツなどの動きのある被写体を撮るときには最適です。すばやい動きのものでも、止まっているように撮れるので、人物の表情など、被写体の様子も逃しません。カメラが自動的に撮影に適した条件を設定します。

● ポートレート撮影
人物撮影をするのに最適です。背景をぼかし人物だけにピントが合うようにすることで、人物を背景から浮き出させる効果があります。カメラが自動的にポートレート撮影に適した条件を設定します。

絞り値の設定～絞り優先撮影

モードダイヤル設定 ＞ A/S/M/Myp

1 P. 53の「A/S/M/Myp モード設定」にしたがって、Aを選択します。

2 絞りを絞る（F値を大きくする）には△を押します。

絞りを開く（F値を小さくする）には▽を押します。

緑の表示：
設定した絞り値で適正露出が得られる場合

赤の表示：
設定した絞り値では適正露出が得られない場合

■ 絞り値が赤く表示される
設定した絞り値では、適正露出（正しい露出）が得られません。
▼が表示される→▽を押して、絞り値を小さくします。
▲が表示される→△を押して、絞り値を大きくします。

設定範囲：F2.8～F11

注 意

●フラッシュがオート発光に設定されている際、シャッター速度は、ズームでもっとも広角側（W端）で1/30秒、もっとも望遠側（T端）で1/100秒よりも低速にはなりません。

4 撮影の基本

シャッター速度の設定～シャッター優先撮影

モードダイヤル設定 A/S/M/My

1 P. 53の「A/S/M/My モード設定」にしたがって、Sを選択します。

2 シャッター速度を速くするには△を押します。

シャッター速度を遅くするには▽を押します。

■ シャッター速度が赤く表示される

設定したシャッター速度では、適正露出が得られません。

▼が表示される→▽を押して、シャッター速度を遅くします。

▲が表示される→△を押して、シャッター速度を速くします。

シャッター速度選択範囲：
4～1/1000（秒）

絞り値とシャッター速度の設定～マニュアル撮影

モードダイヤル設定 A/S/M/My

1 P. 53の「A/S/M/My モード設定」にしたがって、Mを選択します。

2 絞りを絞る（F値を大きくする）には◁を押します。

シャッター速度を速くするには△を押します。

シャッター速度を遅くするには▽を押します。

絞りを開く（F値を小さくする）には▷を押します。

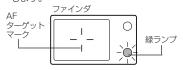
絞り値： F2.8～F11
シャッター速度： 16～1/1000（秒）

■ **露出状態**

- 設定されている絞り値とシャッター速度から算出される露出と、カメラが算出する適正露出との露出差が－3.0～＋3.0EVの範囲で、画面右上に表示されます。
- 露出差が－3.0EVよりも小さい、または+3.0EVより大きいときは、表示が赤くなります。
- ◎/⊡ *を押すと、右図のような露出状態を示すバーが表示されます。シャッターボタンを半押しすると、適正露出との差を表示します。＊AEロック設定時のみ

注 意

- シャッター速度を遅くする場合は、カメラ振れを防ぐために三脚のご使用をおすすめします。

お好みの撮影モードに設定～マイモード撮影

マイモードでは、メニューで選択した撮影モードで動作します。
選択した撮影モードや、機能の設定を記憶させておき、カメラをすぐにその状態に設定できます。また、現在使用している設定を、My モードで呼び出せるように記憶することができます。マイモードは4つのパターンまで登録できます。☞ マイモード設定(P. 151)

モードダイヤル設定 ＞ **A/S/M/My**

「A/S/M/My モード設定」(P. 53)の手順1～3をします。ただし、手順3では My1 、 My2 、 My3 、 My4 のいずれかを選択します。

注 意

- 現在使用している設定を、そのまま登録することができますが、ズームの位置は登録時の設定とズレが生じる場合があります。

4 撮影の基本

シャッターボタンの使い方

1 カメラを被写体に向けます。ファインダをのぞきながら、AFターゲットマークを被写体に合わせます。
シャッターボタンを静かに軽く押します。これを半押しといいます。

- ピントと画像の明るさ（露出）が固定されると、ファインダ横の緑ランプが点灯します。

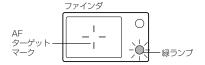
シャッターボタン

カードアクセスランプ

2 半押しした状態から、シャッターボタンをさらに押し込みます。これを全押しといいます。

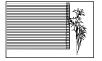
- 撮影が行われ、緑ランプが点滅します。
- P、A/S/M/ 、 、 、 、 、 、 、モードの場合：撮影した画像はカードへ記録されます。カードへの記録中は、カードアクセスランプが点滅します。
- モードの場合：ムービーの撮影が開始され、オレンジランプが点灯します。

3 モード（ムービー撮影のみ）
撮影を終わらせるために、もう一度シャッターボタンを全押しします。

- カードアクセスランプが点滅して、撮影した画像のカードへの記録が始まります。カードアクセスランプの点滅中は、次の撮影はできません。

ピント

オートフォーカス

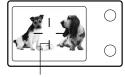
AFターゲットマークを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しすると、緑ランプが点灯します。これはピント合わせが自動的におこなわれたことを示しています。
もし、緑ランプが点滅したら、ピントは合っていません。その場合はマニュアルフォーカス(P. 68)・フォーカスロック(P. 64)をします。

ピントの合いにくいもの～オートフォーカスの苦手な被写体

ほとんどの被写体に対してオートフォーカスが可能ですが、以下❶～❸のような条件ではピントが合わず、緑ランプが点滅することがあります。また、❹、❺のような被写体では、緑ランプが点灯し、シャッターは切れてもピントが合わないことがあります。その場合は以下の方法で撮影するか、マニュアルフォーカス(P. 68)を使用してください。

❶ 明暗の差がはっきりしない被写体
被写体と同距離にある明暗の差（コントラスト）がはっきりしたものでフォーカスロック(P. 64)した後、元の構図に戻して撮影してください。

❷ 縦線のない被写体
カメラを縦位置に構えてフォーカスロック(P. 64)した後、構図を横に戻して撮影してください。

❸ 画面中央に極端に明るいものがある被写体
被写体と同距離にあるコントラストのはっきりしたものでフォーカスロック(P. 64)した後、元の構図に戻して撮影してください。

❹ **遠いものと近いものが混在する被写体**
緑ランプが点灯しても撮影したい被写体がぼけているときは、同じ距離にあるものでフォーカスロック(P. 64)してから元の構図に戻して撮影してください。

❺ **動きの速い被写体**
あらかじめ撮影したい被写体と同じ距離にあるものでフォーカスロック(P. 64)してから、元の構図に戻して撮影してください。

フォーカスロック～中央以外の被写体にピントを合わせる

AFターゲットマークを被写体に合わせていない構図では、撮影したい被写体にうまくピントを合わせることができないことがあります。このような場合は次の手順で撮影を行ってください。

モードダイヤル設定 P A/S/M/My S-Prg

1 ピントを合わせたいものにAFターゲットマークを合わせ、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。

同時に画像の明るさ（露出）も固定され、緑ランプが点灯します。

2 シャッターボタンを半押ししたまま、撮影したい構図に戻します。

3 シャッターボタンを全押しします。

● **緑ランプが点滅する。**
→ ピントと露出が固定されていません。いったん指をはなし、ピントを合わせる位置を少しずらして、緑ランプが点灯するまで、手順1を繰り返します。

● **ピント合わせをする構図と、露出を合わせたい構図が異なっている。**
→ AEロックを使います。(P. 90)

AF方式～ピント合わせの範囲を変える

被写体の焦点を合わせるエリアを選択します。

iESP　：画面の範囲内から、ピントを合わせる被写体を判断します。被写体が中央になくても、ピントを合わせることができます。

スポット　：AFターゲットマークで狙ったものを中心に、ピントを合わせます。

iESP

スポット

モードダイヤル設定 P A/S/M/My S-Prg

トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「AF方式」→「iESP」か「スポット」を選択し、OK を押します。再度、OK を押すとメニューが消えます。☞ メニューの操作方法(P. 44)

☞ メニューの操作方法(P. 44)

初期設定：iESP

注 意

- 動画 モードに設定していると、AF方式は選択できません。

フルタイムAF～ピント合わせの時間を短くする

シャッターボタンを半押ししなくても、常にレンズの前のものにピントを合わせます。この機能により、シャッターを押したときのピント合わせの時間を短縮することができます。「オフ」設定時は、シャッターを半押しするまでピントは合いません。

モードダイヤル設定 P A/S/M/My S-Prg

1 トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「フルタイムAF」→「オン」を選択し、OK を押します。再度、OK を押すとメニューが消えます。☞ メニューの操作方法(P. 44)

2 液晶モニタ（液晶モニタ）ボタンを押して、液晶モニタを点灯させます。
- 液晶モニタを点灯させていないときは、フルタイムAFは作動していません。

初期設定：オフ

注 意

- 動画 モードに設定していると、フルタイムAFの設定はできませんが、その機能はオンに固定されています。
- フルタイムAFを設定しているときは、電池寿命が短くなります。

AFターゲット選択〜AFターゲットマークの位置を変える

ピントを合わせたいエリアを、AFターゲットマークの位置を変えることで選択できます。

モードダイヤル設定 P A/S/M/My S-Prg

1 トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「AFターゲット選択」を選択します。▷ を押します。 ☞ メニューの操作方法(P. 44)

- AFターゲットマークの位置選択画面に変わります。

2 十字ボタンを押して、AFターゲットマークをピントを合わせたいエリアへ移動させます。

- AFターゲットマークは、画面中央から十字方向に移動できます。

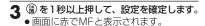
3 撮影します。

- AFターゲットマークの位置を解除するには、OK を押します。AFターゲットマークは中央に戻ります。
  もう一度 OK を押すと、AFターゲットマーク選択のモードから抜けます。

注 意

- 動画 モードに設定していると、AFターゲット選択はできません。
- AFターゲットマークを移動した状態を記憶しておくことはできません。

マニュアルフォーカス～ピントを自分で合わせる

オートフォーカスでうまくピントが合わないときは、手動でピント合わせができます。

モードダイヤル設定 P A/S/M/My S-Prg

1 **を1秒以上押し続けます。**
液晶モニタにマニュアルフォーカスの撮影距離の選択画面が表示されたら、▷ を押してMFを選択します。

2 **△▽を押して、撮影距離を選択します。**
- 操作中は、ピントを合わせている範囲が拡大表示されるので、実際の撮影範囲をチェックできます。液晶モニタの距離表示は、あくまで目安です。0.8m以下にカーソルを移動させると、自動的に20cm～80cmの目盛りになります。

3 **を1秒以上押して、設定を確定します。**
- 画面に赤でMFと表示されます。

4 **撮影します。**
- ピントは設定された距離で固定されます。

5 **MFを解除するときは、再度 ㊙ を1秒以上押して、撮影距離の選択画面を表示させます。**

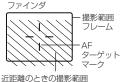
6 **◁ を押してAFを選択し、 ㊙ を押します。**
● マニュアルフォーカスが解除されます。

● **いつも同じピント位置で撮影したい。**
→ **フォーカスロックした距離に、MFを固定させることができます。**
❶ 距離を合わせたいものにAFターゲットマークを合わせて、シャッターボタンを半押しします。
❷ シャッターボタンを半押ししたまま ㊙ を押すと、撮影距離の選択画面が表示されます。このときMFが選択され、カーソルはフォーカスロックをした距離に設定されています。㊙ を押しているあいだは、ピントの合った範囲を拡大表示しているので、実際の撮影範囲をチェックできます。

● **MFを選択して距離表示でもっとも上にカーソルを合わせても、ピントが∞（無限位置）に合わない。**
→ 液晶モニタを見て、△▽を少しずつ動かして調整してください。

● **設定したのに、その距離が変わった。**
→ 設定した後でズーム操作をすると、設定距離が変わることがあります。再度、設定が必要です。

注 意

● 🎥 モードに設定していると、マニュアルフォーカスはできません。

ファインダを使って静止画を撮る

ファインダをとおして決めた構図よりも、やや広い範囲が撮影されます。

モードダイヤル設定 P A/S/M/My S-Prg

1 ファインダをのぞき、カメラを被写体に向けて、AFターゲットマーク中央に被写体を合わせます。構図を決めます。

- ファインダの撮影範囲フレームは、撮りたいものまでの距離が近づくにつれて、写る範囲が下に移動します。このような場合は、液晶モニタを使ってください。(P. 72)

2 シャッターボタンを半押しします。

- ピントと露出（画像の明るさ）が固定され、緑ランプが点灯します。
- オレンジランプが点灯したら、フラッシュが自動的に発光します。☞ フラッシュ撮影(P. 79)

3 シャッターボタンを全押しします。

- ファインダ横の緑ランプが点滅します。緑ランプの点滅が終わると、次の撮影ができます。
- カード記録中は、カードアクセスランプが点滅します。
- 16MBカード使用時の記録可能枚数
  画質モードがHQ（2288 x 1712）のとき：約16枚
  画質モードがSQ2（640 x 480標準）のとき：約165枚

カードアクセスランプ

ヒント

- **液晶モニタを使って撮影したい。**
  → （(液晶モニタ）ボタンを押すと、液晶モニタが点灯します（P. 73)。
- **緑ランプが点滅している。**
  → 被写体の条件によって、ピントや画像の明るさが固定されないことがあります。(P. 63)
- **撮影した画像をすぐに確認したい。**
  → レックビューをオンに設定すると、液晶モニタ上で画像を確認できます。(P. 158)

注意

- シャッターボタンは静かに押してください。シャッターボタンを強く押すとカメラが動き、画像がぶれる原因になります。
- 電源を切ったり電池の交換や取り外しを行っても、撮影した画像はカードに保存されています。
- カードアクセスランプの点滅中には、絶対にカードカバーを開けたり、電池やカードを抜いたり、電源プラグを抜いたりしないでください。今撮影した画像が記録されないだけでなく、記録済みの画像が破壊されるおそれがあります。

液晶モニタを使って静止画を撮る

液晶モニタを使うと、実際に写る範囲を確認しながら撮影できます。また、カメラのメモリゲージや絞り値、シャッター速度などの情報も確認できます。

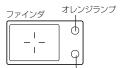
《ファインダと液晶モニタの特徴》

	ファインダ	液晶モニタ
長所	カメラがぶれにくく、周囲が明るくても写したものがはっきり見えます。電池の消耗が少ないです。	撮影する範囲を正しく確認できます。
短所	近くのものを撮影するとき、ファインダで見える範囲と撮影できる画像とのあいだにずれが生じます。	手振れが起こりやすく、周囲が明るいときや暗い場合では、見えにくいことがあります。電池の消耗が早くなります。
こんな撮影に	スナップや風景写真など、気軽につぎつぎと撮影したいときに。	実際に写る範囲を確認しながら、撮影したいときに。被写体が約80cm以内のとき（マクロ撮影）。

●ファインダで見た構図より、実際にはやや広い範囲が撮影されます。
●図のように写すものとの距離が近いと、実際に撮影される画面の範囲は、ファインダで見ている範囲と多少異なってきます。

モードダイヤル設定 P A/S/M/My S-Prg

1 （液晶モニタ）ボタンを押して、液晶モニタを点灯させます。

- A/S/M/My・S-Prg モードでは、自動的に液晶モニタが点灯します。

2 カメラを被写体に向けて、液晶モニタを見ながら、AFターゲットマークを被写体に合わせます。構図を決めます。

3 シャッターボタンを半押しします。

- 緑ランプが点灯します。この状態でカメラは適正な露出とピントを決定します。
- 液晶モニタの緑ランプが点灯します。
- オレンジランプが点灯すると、フラッシュは自動的に発光します。☞ フラッシュ撮影 (P. 79)

4 撮影の基本

4 **シャッターボタンを全押しします。**
- メモリゲージの一番下が点灯し、カードアクセスランプが点滅して、カード記録が始まります。

ヒント

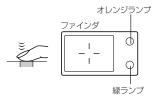
- **液晶モニタが点灯しない。**
  → 3分以上何も操作をしないと、液晶モニタは消灯します。シャッターボタンやズームレバーを操作すると再び点灯します。
- **液晶モニタが見にくい。**
  → 晴天下のように明るい場所で液晶モニタを見たときに、液晶モニタの画像に縦スジが入ることがあります。この場合は、ファインダをお使いください。
- **液晶モニタを明るく／暗くしたい。**
  →「モニタ調整」で設定します(P. 156)。
- **ピントの合っている範囲を確認したい。**
  → シャッターボタンを半押ししているあいだ、液晶モニタボタンを押すと、ピントの合っている範囲が拡大表示されます。もう一度液晶モニタボタンを押すと、画面はもとに戻ります。また、途中でシャッターボタンを放しても、画面はもとに戻ります。（右記イラスト参照）デジタルズーム領域では拡大できません。

- **液晶モニタよりファインダを使う撮影のほうが、カメラぶれが起こりにくいです。**
- **「ファインダを使って静止画を撮る」の「ヒント」(P. 71)もお読みください。**

注 意

- 液晶モニタを使用すると、ファインダを使って撮影するよりも電池を消耗します。
- 明るい被写体にレンズを向けると、液晶モニタの画像にスミア（白い帯状の縞）が見られる場合があります。しかし、撮影画像への影響はありません。

ムービー（動画）を撮る 🎥

モードダイヤル設定 > S-Prg

1 P. 52の「S-Prg モード設定」にしたがって、🎥（ムービー）を選択します。

2 カメラを被写体に向けて、AFターゲットマークを被写体に合わせます。構図を決めます。

- 液晶モニタが自動的に点灯します。
- 🎥 モードにセットすると、使用されているカードで記録できる撮影可能秒数の合計が表示されます。

3 シャッターボタンを全押しして、撮影を始めます。

- 撮影が始まると、連続して記録できる撮影可能時間が表示されます。
- オレンジランプが点灯します。
- ムービー撮影中は、🎥 マークが赤く点灯します。

撮影可能秒数＊

＊ 表示される撮影可能時間は、1回のシャッターボタンの全押しで、連続して撮影できる時間です。カードに記録できる全時間ではありません。

4 **再度シャッターボタンを全押しして撮影を終了します。**

- カードアクセスランプが点滅して、カードへの記録が始まります。
- カードアクセスランプの点滅が終わると、カードへの記録は終わりです。カードに空き容量があれば、撮影可能秒数が表示され、次の撮影ができます。
- 表示されている撮影可能時間まで撮影を続けると、終了のためにシャッターボタンを押さなくても自動的に撮影を終了し、カードへの記録を始めます。

ヒント

● **撮影ができない。**

→ カードアクセスランプの点滅中は、次の撮影はできません。

→ メモリーゲージが点灯していませんか？点灯中はカードへの記録を行っています。メモリーゲージが全て消灯するまで待って、次の撮影に進んでください。

注 意

- 🎥 モードでは、フラッシュは使用できません。

ズーム～望遠や広角撮影をする

ズーム倍率3倍（光学ズーム、35mmカメラ換算：32mm～96mm）まで、望遠や広角撮影が行えます。デジタルズームと組み合わせて使用すると最大約10倍相当（静止画撮影時）の撮影が可能です。

広角:ズームレバーをW側にしたとき

ズームレバー

望遠:ズームレバーをT側にしたとき

デジタルズーム

モードダイヤル設定 P A/S/M/My S-Prg

1 トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「デジタルズーム」→「オン」を選択し、OK を押します。再度、OK を押すとメニューが消えます。
☞ メニューの操作方法(P. 44)

2 ズームレバーをT側にまわします。
- ズームバーが表示されます。

初期設定：オフ

注 意

- モードでは、ズームはできません。
- スーパーマクロがオンに設定されていると、ズームは使えません。
- モードでは、デジタルズームの倍率は最大2.5倍になります。
- デジタルズームの領域で撮影すると、画質が粗くなる場合があります。
- 高倍率になるほど手ぶれが起こりやすくなります。手ぶれ防止のため、三脚を使うなどして、カメラを固定してください。

フラッシュ撮影

撮影状況・目的に合わせてフラッシュモードをお選びください。被写体にあわせてフラッシュの発光量を補正することもできます（P. 85）。

フラッシュモードには、次の種類があります。

オート発光

暗いときや逆光のときに、自動的に発光します。

赤目軽減発光 ◉

本発光の前に10数回予備発光を行い、目が赤く写ってしまう現象を起こりにくくします。予備発光をする以外はオート発光と同じです。

目が赤く写ります。

注 意

- 最初のフラッシュ発光からシャッターが切れるまで、約1秒かかりますので、途中で動かさないようカメラをしっかり構えてください。
- フラッシュを正面から見ていない場合、予備発光を見ていない場合、被写体までの距離が遠い場合や、個人差により、赤目軽減の効果が現れにくくなります。

強制発光 ϟ

必ず発光させたいときに。
木かげなどで顔にかかった陰をやわらげるときや、逆光、蛍光灯などの人工照明下での撮影のときなどに使います。

注 意

- 非常に明るい状況下では効果があらわれにくくなることがあります。

発光禁止

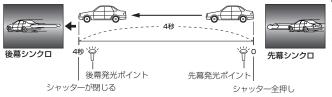
暗いところでも発光させたくない時に。このモードでは暗くてもフラッシュは光りません。美術館などのように、フラッシュを使えない場所や夕景・夜景などを撮影するときに使います。

注意

●暗いところの撮影ではシャッター速度が長くなりますので、カメラぶれを防ぐため三脚のご使用をおすすめします。

スローシンクロ SLOW1 SLOW2 SLOW

遅いシャッター速度でフラッシュを発光させます。通常のフラッシュ撮影では、手ぶれを防ぐためシャッター速度が遅くならないように設定されています。このとき夜景などをバックに撮影すると、背景はフラッシュの光が届かないため、暗くつぶれてしまいます。遅いシャッター速度で背景を写し込むことができ、被写体と背景を両方撮影することができます。シャッター速度が遅いので、背景がぶれないように三脚などでカメラを固定してください。

■ 先幕効果（先幕シンクロ、初期設定）：⚡ SLOW1
シャッター速度にかかわらず、シャッターが開いた瞬間（直後）にフラッシュを光らせます。

■ 後幕効果（後幕シンクロ）：⚡ SLOW2
シャッターが閉じる直前にフラッシュを光らせます。フラッシュを発光させるタイミングを変えることで、夜間走行中の車のテールライトが後方に流れる様子を表現するなど、作画に変化をつけることができます。シャッター速度がより遅いほうが効果的です。
もっとも遅いシャッター速度は、撮影モードにより異なります。
Mモード　　：16秒
P/A/Sモード　：4秒（設定されているISO感度により変わります）

シャッター速度が 4 秒に設定されたとき

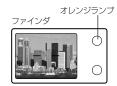
■ 赤目・先幕効果：👁 ⚡ SLOW
スローシンクロを使ってフラッシュ撮影をしながら、赤目軽減発光も使いたいときに「赤目・先幕効果」を選択します。
例えば、夜景などの暗い被写体を背景にして人物を写すと、赤目現象が出やすくなります。この機能では、後幕シンクロでは予備発光から撮影までが長くなり赤目軽減効果が得られにくいため、先幕シンクロのみの設定となります。

スローシンクロを設定する

モードダイヤル設定 P A/S/M/My S-Prg

トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「スローシンクロ」→モード（先幕効果、赤目・先幕効果または後幕効果）を選択し、Ⓞを押します。再度、Ⓞを押すとメニューが消えます。☞ メニューの操作方法 (P. 44)

フラッシュを使う

モードダイヤル設定 P A/S/M/My S-Prg

1 使いたいフラッシュモードの表示が出るまで、繰り返し ϟ（フラッシュモード）ボタンを押します。

- 液晶モニタが点灯します。
- フラッシュモードの表示は、次のように切り替わります。（全モード設定可能の場合）

- 何も操作をしない状態が約2秒経過すると、選択表示は自動的に消えます。

2 シャッターボタンを半押しします。
● フラッシュが発光する前には、オレンジランプが点灯します。

3 シャッターボタンを全押しします。
● フラッシュが発光します。

フラッシュの到達距離
広角時：約0.8m～3.6m
望遠時：約0.2m～3.6m

モードによる機能制限

モード / フラッシュモード	P	A/S/M/My				S-Prg	
		A	S	M	My ＊	動画	S-Prg
オート発光	○	○	—		○	—	○
赤目軽減発光	○	○	—		○	—	○
強制発光	○	○	—		○	—	○
先幕効果	○	○	○		○	—	○
後幕効果	○	○	○		○	—	○
赤目・先幕効果	○	○	—		○	—	○
発光禁止	○	○	○		○	○	○

○：設定可、—：設定不可　▭：初期設定

＊ 初期設定と設定できるモードは、選択した撮影モードによって変わります。P・A・S・M・S-Prgモードの欄をご覧ください。

ヒント

● **フラッシュが発光しない。**
→次の場合は発光しません。
被写体が明るいとき・ムービー撮影モード・スーパーマクロモード（P. 93）・連写＊（P. 95）・AF連写＊（P. 95）・オートブラケット撮影（P. 96）・ファンクション撮影の白板・黒板モード(P. 103)・パノラマ撮影（P. 99）
＊赤目軽減発光と赤目・先幕効果発光は使えません。

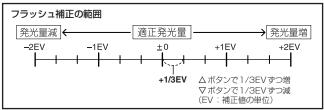
● **オレンジランプまたは ϟ （フラッシュ発光予告）マークが点滅した。**
→フラッシュは充電中です。いったん、シャッターボタンから指をはなし、点滅が終わってから撮影します。

● **フラッシュ自動発光時のシャッター速度について（オート発光・赤目軽減発光・強制発光）**
オレンジランプまたは ϟ （手ぶれ警告マーク）が点灯するとフラッシュは自動発光しますが、シャッター速度はその時点の秒時（最も遅い秒時）に固定され、それより遅くはなりません。また、固定される秒時はズームの位置によって変わります。

ズーム位置	シャッター速度
W端	1/30秒
T端	1/100秒

注 意

●マクロ撮影時、特にズームがW（広角）側にあるときは、画面内で光の量がムラになることがあります。撮影後、必ず再生して確認してください。
●コンバージョンレンズ使用時は、フラッシュは使用できません。

フラッシュ補正

フラッシュの発光量を増減することができます。
撮影する被写体が小さい、被写体の背景が遠いなど、場合によってはフラッシュの発光量を調節した方がよいときがあります。また、明暗差（コントラスト）を意図的につけたいといった場合にも、この機能が便利です。

モードダイヤル設定 P A/S/M/My S-Prg

トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「フラッシュ補正」を選択し、発光量を多くするには、△を押し、減らすには、▽を押します。設定が決まったら、Ⓞ を押します。 **☞ メニューの操作方法（P. 44）**

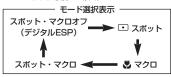
初期設定： ±0

注 意

●シャッター速度が速い場合は、フラッシュ発光量補正の効果が十分に得られないことがあります。

測光モード～被写体の明るさを測る

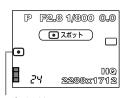
被写体の明るさを測る方法には、デジタルESP測光・スポット測光・マルチ測光の3種類があります。

デジタルESP測光： 画面の中央部と周辺部を別々に測光し、演算して最適な露出を求めます。

スポット測光： 下記参照。

マルチ測光： P. 88を参照。

スポット測光～測光の範囲を選択 ⊡

AFターゲットマークの範囲を測光し、露出を決定します。逆光などで被写体が暗くなるときに、背景の光などに影響されることなく、被写体を適正露出で撮影できます。マクロ撮影の範囲内でも、スポット測光はできます（スポット測光＋マクロモード）。

モードダイヤル設定 P A/S/M/My S-Prg

1 **⊡ スポットまたはスポット・マクロが表示されるまで、🌷/⊡ （マクロ／スポット）ボタンを繰り返し押します。**

- 液晶モニタが点灯します。
- 表示は次のように切り替わります。（全モード設定可能の場合）

🌷 ☞ マクロモード（P. 92）

- 何も操作をしない状態が約 2 秒経過すると、選択表示は自動的に消えます。

🌷/⊡ ボタン

P F2.8 1/800 0.0
⊡ スポット
HQ
24 2288x1712

スポット測光

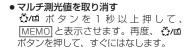
2 **撮影します。**

初期設定： デジタルESP

注 意

- 強い逆光などで撮影すると、画像の影の部分に色がつく場合があります。

マルチ測光〜画面の複数の位置の露出を測る

明暗の大きい被写体などで適正露出が出にくい場合、被写体の数カ所（最大8回まで）を測光し、その平均値で撮影条件を決めます。Mモードと🎥モードではマルチ測光はできません。

モードダイヤル設定 P A/S/M/My S-Prg

■ マルチ測光を設定する

1 カスタム/プリント ボタンにAEロックを登録します。☞ カスタムボタンに機能を登録する(P. 146)

2 マクロ/スポット（マクロ/スポット）ボタンを押して、スポット測光モードにします。(P. 86)

3 トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「マルチ測光」→「オン」を選択し、OKを押します。再度、OKを押すとメニューが消えます。☞ メニューの操作方法(P. 44)

■ マルチ測光を使う

1 露出を測りたいところにAFターゲットマークを向け、 ボタンを押します。最大8箇所まで測光することができます。

- 液晶モニタにマルチ測光を示すバーが表示されます。
- 9回目以降の操作は、無視されます。

- **マルチ測光値を取り消す**
  ボタンを1秒以上押して、MEMO と表示させます。再度、 ボタンを押して、すぐにはなします。

2 撮影します。

例： 2つのポイントを測光した場合（ ボタンを2回押した場合）

2回の測光の平均値から算出されたシャッター速度／絞り値。さらにポイントを測光して、平均値を出すたびに、ここの数値は更新されます。

2回の測光の平均値。バーの中央は、常に測光したポイントの平均値を示します。

レンズを向けている被写体を測光して、平均値との差を表示します。シャッターボタンを半押しすると、測光値は固定され、このマークは止まります。（ を押さないと、平均値の計算にはこの値は含まれません。）

を押したポイントの測光値。◆の数は、押した回数分表示されます。測光値と平均値との差の分だけ、バーの中央から離れた位置に◆が表示されます。

平均値を示すバーの中央から、◆が±3以上離れると、◁ ▷ が赤く表示されます。

モードによる機能制限

P	A/S/M/My				S-Prg	
	A	S	M	My *	映像	S-Prg
○	○		−	○	−	○

○：設定可、−：設定不可

● **マルチ測光ができない。**
→デジタルESPでは、できません。 スポットまたはスポット・マクロに設定してください。

● **マルチ測光値を撮影後も記憶させたい（AEメモリ）**
→「マルチ測光を使う」の手順１で必要回数 ボタンを押したら、再度、 ボタンを１秒以上押します。
MEMO と表示されます。 MEMO が表示されている間は、露出は記憶されています。

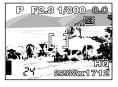
注 意

●途中で以下のボタンを操作すると、マルチ測光値は取り消されます。
モードダイヤル、（フラッシュモード）ボタン、 （マクロ/スポット）ボタン、 ボタン

AEロック〜露出を固定する

被写体のコントラストが強いときなど、適正露出が得られないときに使います。例えば、空を広くとり込んだ構図で撮影すると、被写体が暗くなってしまうことがあります。その場合、空をはずした構図にして ボタンを押し、測光値を一時的にロックします（露出を固定します）。その後、空を入れた構図に戻して撮影します。露出を合わせたい構図と撮影したい構図が、異なるときに使える機能です。

モードダイヤル設定 P A/S/M/My S-Prg

■ AEロックを設定する

1 ボタンにAEロックを登録します。
カスタムボタンに機能を登録する(P. 146)

- マルチ測光(P. 87)はオフにします。オンだとAEロックはできません。

ボタン

■ AEロックを使う

Mモードと モードでは使用できません。

1 測光値をロックしたい（露出を固定したい）構図にして、 ボタンを押します。

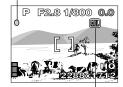
- 液晶モニタが点灯します。
- AEロックをやめるには、再度 ボタンを押して、すぐにはなします。もう一度違った露出を固定したいときは、再度構図を決めて ボタンを押します。押すたびに、ロックと解除が繰り返されます。

AEロック中は AEL と表示されます。

2 **ピントを合わせたいものにAFターゲットマークを合わせ、シャッターボタンを半押しします。**
- 緑ランプが点灯します。
- シャッターボタンの半押し中は、AEロックを解除できません。

3 **シャッターボタンを全押しします。**
- 撮影後AEロックは解除され、AEL の表示は消えます。

モードによる機能制限

P	A/S/M/My				S-Prg	
	A	S	M	My ＊	動画	S-Prg
○	○		−	○	−	○

○：設定可、−：設定不可
＊ Mモードのときは、使用できません。

ヒント

- **ロックした測光値を撮影後も記憶させたい（AEメモリ）。**
  →「AEロックを使う」の手順1か2のあとで、 ボタンを1秒以上押します。MEMO と表示されます。 MEMO が表示されている間は、露出は記憶されています。AEメモリを解除するには、 ボタンを押してすぐにはなします。
- **AEロックができない。**
  → メニューが表示されています。メニューから抜けてください。（P. 44）
  → マルチ測光がオンになっています。オフに設定します。(P. 87)
- **AEロックをしていたのに、解除されてしまった。**
  → モードダイヤルをまわし、カメラのモードを変えた。
  → 電源を一度切ったり、カメラがスリープ状態から復帰したときは解除されます。
  → スポット測光／マクロモード・ドライブモード・フラッシュモードが変更されています。
  → OK ボタンを押してメニューを表示させた。

マクロ撮影～近くのものを撮る

通常の撮影では、近接した被写体にピント合わせをするのに時間がかかりますが、🌷（マクロ）モードにすると近接撮影のピント合わせが早くできます。🌷モードでは、ズームをもっとも広角(W)側にして、被写体に20cmの距離まで近づいて、名刺サイズをほぼフレームいっぱいに撮影できます。
被写体をクローズアップするときに、画面中央部（AFターゲットマークの範囲）を測光し、被写体を適正露光で撮影すると、きれいな画像が撮れます(スポット測光＋マクロモード)。☞ スポット測光(P. 86)
被写体の距離が近いと、ファインダ内の画像と実際に写る範囲にずれが生じます。液晶モニタを使って撮影することをおすすめします(P. 72)。

通常撮影で撮った画像

マクロで撮った画像

モードダイヤル設定 P A/S/M/My S-Prg

1 **🌷マクロまたはスポット・マクロが表示されるまで、🌷/⊡（マクロ／スポット）ボタンを繰り返し押します。**

- 液晶モニタが点灯します。
- 表示は次のように切り替わります。（全モード設定可能の場合）

- 何も操作をしない状態が約2秒経過すると、選択表示は自動的に消えます。

2 **撮影します。**

🌷/⊡ ボタン

マクロモード

撮影距離（cm）
通常撮影領域　：80～∞
マクロ撮影領域：20～80
初期設定：デジタルESP

スーパーマクロモード

スーパーマクロに設定すると、被写体に約2cmまで接近して撮影できます。スーパーマクロモードのままでも通常の撮影をすることはできますが、ズーム位置は自動的に固定され変更することはできません。

モードダイヤル設定 P A/S/M/My S-Prg

OK ボタン

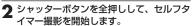
1 **トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「スーパーマクロ」を選択します。▷ を押します。****☞ メニューの操作方法(P. 44)**
- スーパーマクロ画面が表示されます。

2 **△▽を押して「オン」を選択し、OK を押します。再度、OK を押すとメニューがきえます。**

3 **撮影します。**
- スーパーマクロモードでは、液晶モニタが自動的に点灯します。

初期設定：オフ

注 意

- スーパーマクロ撮影では、内蔵フラッシュは使えません。外部フラッシュは使えます。ただし、フラッシュ使用時はフラッシュの光りがけられる場合がありますので、撮影した画像を液晶モニタでチェックしてください。

セルフタイマー撮影

セルフタイマーを使って撮影できます。三脚を使って記念写真を撮るときなどに便利です。カメラを三脚にしっかり固定して撮影して下さい。

モードダイヤル設定 P A/S/M/My S-Prg

1 トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「セルフタイマー」→「オン」を選択し、Ⓞ を押します。再度、Ⓞ を押すとメニューが消えます。

メニューの操作方法(P. 44)

- 「セルフタイマー」がトップメニューに表示されている場合、「セルフタイマー」のそばに示されている矢印と同じ方向の十字ボタン（△、◁、▽）を押します。モードメニューにアクセスしなくても、セルフタイマーの設定が同様にできます。

2 シャッターボタンを全押しして、セルフタイマー撮影を開始します。

- セルフタイマーランプが約10秒間点灯し、さらに約2秒間点滅した後シャッターが切れます。
- 作動中のセルフタイマーを止めるには、Ⓞ ボタンを押します。セルフタイマーは停止し、セルフタイマーランプが消灯します。
- ムービーの場合、上記の約12秒間が経過した後、撮影が開始されます。ムービー撮影を終えるには、再度シャッターボタンを押します。

注 意

- セルフタイマーモードは、設定クリア（P. 143）がオフになっていても、電源を切ると保持されません。
- セルフタイマーモードは、撮影が終わると自動的に解除されます。
- セルフタイマーを使ってムービー撮影をした場合、連続撮影可能時間まで撮りきると撮影は自動的に終了します。
- 静止画撮影モード（P、A/S/M/My、、、、、、）のセルフタイマー撮影では、連写に設定されていると自動的に5コマ撮影します。

連写機能

連続撮影（連写）には、連写・AF連写・オートブラケットの3種類がありま す。連写は、メニューのドライブモードを切り換えることで設定できます。

ドライブモード

単写	：一度のシャッターボタンの押しで、1コマだけ撮影されます。（通常の撮影モード、1コマ撮影）
連写	：最初の1コマで、ピント・明るさ（露出）・ホワイトバランスが固定されます。（下記参照）
AF連写	：1コマごとに、ピントが測定され、固定されます。連写速度は遅くなります。（下記参照）
BKT	：オートブラケット撮影（P. 96）

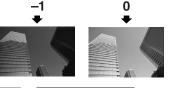
連写・AF連写をする

モードダイヤル設定 P A/S/M/My S-Prg

1 **トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「ドライブ」→「連写」か「AF連写」を選択し、OK を押します。再度、OK を押すとメニューが消えます。**

メニューの操作方法(P. 44)

2 **撮影します。**

- シャッターボタンを全押ししている間は連写が続きます。指をはなすと連写は止まります。
- 連写速度(HQモード)：約1.5コマ／秒、連写可能枚数：最大8枚

注 意

●P. 97の「モードによる機能制限」とP. 98の「注意」をお読みください。

オートブラケット撮影 ～1コマごとに露出を自動的に変えて連写する　BKT

状況によっては、カメラが算出する最適な露出で撮影するより、露出を補正して撮影をするほうが、良い仕上がりになる場合があります。オートブラケット撮影が設定されると、一度のシャッターボタンの全押しで1コマごとに自動的に露出を変えて撮影できます。変化させる露出差は、メニューで選択します。ピントとホワイトバランスは最初の1コマで固定されます。

例：BKT設定が±1.0、X3 の場合

モードダイヤル設定　P　A/S/M/My　S-Prg

1 トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「ドライブ」→「BKT」を選択します。▷ を押します。
☞ メニューの操作方法(P. 44)

2 △▽を押して、コマごとの明るさ（露出）の段階（±0.3、±0.7、±1.0）を選択し、▷ を押します。

5
撮影の応用

3 **△▽を押して、撮影枚数（x3、x5）を選択し、㊗を押します。**
- 画像サイズと画質の組み合わせにより、x3しか選択できない場合があります。

4 **撮影します。**
- 設定枚数の撮影が終わるまで、シャッターボタンを全押しし続けます。途中でやめるときは、シャッターボタンをはなします。

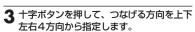
モードによる機能制限

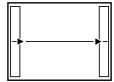
モード / ドライブモード	P	A/S/M/My				S-Prg	
		A	S	M	My*	動画	S-Prg
単写	○	○		○	○	―	○
連写	○	○		○	○	―	○
AF連写	○	○		○	○	―	○
BKT	○	○		―	○	―	○

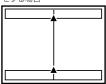
○：設定可、―：設定不可、▭：初期設定

＊ 設定できるモードは、選択した撮影モードによって変わります。P・A・S・M・S-Prgモードの欄をご覧ください。

注 意

- 以下の設定では、連写・AF連写・BKTはできません。
  - 画質モードがTIFF（P. 104）やSHQのプリント拡大（P. 108）
  - ノイズリダクションの設定がオン（P. 118）
- 連写モード時は（連写・AF連写・BKT)、内蔵フラッシュは発光しません。
- オートブラケット撮影では、カードの空きが設定枚数以上ないと、続けて次の撮影をすることはできません。
- 静止画撮影モード（P、A/S/M/、、、、、、）のセルフタイマー撮影では、連写に設定されていると自動的に5コマ撮影します。
- ISO感度設定を200以上に設定して撮影すると、条件によっては画像にノイズが写ることがあります。(P. 109)
- 連写中に、電池を消耗して電池残量マークが点滅したら、撮影を中止してカードに記録を始めます。電池の状態によっては、すべての画像を記録できない場合があります。
- シャッター速度は手ぶれを抑えるため最長1/30秒に設定されています。そのため暗い被写体では露出不足の画像になります。
- 外部フラッシュ使用時は、フラッシュ側を連写速度に追従できる設定にしてください。

パノラマ撮影

オリンパス標準カードとCAMEDIA Masterを組み合わせて使うと、パノラマ撮影が簡単に楽しめます。
被写体の端が重なるようにして撮影した何枚かの画像を、CAMEDIA Masterでつなぎ合わせ、一枚のパノラマ合成画像を作成することができます。

1 **トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「パノラマ」を選択します。** ☞メニューの操作方法(P. 44)

2 **▷ を押します。**
- パノラマ撮影モードになります。

3 **十字ボタンを押して、つなげる方向を上下左右4方向から指定します。**
- つなげる方向が表示されます。

左から右へ画像をつなぐ撮影をする場合

下から上へ画像をつなぐ撮影をする場合

4 被写体の端が重なるようにして、撮影します。

- ピント・露出・ホワイトバランスは1枚目で決定されます。一枚目の撮影には、太陽を入れた被写体などを選ばないでください。
- 1枚目を撮影した後は、ズーム操作はできません。
- 最大10枚までのパノラマ撮影が可能です。

この端の枠に前に撮影した画像の合わせるべき部分は、残っていません。撮影時には、枠の位置の画像を覚えていて、次のコマの枠の画像と同じになるよう気を付けてください。前に撮影した画像の右端（左回りのときは左端）は、同じ画像が撮影できるように構図を設定して撮影してください。

5 パノラマ撮影を終わるときは、OK ボタンを押します。

- 画面内の枠が消えて、通常の撮影モードに戻ります。

モードによる機能制限

<table>
<tr><td rowspan="2">P</td><td colspan="4">A/S/M/MY</td><td colspan="2">S-Prg</td></tr>
<tr><td>A</td><td>S</td><td>M</td><td>MY＊</td><td>ムービー</td><td>S-Prg</td></tr>
<tr><td>○</td><td colspan="3">—</td><td>○</td><td>—</td><td>ポートレート では設定不可</td></tr>
</table>

○：設定可、—：設定不可

＊ 設定可能かどうかは、選択した撮影モードによります。P・A・S・M・S-Prgモードの欄をご覧ください。

注 意

- パノラマ撮影では、フラッシュは発光しません。
- 10枚撮り終えると、警告画面が出ます。
  それ以上は撮影できません。

- オリンパス製の標準カード以外のカードでは、パノラマモードは使えません。
- パノラマ合成はカメラ本体ではできません。パノラマ合成画像を作成する場合は、CAMEDIA Masterをご使用ください。
- HQ/SHQモードで多量のパノラマ撮影を行うと、パソコンがメモリ不足になることがあります。
- TIFF(非圧縮)でパノラマ撮影をすると、同じ画像サイズのJPEG(圧縮)で記録されます。
- パノラマ撮影中にモードダイヤルを操作すると、パノラマモードは解除され通常の撮影モードに戻ります。

合成ツーショット撮影〜2コマの画像を合成する

2回続けて撮影した画像を合成して、1枚の画像として保存します。別々の被写体を1枚の画像にして楽しむことができます。

モードダイヤル設定 P A/S/M/My S-Prg

1 トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「合成ツーショット」を選択します。☞ メニューの操作方法(P. 44)

2 ▷ を押します。
- 合成ツーショット撮影モードになります。

3 1枚目を撮影します。
- 撮影した画像は、合成時には左側に配置されます。

4 続けて2枚目を撮影します。
- 撮影した画像は、合成時には右側に配置されます。

- **合成ツーショット撮影を解除したい。**
  → 1枚撮影後、合成ツーショットを中止したいときは を押してください。1枚目に撮影した画像は記録されません。

注 意

- モードに設定していると、合成ツーショットはできません。
- 合成ツーショット撮影中は、次の機能は使えません。
  - パノラマ撮影
  - 連写／AF連写
  - オートブラケット撮影(BKT)
- 画質モードがTIFFに設定されていると、合成ツーショットはSHQで記録されます。

ファンクション撮影～モノクロやセピア色などで撮る

特殊効果をつけて撮影することができます。次の4種類から選択することができます。

モノクロ ：白黒に撮影できます。
セピア ：セピア色に撮影できます。
白板 ：白黒写真になり白板に書いた黒字が強調され、読みやすくなります。
黒板 ：白黒写真になり黒板に書いた白字が白黒反転して強調され、読みやすくなります。

モードダイヤル設定 P A/S/M/My S-Prg

トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「ファンクション撮影」→モードを選択し、OK を押します。再度、OK を押すとメニューが消えます。**☞ メニューの操作方法 (P. 44)**

OK ボタン

モードによる機能制限

モード / ファンクション撮影	P	A/S/M/My				S-Prg	
		A	S	M	My *	ムービー	S-Prg
オフ	○	○				○	○
モノクロ	○	○				○	○
セピア	○	○				○	○
白板	○	○				―	○
黒板	○	○				―	○

○：設定可、―：設定不可　▭：初期設定

＊ 設定できるモードは、選択した撮影モードによって変わります。P・A・S・M・S-Prg モードの欄をご覧ください。

ヒント

● **「白板」「黒板」を選択しても、文字がきれいに撮影されない。**
→ 露出補正をします。(P. 110)

注 意

●「白板」「黒板」を選択すると、フラッシュは発光しません。
●ホワイトバランス・WB補正・彩度の設定はできません。

画質モード

画質モードを選択する

撮影する画像の画質を設定します。プリント用、パソコンでの加工用、ホームページ用など、用途に合わせて画質モードをお選びください。設定可能なモードや記録サイズ、またカードへの記録可能枚数については次頁の表をご参照ください。数値は目安です。

画質モード	特徴	画質	ファイルサイズ
TIFF	最高画質モードです。非圧縮データとして保存されるので、プリントやパソコンで画像を加工する際に最適です。また、目的に応じて記録サイズを変更できます。「3:2」は写真店でのプリントに近いサイズにするので、画像の端が切れずにプリントできます。	きれい ↑	大きい ↑
SHQ	JPEG形式の高画質モードです。圧縮率が低いため、高画質を維持することができます。「3:2」は写真店でのプリントに近いサイズにするので、画像の端が切れずにプリントできます。「プリント拡大」は、大きいサイズでプリントする際に有利です。		
HQ	標準レベルで圧縮された高画質モードです。SHQより圧縮率が高く、ファイルサイズが小さくなるので、より多くの画像を記録できます。また、SHQと同様に「3:2」や「プリント拡大」で記録サイズを変更することが可能です。		
SQ1 SQ2	SHQやHQより小さい記録サイズを選べるモードです。各記録サイズで「高画質（JPEGノイズを抑制）」または「標準（より多く撮影）」を選択できます。プリント用、ホームページ用など用途に合わせて、選んでください。	↓ 普通	↓ 小さい

静止画画質モード

カードの記録可能枚数は目安です。

画質モード	記録サイズ		圧縮	ファイル形式	カードの記録可能枚数（枚）	
					16MB	32MB
TIFF	2288x1712		非圧縮	TIFF	1	2
	3:2 2288x1520				1	3
	2048x1536				1	3
	1600x1200				2	5
	1280x960				4	8
	1024x768				6	13
	640x480				16	33
SHQ	2288x1712		低圧縮	JPEG	5	11
	3:2 2288x1520				6	12
	プリント拡大3200x2400				2	5
HQ	2288x1712		標準		16	32
	3:2 2288x1520				18	36
	プリント拡大3200x2400				8	16
SQ1	2048x1536	高画質	*		6	13
		標準			20	40
	1600x1200	高画質			11	22
		標準			32	64
	1280x960	高画質			17	34
		標準			49	99
SQ2	1024x768	高画質			26	53
		標準			76	153
	640x480	高画質			66	132
		標準			165	331

*高画質→低圧縮 / 標準→標準

ムービー画質モード

一度に連続して撮影できる時間（秒）

画質モード	記録サイズ	16MB以上
HQ	320x240 (15コマ/秒)	33
SQ	160x120 (15コマ/秒)	148

● 使用しているカードに記録できる撮影時間の合計は、ムービーモードに設定したときに画面に表示されます。

注 意

●ビデオ出力をPALに設定し、ビデオケーブルを接続した状態でムービー撮影すると、撮影時間は表内（上記）の時間とは異なります。☞ ビデオ出力 (P. 165)

モードダイヤル設定 P A/S/M/MY S-Prg

1 **トップメニューから「モードメニュー」→「画像」→「画質モード」の順に選択し、▷ を押します。☞ メニューの操作方法（P. 44）**

- 「画質モード」がトップメニューに表示されている場合、「画質モード」のそばに示されている矢印と同じ方向の十字ボタン（△、◁、▽）を押します。モードメニューにアクセスしなくても、画質モードの設定が同様にできます。

2 P A/S/M/MY S-Prg**の場合：**
△▽を押して画質モードを選択します（P. 105の表参照）。手順3へ。
動画 の場合：
△▽を押してHQかSQを選択します。手順4へ。

3 **△▽を押して、記録サイズを選択します（P. 105の表参照）。**

- SQ1/SQ2を選択している場合、記録サイズを選択後 ▷ を押し、さらに△▽で「高画質」「標準」のいずれかを選択します。

4 **OK を押して選択を確定します。**

初期設定: HQ

ヒント

● **記録サイズ**
画像を記録する際の大きさ（横の画素数×縦の画素数）です。画像をプリントする時は、大きなサイズで記録しておくときれいにプリントされます。ただし、記録サイズが大きくなるほどファイルサイズ（データの量）も大きくなり、カードに保存できる枚数は少なくなります。

● **記録サイズとパソコンモニタ上での画像の大きさ**
撮影した画像をパソコンで見る際に表示される画像の大きさは、パソコンのモニタ設定によって異なります。例えば、640x480の記録サイズで撮影された画像は、パソコンのモニタ設定が640x480のとき画像を等倍で表示すると、モニタ全体に表示されます。モニタ設定がそれ以上(1024x768など)になると、モニタの一部にしか表示されません。

● **圧縮率**
TIFFモード以外の画質モードでは、画像を圧縮して保存します。圧縮率が高いほど画質は粗くなります。

● **ファイル形式（P. 105）**
このカメラでは、TIFF、またはJPEGのどちらかの形式で保存されます。TIFFモード以外はすべてJPEG形式で保存され、圧縮率も異なります。（ムービーはモーションJPEG(mov)形式）

注意

●表中のカードの記録可能枚数はおおよその目安です。（P. 105）
●記録可能枚数は画質モード、カードの容量、またはプリント予約の有無によっても変わります。
●撮影可能枚数は、撮影対象によって容量が異なるため、撮影を行っても減らなかったり、画像を削除しても増えないことがあります。

3:2

通常、画像の縦横比は4:3の比率になっていますが、縦横それぞれの比率を3:2に設定することで、写真店でプリントする際、画像の端が切れないでプリントできます。記録サイズは2288x1520です。TIFF、SHQ、HQモードのみで設定可能です。なお、🎥（ムービー）モードでは 3:2 の設定はありません。

● 3:2 のモードを選択したとき、液晶モニタは自動的に点灯します。撮影範囲を、液晶モニタで確認してから撮影してください。

3:2 に設定したとき

プリント拡大

プリント拡大（SHQ、HQモードのみで設定可能）を選択すると、総画素数の400万画素を800万画素相当(3200x2400) へと拡大することができ、A3用紙など大きなサイズでプリントする際に有効です。画素数を増やすほどきれいにプリントすることができますが、ファイルサイズは大きくなります。なお、🎥（ムービー）モードではプリント拡大の設定はありません。

注 意

●画質モードがSHQのプリント拡大の設定では、連写、AF連写やオートブラケット撮影はできません。

ISO感度

ISO感度は数値が大きいほど感度が高く、より暗いところ（光量が少ないところ）での撮影が可能になりますが、感度が高くなるにつれて画像にはノイズが増えます。

モードダイヤル設定 P A/S/M/My S-Prg

トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「ISO感度」の順に選択し、最適な設定を下記のなかから選択し、OK を押します。再度、OK を押すとメニューが消えます。

メニューの操作方法（P. 44）

OK ボタン

オート：
被写体の条件に合わせて自動的に感度が変わります。

100/200/400：
通常100は、日中の撮影に最適でシャープな画像を得ることができます。感度が高くなるにつれて同じ光量でもより速いシャッター速度が使えます。

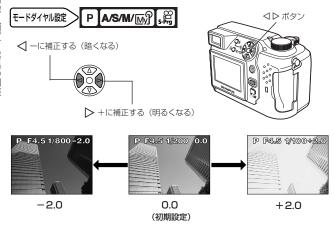
ISO感度
「オート」に設定されているときは表示されません。

モードによる機能制限

モード／ISO感度	P	A/S/M/My				S-Prg	
		A	S	M	My*	動画	S-Prg
オート	○	—			○	○	○
100	○	○			○	○	○
200	○	○			○	○	○
400	○	○			○	○	○

○：設定可、—：設定不可、▭：初期設定

＊初期設定と設定できるモードは、選択した撮影モードによって変わります。P・A・S・M・S-Prgモードの欄をご覧ください。

注 意

- 感度を高く設定するほど画像にノイズが増えます。
- 感度は銀塩写真のフィルム感度を基準に設定していますが、数値は目安です。
- ISOがオートに設定されているとき、暗いところでフラッシュを使わずに撮影すると、シャッター速度が遅くなり手ぶれする可能性があるため自動的に感度が上がります。
- ISO感度がオートのとき、被写体が遠くフラッシュ光が届かない場合、自動的に感度が上がります。
- P・A・Sモードでは、フラッシュをスローシンクロにしたとき、設定されたISO感度により最長シャッター秒時が変わります。

露出補正

十字ボタンを使って、露出を手動で微調整できます。 撮影する被写体によっては、カメラが自動的に設定した露出を補正したほうがよいときがあります。1/3段刻みで±2.0の範囲で設定できます。設定を変更すると、液晶モニタで確認できます。

モードによる機能制限

P	A/S/M/My				S-Prg	
	A	S	M	My＊	[動画アイコン]	S-Prg
○			−	○	○	○

○：設定可、−：設定不可

＊ Mモードのときは、使用できません。

● 通常、白い被写体（雪など）を撮影すると実際より暗く写ってしまいますが、＋に補正することにより見たままの白を表現することができます。また、黒い被写体を撮影するときは、逆に−に補正すると効果的です。

ホワイトバランス

被写体は光源によって色が変わります。たとえば、白い紙に晴天時の太陽があたっているとき、夕日があたっているとき、電球のひかりがあたっているときでは、それぞれの白が違います。ホワイトバランスを調整することにより、このような光源による微妙な色の違いを見たままの色に表現することができます。

モードダイヤル設定 P A/S/M/My S-Prg

トップメニューから「モードメニュー」→「画像」→「ホワイトバランス」を選択し、「オート」、「プリセット」、「ワンタッチ」の中から撮影状況に合わせて設定します。

オートを選択：
㊙ を押します。再度、㊙ を押すとメニューが消えます。
プリセットを選択：
▷ を押します。プリセットホワイトバランス（下記参照）へ進みます。
ワンタッチを選択：
▷ を押します。ワンタッチホワイトバランス(P. 113)へ進みます。

☞ メニューの操作方法(P. 44)

オートホワイトバランス

光源によらず、全体の色のバランスを自動的に調整します。

プリセットホワイトバランス

撮影する光源に応じて、プリセットホワイトバランスを選択します。△▽を押して、次の中からいずれかを選択し、㊙ を押します。再度、㊙ を押すとメニューが消えます。

- **晴天**　：晴天時の撮影
- **曇天**　：曇天時の撮影
- **電球**　：電球の光りのもとでの撮影
- **蛍光灯1**：昼光色（6700K）の蛍光灯の光りのもとでの撮影。昼光色の蛍光灯は、主に家庭で使われています。
- **蛍光灯2**：昼白色（5000K）の蛍光灯の光りのもとでの撮影。昼白色の蛍光灯は、デスク上のスタンドなどに一般的に使われています。
- **蛍光灯3**：白色（4200K）の蛍光灯の光りのもとでの撮影。白色の蛍光灯は、オフィスなどで一般的に使われています。

- また、実際の光源とは異なるプリセットホワイトバランスを選択し、その設定を液晶モニタで確認すると、様々な色調を楽しめます。
- 上記の色温度の値は、目安です。

プリセットホワイトバランス画面

6 画像・画質・露出の調整

ワンタッチホワイトバランス

この機能を使うと、プリセットホワイトバランスでは調整しきれない微妙な色合いを設定することができます。撮影する光源で照らされた白いものに、カメラを向けて設定することで、実際の撮影状況に適切なホワイトバランスをカメラに記憶させることができます。

1 「ワンタッチ」を選択します。（P. 111、112）

- 「ワンタッチホワイトバランス」画面が表示されます。

ワンタッチホワイトバランス画面

2 カメラを白い紙に向けます。

- 紙は画面一杯になるように置き、影の部分ができないようにしてください。

3 (OK) を押します。新しいホワイトバランスが設定されます。

- ワンタッチホワイトバランスを中止するときは ◁ を押します。

4 メニュー画面が消えるまで、繰り返し (OK) を押します。

初期設定：オート

ホワイトバランス
ホワイトバランスが「オート」に設定されているときは、表示されません。

注 意

- 通常はホワイトバランスは「オート」で使用することをおすすめします。
- ワンタッチホワイトバランスでは、紙に反射している光が明るすぎたり暗すぎたりする場合は、適切な設定ができません。
- 特殊な光源下ではホワイトバランスの効果が発揮できない場合があります。
- ホワイトバランスを使って撮影した場合は、必ず撮影画像を再生して色の確認を行なってください。

WB補正

ホワイトバランスを微調整することができます。

モードダイヤル設定 P A/S/M/My S-Prg

1 **トップメニューから「モードメニュー」→「画像」→「WB補正」を選択します。▷を押します。**
メニューの操作方法(P. 44)
- 画面上にWB補正バーが表示されます。

2 **現在のホワイトバランスの値に対し、△を押す度に青みがかかり、▽を押すたびに赤みがかかった画像になります。調整値を決定するには OK を押します。**
- ホワイトバランスはプラス方向、マイナス方向それぞれ7段階の調節が可能です。

初期設定： ±0

WB補正画面

WB補正バー

シャープネス

画像の鮮鋭度を調節します。

モードダイヤル設定 P A/S/M/My S-Prg

1 トップメニューから「モードメニュー」→「画像」→「シャープネス」を選択します。▷ を押します。
☞ メニューの操作方法(P. 44)

2 プラス方向に調節：
△ を押すと、画像の輪郭がよりシャープになり画像が鮮やかになります。プリントなどの鑑賞用に適しています。
マイナス方向に調節：
▽ を押すと、画像の輪郭がソフトになります。パソコンで画像処理するときなどに適しています。
- プラス方向、マイナス方向それぞれ5段階の調節が可能です。
- 設定が終わったら、Ⓞ を押します。再度、Ⓞ を押すとメニューが消えます。

初期設定： ±0

注 意
- プラス方向に調整しすぎると、画像にノイズが目立つ場合があります。

コントラスト

画像のコントラスト（明暗の差）を調節します。明暗差の小さい画像にメリハリを出したり、明暗差の大きい画像を柔らかい仕上がりにすることができます。

モードダイヤル設定 P A/S/M/My S-Prg

1 **トップメニューから「モードメニュー」→「画像」→「コントラスト」を選択します。▷ を押します。**
メニューの操作方法(P. 44)

2 **プラス方向に調節：**
△ を押すと、明暗の差がより大きくなりメリハリのある画質になります。
マイナス方向に調節：
▽ を押すと、明暗の差がより小さくなり、比較的柔らかい感じの画質になります。パソコンで画像処理するときなどに適しています。

- プラス方向、マイナス方向それぞれ5段階の調節が可能です。
- 設定が終わったら、OK を押します。再度、OK を押すとメニューが消えます。

初期設定： ±0

彩度

画像の色の濃さを調節します。

モードダイヤル設定 P A/S/M/My S-Prg

1 **トップメニューから「モードメニュー」→「画像」→「彩度」を選択します。▷ を押します。**
☞ メニューの操作方法(P. 44)

2 **プラス方向に調節：**
△ を押すと、色が濃くなります。
マイナス方向に調節：
▽ を押すと、色が薄くなります。
- プラス方向、マイナス方向それぞれ5段階の調節が可能です。
- 設定が終わったら、OK を押します。再度、OK を押すとメニューが消えます。

初期設定： ±0

ノイズリダクション

長時間露光時に画像に発生するノイズを軽減します。夜景の撮影など、遅いシャッター速度で撮影する際、画像にはノイズが目立つようになります。この機能を「オン」に設定すると、カメラが自動的にノイズを軽減でき、きれいな画像を得ることができます。ただし、撮影時間は通常の約2倍になります。
シャッター速度の設定が、1/2秒より遅いときに動作します。

ノイズリダクション：オフ

ノイズリダクション：オン

ここでの画像は、ノイズリダクションの効果を示すためのイメージです。
実際の画像とは異なります。

モードダイヤル設定 **P** **A/S/M/My**

トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「ノイズリダクション」→「オン」を選択し、Ⓞを押します。再度、Ⓞを押すとメニューが消えます。
☞ メニューの操作方法(P. 44)

初期設定：オフ

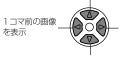
Ⓞボタン

注 意

- ● モードに設定していると、ノイズリダクションは常にオンに固定されています。
- ●ノイズリダクションを「オン」に設定すると、撮影後にカメラがノイズを取り除く動作をするため、撮影時間が通常の約2倍になります。その間、次の撮影はできません。
- ●ノイズリダクションの設定がオンのときは、連写（AF連写）やオートブラケット撮影はできません。
- ●撮影条件や被写体により、効果が出にくい場合があります。
- ●シャッター速度が遅いので、三脚の使用をおすすめします。

静止画の再生

1コマ再生

撮影した画像（1コマ）を再生します。

モードダイヤル設定 ▶

1 モードダイヤルを ▶（再生）にします。
- 液晶モニタが点灯し、撮影した画像が液晶モニタに表示されます。

2 他の画像を再生するには、十字ボタンを使います。
- ムービーには 🎥 マークがついています。
  →「ムービーの再生」参照（P. 121）

簡単再生　Quick View

撮影モードのままで再生できます。撮影した画像をすぐに見たいときに便利です。また、簡単再生で表示された画像は、再生モードで表示された画像と同じように扱えます。

モードダイヤル設定 P　A/S/M/My　S-Prg

1 撮影モードのままで、▣（液晶モニタボタン）を素早く 2 回続けて押します。
- 液晶モニタが点灯し、撮影した画像が液晶モニタに表示されます。
- 1コマ再生と同様に、十字ボタンを使って他の画像を再生できます。

2 撮影に戻るには、シャッターボタンを半押しします。

自動再生

カードに記録されている静止画像を、１枚ずつ自動的に再生させることができます
ムービーコマは、最初のフレームのみが静止画と同じように再生されます。

モードダイヤル設定 ▶

1 **静止画を表示させます。OK を押してトップメニューを表示させます。**

2 **△を押すと、自動再生が始まります。**

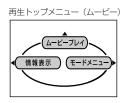
3 **OK を押すと、終了します。**

再生トップメニュー（静止画）

注意

- 長時間に渡って自動再生を行う場合には、ACアダプタ（別売）のご使用をおすすめします。電池をお使いの場合、30分経過すると自動的に自動再生が終了し、スリープモード（待機状態）に入ります。
- 自動再生は、OK を押すまで繰り返されます。

ムービーの再生～ムービープレイ

撮影したムービーを再生したり、編集したりすることができます。

モードダイヤル設定 ▶

1 十字ボタンを使って のついた画像を選択します。

2 を押してトップメニューを表示させます。

再生トップメニュー（ムービー）

3 △を押すと、カードアクセスランプが点滅して、カード内のムービーのデータがカメラへ送られます。

- 「ムービープレイ」画面が表示されます。

ムービー再生：ムービーを再生します。P. 122へ。

インデックス作成：ムービーを9分割して一つの画面に表示します。P. 123へ。

ムービー編集：ムービーを編集します。P. 126へ。

ムービープレイ画面

4 **目的に合わせて「ムービープレイ」画面で項目を選択し、㊙ を押します。**
- 「ムービープレイ」画面での各項目の手順は、項目別のページをお読みください。

注 意

- ムービーを再生するためのアクセスにかかる時間は、ムービーの録画時間や画質モードによって異なります。

ムービー再生

ムービーを再生します。

モードダイヤル設定 ▶

1 **121ページの手順1～3を行います。**

2 **「ムービープレイ」画面から、△▽を押して「ムービー再生」を選択します。**

3 **㊙ を押すと、再生が始まります。**
- 最後まで再生が終わると、ムービーの先頭に戻ります。

4 **㊙ を押します。**
- 「ムービー再生」画面が表示されます。

再生：ムービーを再生します。
コマ送り：コマ送りをします。
中止：他のコマ（ムービー）を再生したいときは、ムービー再生モードから抜けてください。

ムービー再生画面

5 △▽を押して、項目を選択します。

6 ㊫ を押して選択した項目を実行します。
- 「コマ送り」を選択したときは下記の操作を行います。
- 「中止」を選択したときは、「ムービープレイ」画面が表示されます。「ムービープレイ」画面から抜けるには、◁を押します。

■ コマ送りの方法

△　：ムービーの最初を表示します。
▽　：ムービーの最後を表示します。
▷　：押すたびにコマが進みます（コマ送り)。押し続けるあいだ再生します。
◁　：押すたびにコマが戻ります。押し続けるあいだ逆再生します。
㊫　：「ムービー再生」画面を表示します。

インデックス作成

撮影したムービーの内容が一目でわかるように、ムービーを9分割して一つの画面に表示（インデックス作成）することができます。
インデックス作成された画像は、ムービー撮影時とは異なった画質モードで静止画として保存されますのでご注意ください。（保存時の画質モードについては以下の表を参照）

ムービー撮影時の画質モード	インデックス画像の画質モード
HQ	SQ2 （1024 x 768／高画質）
SQ	SQ2 （640 x 480／高画質）

モードダイヤル設定 ▶

1 121ページの手順1～3を行います。

2 **「ムービープレイ」画面から、△▽を押して「インデックス作成」を選択し、㊋を押します。**

- 「先頭コマの選択」画面が表示されます。
- アクセス中は、カードアクセスランプが点滅します。
- インデックスを表示するにはカード残量がない場合、警告画面(P. 188)が表示されます。

3 **◁▷を押しながら、選択枠内に先頭コマにしたいショットがくるまで再生し、確定したら㊋を押します。**

- ㊋を押して先頭コマを確定すると、選択枠は撮影した動画の最終コマに移動します。

撮影経過時間/ムービー全体の時間

先頭コマの選択画面

■ **十字ボタンの働き**

△： ムービーの先頭コマへジャンプします。
▽： ムービーの後尾コマへジャンプします。
▷： コマが進みます。押し続けているあいだ、再生します。
◁： コマが戻ります。押し続けているあいだ、逆再生します。

4 **手順3にならって、インデックス画像の後尾コマを選択します。**

後尾コマの選択画面

5 後尾コマが確定したら ㊀ を押します。
- 「インデックス作成」画面が表示されます。

決定：作成したインデックス画像がカードに記録されて、メニュー画面から抜けます。
再設定：再度インデックス作成を行うときに選択します。画面は、「先頭コマの選択」画面に戻ります。
中止：インデックス作成を中止します。画面は「ムービープレイ」画面に戻ります。

インデックス作成画面

6 △▽を押して項目を選択します。

7 ㊀ を押して選択した項目を実行します。
- 「中止」を選択したときは、「ムービープレイ」画面が表示されます。「ムービープレイ」画面から抜けるには、◁を押します。

注 意

- 書き込み禁止（プロテクト）がかかっていたり、カード残量がない場合の警告画面が表示されるカードをお使いのときは、インデックス作成はできません。

ムービー編集

撮影したムービーから不要な部分をカットして、編集することができます。

モードダイヤル設定 ▶

1 121ページの手順1～3を行います。

2 「ムービープレイ」画面から、△▽を押して「ムービー編集」を選択し、OKを押します。

- 「先頭コマの選択」画面が表示されます。
- アクセス中は、カードアクセスランプが点滅します。
- ムービーを編集するにはカード残量が少ない場合、警告画面(P. 188)が表示されます。

3 ◁▷を押しながらムービーを再生し、先頭コマにしたいショットになったら、OKを押します。

- OKを押して先頭コマを確定すると、画面は撮影したムービーの最後に移動します。

先頭コマの選択画面

■ 十字ボタンの働き

△：ムービーの先頭コマへジャンプします。
▽：ムービーの後尾コマへジャンプします。
▷：コマが進みます。押し続けているあいだ再生します。
◁：コマが戻ります。押し続けているあいだ逆再生します。

4 **手順3にならって、後尾コマを選択します。**

後尾コマの選択画面

5 **後尾コマが確定したら OK を押します。**

●「ムービー編集」画面が表示されます。

ムービー編集画面

決定：「新規作成」または「上書き保存」を選択します。

＊「新規作成」は編集した画像を、別の名前で新しい画像として保存します。

＊「上書き保存」は編集した画像を、元の名前で保存します。元の画像は失われます。

再設定：再度ムービー編集を行うときに選択します。画面は「先頭コマの選択」画面に戻ります。

中止：ムービー編集を中止します。画面は「ムービープレイ」画面に戻ります。

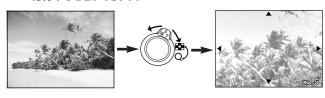
6 △▽を押して項目を選択します。

7 ㊋を押して選択した項目を実行します。

- 「中止」を選択したときは、「ムービープレイ」画面が表示されます。「ムービープレイ」画面から抜けるには、◁を押します。
- 「決定」を選択したときは、△▽を押して「新規作成」か「上書き保存」かを選択し、㊋を押します。画像が作成されます。

注 意

- 書き込み禁止（プロテクト）がかかっていたり、カード残量がない場合の警告画面が表示されるカードをお使いのときは、ムービー編集はできません。
- カード残量が不足している場合は「新規作成」はできません。
- 他のカメラで撮影した、音声付きのムービーは編集できません。

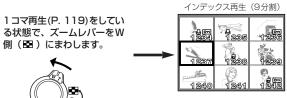
クローズアップ再生

液晶モニタに表示される画像を拡大することができます。ズームレバーをT側に回すごとに、画像が1.5倍〜4倍に拡大されます。

モードダイヤル設定 ▶

1 十字ボタンで拡大したい画像を選択します。

- 🎥 のついた画像は、拡大できません。

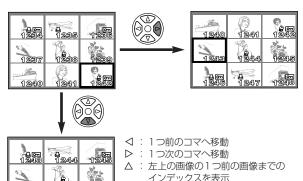
2 ズームレバーをT側（🔍）にまわします。

- 拡大すると、画面に◀／▶／▲／▼が表示されます。表示したい方向の矢印と同じ十字ボタンを押すと、画像をずらして表示することができます。

● **元の大きさに戻したい。**
→ ズームレバーをW側にまわします。

● **別の画像を表示したい。**
→ ズームレバーをW側にまわして、現在表示されている画像を1倍に戻してから、十字ボタンを使って拡大したい画像を選びます。

注 意

- クローズアップ再生中に回転再生（P. 142）を行なうと、クローズアップ再生は解除されます。
- 拡大した状態で、画像を保存することはできません。

7 再生

インデックス再生

液晶モニタに複数の画像を一度に表示することができます。カードに記録されている画像の中から、見たい画像を素早く探したいときに便利です。また、表示される枚数を、4、9、16枚（分割）から選ぶこともできます。（次ページ参照）

1コマ再生(P. 119)をしている状態で、ズームレバーをW側（ ）にまわします。

1コマ再生で表示していた画像を含んで、複数の画像がインデックス再生されます。

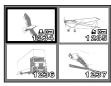
■ インデックス再生中の十字ボタンの働き

◁ ： 1つ前のコマへ移動
▷ ： 1つ次のコマへ移動
△ ： 左上の画像の1つ前の画像までのインデックスを表示
▽ ：右下の画像の次の画像からのインデックスを表示

ヒント

● **インデックス再生で画像を選んで、1コマ再生をしたい。**
→ 十字ボタンで画像を選択して、ズームレバーをT側にまわします。

インデックス表示

インデックス再生時に表示される分割数を変更できます。

モードダイヤル設定 ▶

1 トップメニューから、「モードメニュー」→「設定」→「インデックス表示」を選択します。

☞ メニューの操作方法(P. 44)

2 「4」、「9」、「16」のいずれかを選択し、OK を押します。再度、OK を押すとメニューが消えます。

4分割に設定した場合

静止画の編集

撮影した静止画を編集して、別の画像として保存します。

リサイズ　：撮影した画像のサイズを640x480、または320x240に変更して別の画像として保存します。メールに添付して送る場合など、画像のデータ容量を小さくしたいときにお使いください。

トリミング　：撮影した画像の一部を拡大して、別の画像として保存します。

モードダイヤル設定 ▶

1 **十字ボタンで編集したい静止画を表示します。**

2 **トップメニューから「モードメニュー」→「編集」→項目を選択します。** **☞ メニューの操作方法(P. 44)**

- 「リサイズ」を選択。下記参照。
- 「トリミング」を選択。P. 133へ。

リサイズ

モードダイヤル設定 ▶

1 **上記の「静止画の編集」の手順1と2をします。**

2 **▷ を押します。**

- 「リサイズ」画面が表示されます。

640 x 480/320 x 240：別の画像として保存されるときの画像サイズ。

中止：リサイズを中止します。他の画像を編集したいときは、これを選択します。再生モードに戻ります。

リサイズ画面

3 **△▽を押して画像サイズを選択し、Ⓞ を押して実行します。**

- 作成中を示すバーが表示された後、再生モードに戻ります。

注 意

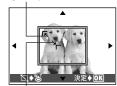
- 次の場合はリサイズはできません。
  - ー ムービーやパソコンで編集した画像。
  - ー 書き込み禁止（プロテクト）がかかっていたり、カード残量がない場合の警告画面が表示されるカードを使用しているとき。
  - ー 撮影時の画像サイズが640 x 480の場合、「640 x 480」の設定はできません。

トリミング

1 **P. 132の「静止画の編集」の手順1と2をします。**

2 **▷を押します。**
- 「トリミング」画面が表示されます。

新規作成：撮影した画像の一部を拡大して、カードに別の画像として保存します。
中止：トリミングを中止します。他の画像を編集したいときは、これを選択します。再生モードへ戻ります。

トリミング画面

3 **△▽を押して「新規作成」を選択し、OKを押します。**
- トリミングのサイズを決める画面が表示されます。

7 再生

4 **トリミングしたい画像の左上端の位置を決めます。以下の方法で、トリミング枠の角を動かします。**

ズームレバーをW側に動かす（画面上では、枠の角が左上に向かって動きます）

ズームレバーをT側に動かす（画面上では、枠の角が右下に向かって動きます）

5 **Ⓞ を押して、左上端の位置を決定します。**
- 十字ボタンを押して、トリミング枠の位置を動かすことができます。動かしたい方向の矢印と同じ十字ボタンを押します。上下左右の限界位置に達したら、その方向の矢印は、表示されません。

6 **右下端の位置を決めます。トリミング枠の角を動かす方法は、手順4と同じです。Ⓞ を押して、右下端の位置を決定します。**
- 十字ボタンを押して、トリミング枠の位置を動かすことができます。動かしたい方向の矢印と同じ十字ボタンを押します。上下左右の限界位置に達したら、その方向の矢印は、表示されません。

7 **Ⓞ を押して、決定します。**
- トリミング画像が表示された後、「トリミング」画面が表示されます。

決定：作成したトリミング画像がカードに記録されて、再生モードに戻ります。
再設定：再度、トリミングをするときに選択します。手順4の画面に戻ります。
中止：トリミングを中止します。再生モードに戻ります。

トリミング画面

8 △▽を押して項目を選択し、OKボタンを押します。

注 意

- 書き込み禁止（プロテクト）がかかっていたり、カード残量がない場合の警告画面が表示されるカードをお使いのときは、トリミングはできません。
- 3:2 で記録されている画像をトリミングすると、画像の縦横比は通常の4:3の画像になります。
- トリミングした画像を印刷した場合、粗くなったりする場合があります。
- 画質モードをプリント拡大にして撮影した画像は、トリミングできません。
- 他のカメラで撮影した画像は、トリミングできない場合があります。

プロテクト機能

画像を誤って消さないようにするために、その画像にプロテクト（消去禁止）をかけることができます。

モードダイヤル設定 ▶

1 **十字ボタンでプロテクトをかけたい画像を表示します。**

2 **О┳ ボタンを押すと、その画像にプロテクトがかかります。**

● プロテクトを解除するには、再度 О┳ ボタンを押します。

画像にプロテクトがかかると表示されます。

注 意

●プロテクトされた画像は、全コマ消去しても消されることはありませんが、フォーマットするとすべて消去されます。

●ライトプロテクトシールの貼ってあるカードには、プロテクト操作はできません。

画像の消去

撮影した画像を消去することができます。
再生している１コマのみを消去する１コマ消去と、カード内の画像全てを消去する全コマ消去があります。

注 意

- プロテクトがかかっている画像や、カードにプロテクトシールが貼られているときは消去できません。
- 一度消した画像は、復旧することはできません。

１コマ消去

ボタンを押して、１コマ再生しているコマを消去します。他の画像も消去したいときには、１コマ消去を繰り返します。

モードダイヤル設定 ▶

1 十字ボタンで消去したい画像を選択します。

- 画像にプロテクト(P. 136)がかかっている場合は、まず解除してください。

2 ボタンを押します。

- 「１コマ消去」画面が表示されます。

3 △を押して、「消去」を選択します。

１コマ消去画面

4 を押して、消去を実行します。

- 消去を中止するには、手順3で「中止」を選択し、を押すか、再度ボタンを押します。

7 再生

全コマ消去

カードに記録されている静止画、ムービーを全て消去します。ただし、プロテクト（P. 136）されている画像は消去できません。

モードダイヤル設定 ▶

1 トップメニューから「モードメニュー」→「カード」→「カードセットアップ」を選択します。
☞ メニューの操作方法(P. 44)

2 ▷ を押します。
- 「カードセットアップ」画面が表示されます。

3 ▷ を押して全コマ消去を選択し、OK を押します。
- 「全コマ消去」画面が表示されます。

4 △を押して、「消去」を選択します。

全コマ消去画面

5 OK を押して、全コマ消去を実行します。
- 画面に処理中を示すバーが表示されます。
- 全コマ消去を中止するには、手順4で「中止」を選択し、OK を押します。

処理中画面

処理中

7 再生

カードのフォーマット

カードをフォーマットします。フォーマットとは、カードを使用機器で書き込みできるように初期化することです。オリンパス標準カードの使用をおすすめしますが、パソコンなど他の機器でフォーマットされたカードや、当社カード以外の市販カードをお使いになる場合は、お使いになる前にあらかじめこのカメラでフォーマットしてください。なお、カードのフォーマットは撮影モードでも可能です。

モードダイヤル設定 P A/S/M/MY S-Prg ▶

フォーマット画面

処理中画面

1 **トップメニューから「モードメニュー」→「カード」→「カードセットアップ」を選択します。**
☞ メニューの操作方法(P. 44)

2 **▷ を押します。**
- P A/S/M/MY S-Prg ：「フォーマット」画面が表示されます。
▶ ：「カードセットアップ」画面が表示されます。

3 **P A/S/M/MY S-Prg ：△ を押して、「フォーマット」を選択します。**
▶ ：△ を押して「フォーマット」を選択し、OK を押します。「フォーマット」画面が表示されます。△ を押して「フォーマット」を選択します。

4 **OK を押して、初期化を実行します。**
- 画面に処理中を示すバーが表示されます。
- フォーマットを中止するには、手順3で「中止」を選択し、OK を押します。

- 初期化すると、プロテクトをかけた画像を含む既存のデータは消去されます。使用済みカードをフォーマットするときは、大切なデータを消さないようにご注意ください。
- オリンパス製以外のカード、およびパソコンでフォーマットあるいは使用したカードは、書き込み時間が長くなることがあります。このようなときは、このカメラで再度フォーマットすることをおすすめします。
- カードにライトプロテクトシールが貼られている場合は、フォーマットできません。

テレビ再生

ビデオケーブル（付属）を使って撮影した画像をテレビで再生することができます。

モードダイヤル設定 ▶

1 **カメラとテレビの電源が切れていることを確認します。**

2 **ビデオケーブルで、カメラのビデオ出力端子とテレビを接続します。**

モードダイヤル

テレビの映像入力端子（黄色）へつなぎます。

ビデオケーブル

カメラのビデオ出力端子につなぎます。

3 **カメラのモードダイヤルを ▶ にします。テレビの電源を入れて、テレビ側で映像入力を選択します。**

- 映像入力を選択する際は、お使いのテレビの取扱説明書をご参照ください。

4 **十字ボタンで表示したい画像を選択します。**

- テレビに選択した画像が表示されます。

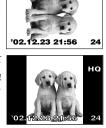
ヒント

- テレビで再生する場合はACアダプタ（別売）のご使用をおすすめします。
- テレビで再生しているときのみ、画像を回転させて再生することができます。詳しくは次ページをご参照ください。

注 意

- カメラのビデオ出力信号が、お使いのテレビの映像信号方式に合っていることを確認してください。☞ ビデオ出力(P. 165)
- テレビに接続した場合はカメラのモニタ表示が自動的に切れます。
- お使いのテレビによっては画像の表示位置が中央からずれる場合があります。
- テレビには画像全体を表示するため、少し小さめに表示されます。それにより、画像の外側に黒枠が表示されます。テレビからビデオプリンタに画像を出力すると、黒枠がプリントされることがあります。

回転再生

テレビで再生する場合のみ、画像を回転して表示することができます。
カメラを縦に構えて撮影した場合の画像は、横向きに表示されます。このような場合は回転再生を使って画像を縦向きにすることができます。時計方向に90度、反時計方向に90度の回転が可能です。

（回転再生）ボタン

モードダイヤル設定 ▶

1 1コマ再生(P. 119)をして、縦位置で撮影したときの画像を表示します。

縦位置で撮影したときの通常の再生状態

2 （回転再生）ボタンを押すたびに、画像は右図のように回転します。

通常の再生状態から反時計方向へ回転

通常の再生状態から時計方向へ回転

注意

- 再生する画像がムービーの場合は回転できません。
- 電源を切っても、画像が回転された状態は記憶されます。
- 画像が回転した状態から拡大再生ができます。ただし、拡大再生中は画像は回転しません。(P. 129)
- 次の画像は回転再生はできません：プロテクトのかかった画像・プロテクトシールを貼ったカードに保存されている画像・他のカメラで撮影した画像

設定クリア～設定を保持する

各機能の初期設定を変更した後も、その設定を保持するかどうかを選択できます。

オフ： 電源を切る直前の設定が保存されます。
オン：電源を切ると、設定が解除されて初期設定（P. 144）に戻ります。

設定クリアの「オン」・「オフ」の設定は、すべてのモードに共通です。いずれかのモードで設定クリアを「オフ」に設定すると、その設定は再生モードや 🎥 モードを含め、すべてのモードで働きます。
設定クリアを「オフ」にしていても、動作しているモードで設定できない機能（🎥 モードでのフルタイムAFや撮影情報表示の設定など）は、この「オフ」の設定は適応されません。
設定クリアはメニューの「設定」の項目には適応されません。

モードダイヤル設定 P A/S/M/My S-Prg ▶

トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「設定クリア」→「オフ」または「オン」を選択します。☞ メニューの操作方法 (P. 44)

初期設定：オン

設定クリアが適応される項目

設定項目	初期設定
絞り値(P. 58)	F2.8
シャッタ速度(P. 59)	1/1000
露出補正(P. 110)	±0
LCD*	オフ
ズーム位置(P. 77)	32mm
フラッシュ(P. 79)	オート
スポット／マクロ (P. 86、92)	オフ
ドライブ(P. 95)	単写
AF/MF(P. 68)	AF
ISO感度(P. 109)	オート
フラッシュ補正(P. 85)	±0
フラッシュ選択(P. 177)	内蔵＋外部
スローシンクロ(P. 82)	先幕効果
ノイズリダクション (P. 118)	オフ
マルチ測光(P. 87)	オフ
デジタルズーム(P. 78)	オフ

設定項目	初期設定
フルタイムAF(P. 66)	オフ
AF方式(P. 65)	iESP
スーパーマクロ(P. 93)	オフ
パノラマ(P. 99)	オフ
合成ツーショット (P. 101)	オフ
ファンクション撮影 (P. 103)	オフ
撮影情報表示(P. 155)	オフ
ヒストグラム表示 (P. 157)	オフ
スチル画質(P. 104)	HQ
ホワイトバランス(P. 111)	オート
WB補正(P. 114)	±0
シャープネス(P. 115)	±0
コントラスト(P. 116)	±0
彩度(P. 117)	±0

* 電源を入れたときの液晶モニタのオン／オフを設定します。

カスタムボタン設定

カスタムボタンにお好みで使用頻度の高いメニュー機能を登録することができます。メニュー画面を呼び出さなくても、直接このボタンを押すだけでメニュー機能の操作が可能となります。お買い上げ時は「バーチャルダイヤル」に設定されています。

カスタムボタン

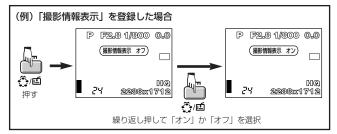
登録できる機能	設定内容
VIRTUAL DIAL (初期設定) (P. 52、53)	A/S/M/My モード時： A・S・M・My1・My2・My3・My4 S-Prg モード時：
AEロック(P. 90)	—
セルフタイマー(P. 94)	オフ・オン
ドライブ(P. 95)	単写・連写・AF連写・BKT
ISO感度(P. 109)	オート・100・200・400
フラッシュ選択(P. 177)	内蔵＋外部・外部
スローシンクロ(P. 82)	先幕効果・赤目先幕・後幕効果
ノイズリダクション (P. 118)	オフ・オン
デジタルズーム(P. 78)	オフ・オン
フルタイムAF(P. 66)	オフ・オン
AF方式(P. 65)	iESP・スポット
スーパーマクロ(P. 93)	オフ・オン
ファンクション撮影 (P. 103)	オフ・モノクロ・セピア・白板・黒板
撮影情報表示(P. 155)	オフ・オン
ヒストグラム表示(P. 157)	オフ・オン
画質モード(P. 104)	TIFF・SHQ・HQ・SQ1・SQ2
ホワイトバランス(P. 111)	オート・・・・1・2・3

カスタムボタンに機能を登録する

モードダイヤル設定 P A/S/M/My S-Prg

1 トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「カスタムボタン設定」を選択します。▷ を押します。
メニューの操作方法(P. 44)
- 「カスタムボタン設定」画面が表示されます。

2 △▽で設定したい項目を選択し、を押して確定します。

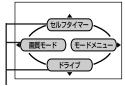
カスタムボタン設定画面

カスタムボタンを使う

モードダイヤル設定 P A/S/M/My S-Prg

1 （カスタム）ボタンを押します。

- 登録したメニュー機能が表示されます。

2 下記にしたがって設定します。

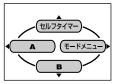
ヒント

- **カスタムボタンにISOを設定したが、シーンプログラムボタンとして使いたい。**

  → カスタムボタンに VIRTUAL DIAL 以外のメニュー機能が登録されているときは、 VIRTUAL DIAL は使用できません。 VIRTUAL DIAL を使うには、前ページの「カスタムボタンに機能を登録する」にしたがって、カスタムボタンを VIRTUAL DIAL に設定してください。

注 意

●P、A/S/M/My と S-Prg のモードでそれぞれ独立に設定することはできません。

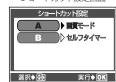
ショートカット設定

トップメニュー上の「モードメニュー」以外の項目（ショートカットメニュー）のうち、2項目を以下の表の中から任意に選び、登録することができます。使用頻度の高い機能をトップメニューに登録しておけば、途中の操作なしにその機能の設定画面までジャンプできるので便利です。

ショートカットメニュー

登録できるメニュー機能	設定内容
セルフタイマー(P. 94)	オフ・オン
ドライブ(P. 95)	単写・連写・AF連写・ＢＫＴ
ISO感度(P.109)	オート・100・200・400
フラッシュ補正(P. 85)	＋2～±0～ー2
フラッシュ選択(P. 177)	内蔵＋外部・外部
スローシンクロ(P. 82)	先幕効果・赤目先幕効果・後幕効果
ノイズリダクション(P. 118)	オフ・オン
マルチ測光(P. 87)	オフ・オン
デジタルズーム(P. 78)	オフ・オン
フルタイムAF(P. 66)	オフ・オン
AF方式(P. 65)	iESP・スポット
スーパーマクロ(P. 93)	オフ・オン
パノラマ(P. 99)	ー
合成ツーショット(P. 101)	ー
ファンクション撮影(P. 103)	オフ・モノクロ・セピア・白板・黒板
撮影情報表示(P. 155)	オフ・オン
ヒストグラム表示(P. 157)	オフ・オン
画質モード(P. 104)	TIFF・SHQ・HQ・SQ1・SQ2
ホワイトバランス(P. 111)	オート・プリセット・ワンタッチ
WB補正(P. 114)	BLUE～±0～RED
シャープネス(P. 115)	ー5～±0～+5
コントラスト(P. 116)	ー5～±0～+5
彩度(P. 117)	ー5～±0～+5

ショートカットメニューを登録する

トップメニューの「A」「B」の位置に当てはまる項目をそれぞれ設定します。

トップメニュー上の項目の配置

トップメニューに登録できる項目は、カメラのモードにより異なります。

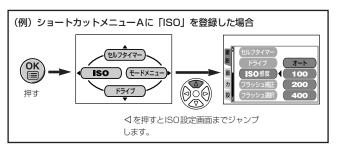
モードダイヤル設定 P A/S/M/My S-Prg

1 **トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「ショートカット設定」を選択します。▷ を押します。**
☞ メニューの操作方法(P. 44)
- 「ショートカット設定」画面が表示されます。
- 画面に表示される「A」「B」の位置は、順にトップメニューの左、下に当てはまる項目です。

2 **「A」を選択して ▷ を押すと、前ページの登録できるメニュー機能項目が表示されます。**

ショートカット設定画面

3 **△▽で設定する機能を選択し、OK を押して確定します。**
- 「B」も同じ手順で設定します。

8 カメラの便利機能

ショートカットメニューを使う

モードダイヤル設定 P A/S/M/My S-Prg

1 (OK) を押して、トップメニューを表示させます。
- 登録したショートカットメニューがトップメニュー上に表示されます。

2 各メニューのそばに表示される◀▼に従って、十字ボタンを押します。
- 設定した機能の設定画面までジャンプします。

ショートカットメニューの初期設定
A：画質モード
B：ドライブ

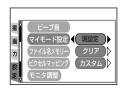
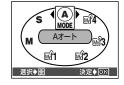
注 意
- P、A/S/M/My と S-Prg のモードで独立にそれぞれ設定することはできません。

マイモード設定

「マイモード設定」で、機能を自由に設定して登録しておくことができます。モードダイヤルをA/S/M/My にすると、その設定で動作します。また、Pや S-Prg モードで使用中に（ モードは除く）、各種の設定をそのまま「マイモード設定」に登録することもできます。マイモード設定は、4つのパターンまで登録できます。なお、この「マイモード設定」が適応される項目については、P. 154の表をご参照ください。

モードダイヤル設定 P A/S/M/My S-Prg

1 トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「マイモード設定」を選択します。▷ を押します。
メニューの操作方法(P. 44)

2 △▽ を押して設定したい機能（以下参照）を選択し、▷ を押します。

現設定　：今、使用している設定をそのまま登録できます。
クリア　：現在、登録されている設定を初期設定に戻します。
カスタム：ひとつずつ機能を設定します。

3 「マイモード登録」画面が表示されます。マイモード設定を My1 、My2 、My3 、My4 のどこに登録するか決めます。△▽を押して選択し、OK を押します。

My1 、My2 、My3 、My4 は、 を押したときに表示される、A/S/M/My モードバーチャルダイヤル画面の My1 、My2 、My3 、My4 を指しています。

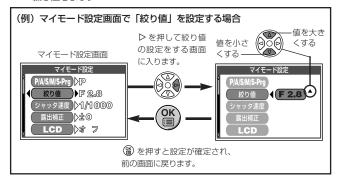
手順2で「現設定」を選択：手順4へ。
手順2で「クリア」を選択：手順4へ。
手順2で「カスタム」を選択：手順5へ。

「マイモード登録」画面

A/S/M/My モード
バーチャルダイヤル画面

4 「現設定」と「クリア」をそれぞれの「My マイモード登録」画面で設定します。設定を終えたら、OK を押します。手順8へ。

- 設定をやめたい場合は、「中止」を選択します。

「現設定」を選択した場合
「登録」を選択します。

「クリア」を選択した場合
「クリア」を選択します。

5 **「カスタム」を「マイモード設定」画面で設定します。△▽を押して設定したい機能を選択し、▷を押します。**

6 **△▽を押して設定を変更し、OKを押して設定を保存します。**

- 他の項目を変更するには、手順5、6を繰り返します。

7 **すべての設定が完了したらOKを押し、「マイモード設定」画面から抜けます。このとき設定の登録が完了します。**

- 手順2の画面が表示されます。

8 **OKを押してメニューから抜けます。**

注 意

- 「現設定」で設定を登録したときに、ズームの位置はずれる場合があります。ズームの位置は、「マイモード設定」内の「ズーム位置」の4つの設定値のうち、現在使用しているズームの設定値に近い値になります。

「マイモード設定」が適応される項目とその初期設定

設定項目	初期設定
P/A/S/M/S-Prgモード (P. 54～57)	P
絞り値(P. 58)	F2.8
シャッタ速度(P. 59)	1/1000
露出補正(P. 110)	±0
LCD*1	オフ
ズーム位置*2(P. 77)	32mm
フラッシュ(P. 79)	オート
スポット／マクロ (P. 86、92)	オフ
セルフタイマー(P. 94)	オフ
ドライブ(P. 95)	単写
AF/MF(P. 68)	AF
ISO感度(P. 109)	オート
フラッシュ補正(P. 85)	±0
フラッシュ選択(P. 177)	内蔵＋外部
スローシンクロ(P. 82)	先幕効果
ノイズリダクション (P. 118)	オフ

設定項目	初期設定
マルチ測光(P. 87)	オフ
デジタルズーム(P. 78)	オフ
フルタイムAF(P. 66)	オフ
AF方式(P. 65)	iESP
スーパーマクロ(P. 93)	オフ
パノラマ(P. 99)	オフ
合成ツーショット (P. 101)	オフ
ファンクション撮影 (P. 103)	オフ
撮影情報表示(P. 155)	オフ
ヒストグラム表示 (P. 157)	オフ
スチル画質(P. 104)	HQ
ホワイトバランス(P. 111)	オート
WB補正(P. 114)	±0
シャープネス(P. 115)	±0
コントラスト(P. 116)	±0
彩度(P. 117)	±0

*1 電源を入れたときの液晶モニタのオン／オフを設定します。
*2 モードでのズーム位置の設定は、32mm/50mm/70mm/96mmの中から選択できます。(表示されるズーム位置は35mmカメラの換算値です)

情報表示

撮影／再生時に表示される撮影情報の量を、「オン」、「オフ」で切り替えることができます。「オフ」設定では、最小限の情報のみを表示します。実際に表示される内容についてはP. 18〜21をご覧ください。

モードダイヤル設定 P A/S/M/My S-Prg ▶

P A/S/M/My S-Prg ：

トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「撮影情報表示」→「オン」を選択し、OK を押します。再度、OK を押すとメニューが消えます。

▶ ：

OK を押してメニューを表示します。◁ を押すと、「情報表示」が「オン」になります。

☞ メニューの操作方法(P. 44)

- 撮影情報が表示されます。
- 再生モードでは、再度 OK を押してトップメニューを表示させ ◁ を押すと、「オフ」に切り替わります。

例：再生モード

オフのとき

x10
HQ
SIZE: 2288x1712
F2.8 1/800 +2.0
ISO100
'02.09.12 12:30
FILE: 100–0020

オンのとき

重要！ DPOFを使用せずにプリントサービスを利用される方へ

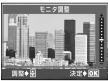
写真店などのプリントサービスをご利用になる場合は、プリントする画像は必ずファイル番号で指定してください。コマ番号で指定すると間違った画像がプリントされる場合があります。
ファイル番号は情報表示をオンにしたときに表示されます。

注 意

- 🎥 モードに設定していると、撮影情報表示は選択できません。

モニタ調整

液晶モニタの明るさを見やすいように調節します。

モードダイヤル設定 P A/S/M/My S-Prg ▶

1 トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「モニタ調整」を選択します。
☞ メニューの操作方法(P. 44)

2 明るくするには、△を押し、暗くするには、▽を押します。設定が決まったら、OK を押します。

初期設定：±0

ビープ音

カメラのボタン操作音や警告音などの音量を、「オフ」、「小」、「大」の中から選択できます。ご購入時は「大」に設定されていますが、音を消したいときは「オフ」に設定してください。

モードダイヤル設定 P A/S/M/My S-Prg ▶

トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「ビープ音」→「オフ」、「小」または「大」を選択し、OK を押します。再度、OK を押すとメニューが消えます。
☞ メニューの操作方法（P. 44）

初期設定：大

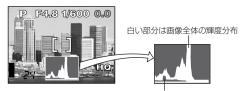
ヒストグラム表示

撮影時に、液晶モニタに写っている画像の輝度分布を、グラフ化して表示します。被写体の明るさのコントラストが分かるので、より厳密な露出コントロールが可能です。再生時には、撮影した画像のヒストグラムを表示します。
ヒストグラム表示は、撮影モードと再生モードで別々に設定することができます。

モードダイヤル設定 P A/S/M/MY S-Prg ▶

▽ボタン

OKボタン

P A/S/M/MY S-Prg ：
トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「ヒストグラム表示」→「オン」か「オフ」を選択し、OK を押します。再度、OK を押すとメニューが消えます。
▶ ：
OK を押してトップメニューを表示します。▽押すと、「ヒストグラム表示」が「オン」になります。
☞ メニューの操作方法（P. 44）

- ヒストグラムが表示されます。
- 再生モードでは、再度 OK を押してトップメニューを表示させ▽を押すと、「オフ」に切り替わります。

例：撮影モードでヒストグラムが表示されたところ（Pモード）

注 意

- 🎥 モードに設定していると、ヒストグラム表示は選択できません。
- 撮影時に表示されたヒストグラムは、再生時に表示されるものとは異なることがあります。
- 他のカメラで撮影した画像は、ヒストグラム表示ができない場合があります。

レックビュー

カードに記録中の画像を、液晶モニタに表示するかどうかの設定ができます。

■ オン

撮影した画像をカードに記録中に表示します。撮影した画像の簡単なチェックに便利です。また画像を表示中でも、シャッターボタンを半押しすればすぐに次の撮影に入れます。

■ オフ

カードに記録中の画像は表示しません。撮影しているときは、カメラを向けている被写体を表示し続けます。次の撮影のために被写体を追っているときなどに便利です。

モードダイヤル設定 P A/S/M/My S-Prg

トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「レックビュー」→「オン」か「オフ」かを選び、OKを押します。再度、OKを押すとメニューが消えます。 **☞ メニューの操作方法（P. 44）**

OK ボタン

初期設定：オン

注 意

- レックビューをオンに設定して、液晶モニタを消して撮影しているときに、電池残量が少ない場合はレックビュー表示をしないことがあります。
- 動画 モードに設定していると、レックビューは常にオンの状態で働きます。

PW ON/OFF設定

電源を入れたときや切ったときに、表示される画面の設定ができます。自分で画像を登録することもできます（P. 160）。自分で登録した画像を設定するには、「2」を選択します。

PW ON設定：電源を入れたときの画面を設定。
PW OFF設定：電源を切ったときの画面を設定。

トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「PW ON設定」（「PW OFF設定」）→「オフ」、「1」または「2」を選択し、OK を押します。再度、OK を押すとメニューが消えます。☞ メニューの操作方法(P. 44)

OK ボタン

オフ：画像の表示をしません。
1　：初期設定
2　：自分で登録した画像が選択できます。何も登録されていないと、電源を入れたとき／切ったときには、液晶モニタには何も表示されません。

注 意

●電源を切る際、電池残量警告が出ているときは、「PW OFF設定」で選択した画面を表示しない場合があります。

画面登録

電源を入れたときや切ったときに表示される画面を自分で登録できます。登録した画面を実際に使うには、PW ON/OFF設定（P. 159）をお読みください。

モードダイヤル設定 ▶

1 トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「画面登録」を選択します。▷を押します。

☞ メニューの操作方法(P. 44)

- 「画面登録」画面が表示されます。

2 △▽を押して以下の項目を選択し、㊊を押します。

電源を入れたときの画面を登録→「PW ON」を選択。

電源を切ったときの画面を登録→「PW OFF」を選択。

- すでに画面が登録されている場合は、その画面を解除して、新たに画面を登録するかどうかのメッセージが表示されます。「解除しない」を選択したときは、PW ONかPW OFFを選択する画面に戻ります。

3 △▽◁▷を押して、登録したい画像を選択します。㊊を押します。

- 画像の登録を実行するかどうかを確認する「画面登録」画面が表示されます。

「PW ON」を選択した場合

4 △▽を押して「決定」を選択し、㊊を押します。

- 画面が登録されます。登録が終わると、PW ONかPW OFFを選択する手順2の画面に戻ります。

「PW OFF」を選択した場合

5「画面登録」画面から抜けるには、◁を押します。

注 意

●このカメラで正しく再生できない画像、およびムービーコマは登録することはできません。

ファイル名メモリー

記録される画像に、ファイル名とそのファイルが入るフォルダ名がカメラ内部で自動的に生成されます。ファイル名とフォルダ名はそれぞれファイルNo.(0001-9999)、フォルダNo.(100-999)を含み、次のように付けられます。

●ファイル名の「月」の表記は、1月～9月は1～9、10月はA、11月はB、12月はCとなります。

フォルダNo.とファイルNo.の付け方は「リセット」、「オート」の二通りがありますので、パソコンに画像を取り込む際に扱いやすい方をお選びください。

■ リセット

カードを入れ換えたときにフォルダNo.、ファイルNo.が両方ともリセットされます。フォルダNo.はNo.100に、ファイルNo.はNo.0001に戻ります。カード別に画像を管理するときに便利です。

■ オート

カードを入れ替えても、フォルダNo.ファイルNo.ともに前のカードから継続されます。複数のカードを管理するときでもファイル名が重複することがありません。全ての画像を通し番号で管理するのに便利です。

モードダイヤル設定 P A/S/M/My S-Prg

1 トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「ファイル名メモリー」の順に選択します。
☞ メニューの操作方法(P. 44)

2 「リセット」、「オート」のいずれかを選択し、Ⓞを押します。

ヒント

- **ファイルNo.が9999を超えたとき**
  ファイルNo.は0001に戻りますが、フォルダNo.が変わります。(No.100→No.101など)
- **最大のフォルダNo.(999)、ファイルNo.(9999)に達したとき**
  カードに残量があっても撮影可能枚数が0になり、撮影ができません。新しいカードに取り替えてください。

ピクセルマッピング

CCDと画像処理機能のチェックと調整を同時に行います。
この機能は、すでに工場出荷時に調整済みのため、お買い上げ後すぐに調整する必要はありません。
調整は、年に一度を目安とし、最適な効果を得るため、撮影・再生直後より1分ほどの時間を空けた後に実行します。

モードダイヤル設定 P A/S/M/My S-Prg

1 トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「ピクセルマッピング」の順に選択し、▷ を押します。

メニューの操作方法(P. 44)

- 「スタート」と表示されます。

2 を押します。

- ピクセルマッピング実行中は画面に動作時間を示すバーが表示されます。
- 終了すると、メニュー画面に戻ります。

注意

- 誤って処理中にカメラの電源を切ってしまった場合は、必ずもう一度このチェックを行なってください。

m/ft設定

マニュアルフォーカスモードでは（P. 68)、液晶モニタに表示される長さの単位を、m（メートル単位）とft（フィート単位）から選択できます。
長い距離を示す時は、メートル/フィート表示に、短い距離を示す時はセンチ/インチ表示になります。

モードダイヤル設定

ボタン

トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「m/f設定」→「m」か「ft」を選択します。を押します。再度、を押すとメニューが消えます。 **☞ メニューの操作方法 (P. 44)**

初期設定：m

注 意

● モードに設定していると、m/ft設定は選択できません。

ビデオ出力

お使いのテレビの映像信号に合わせて、NTSCかPALを選択します。海外旅行先のテレビに接続して再生するときに、設定を合わせてください。映像（ビデオ）信号は、撮影前に選択してください。間違った映像（ビデオ）信号を選択して撮影すると、テレビで画像がうまく再生できません。

モードダイヤル設定 P A/S/M/My S-Prg ▶

トップメニューから「モードメニュー」→「設定」→「ビデオ出力」→「NTSC」か「PAL」を選択し、OK を押します。再度、OK を押すとメニューが消えます。☞ メニューの操作方法(P. 44)

初期設定：NTSC

主な国と地域のテレビ映像信号方式
NTSC　：韓国、台湾、日本、北米
PAL　　：中国、ヨーロッパ諸国
カメラをお使いのときは、あらかじめご確認ください。

プリント方法

このカメラで撮影し、カードに保存されている画像をプリントするには、以下の方法があります。

■ **プリント予約を設定（P. 168）してDPOF対応のお店でプリント、またはDPOF対応のプリンタでプリント**

カードにプリント予約をします。プリント予約とは、カード内の画像に、プリントする枚数や日付を印刷する指定を記憶させることです。

● DPOFとは？

Digital Print Order Formatの略称。デジタルカメラの自動プリントアウト情報を記録する形式です。

プリント予約したカードをお店に持っていくと、その予約内容のとおりにプリントができます。家庭でもDPOF対応のプリンタがあれば、可能になります。

■ **オリンパス製デジタルプリンタCAMEDIA P-400/P-200/P-330Nでプリント**

パソコンを使わずに、専用プリンタにカードを直接差し込んでプリントできます。詳しくはお使いのプリンタの取扱説明書をご覧ください。

■ **画像をパソコンに転送して、パソコンに接続しているプリンタでプリント**

パソコン上でJPEGの画像を表示するソフトウェア（インターネット閲覧ソフトやペイントソフトなど）があれば、パソコンに接続したプリンタでプリントすることができます。（CAMEDIA Masterを使ってもプリントできます。）

お使いのソフトウェアでプリントできることをあらかじめご確認ください。また、プリント予約の機能は使用できません。

詳しくはお使いのソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

ヒント

撮影時の画質モードとプリントの関係

パソコンやプリンタの解像度には一般的に1インチあたりの点(ピクセル)の数が用いられ、dpi (dot per inch)と呼ばれています。同じ画像をプリントしても、プリント時のdpiの値を大きくすることでより鮮明に印刷することができますが、撮影された画像のピクセル数は変わらないため、実際に印刷されるサイズは小さくなります。その画像を拡大してプリントすることもできますが、画質は粗くなります。

プリントすることを前提として撮影するときや、大きいサイズでプリントしたいときは、撮影時の画質モード（P. 104）をできるだけ高いものに設定することをおすすめします。

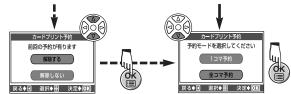
重要！

DPOFを使用せずにプリントサービスを利用される方へ

写真店などのプリントサービスをご利用になる場合は、プリントする画像は必ずファイル番号で指定してください。コマ番号で指定すると間違った画像がプリントされる場合があります。
ファイル番号は情報表示をオンにしたときに表示されます。（P. 20、21、155）

（例）

FILE: 100-0016

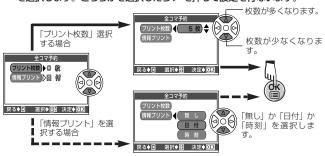
フォルダの通し番号　画像の通し番号

注 意

- 他のDPOF機器で設定されたDPOF予約内容を、このカメラで変更することはできません。予約した機器で変更してください。
- 他の機器でDPOF予約されているファイルがある場合、このカメラで新たにDPOF予約を行なうと、以前に予約した内容は消去されます。
- 「この画像は再生できません」と表示される画像でも、プリント予約を設定できることがあります。その場合、1コマ再生だとプリント予約マーク（凸）は表示されません。複数の画像を表示しているときは（インデックス表示）、マーク（凸）が表示され、プリント予約を確認できます。
- オリンパス製デジタルプリンタP-300など、カメラに直接プリンタを接続してダイレクトプリントを行うプリンタでは、プリントできません。
- プリンタまたはラボにより、一部機能が制限されることがあります。
- P-330Nで印刷する場合、カード内に記録された999枚目以降の画像は、プリントできません。
- TIFFで記録された画像は、プリントできない場合があります。
- プリント予約には時間がかかることがあります。
- カードにプロテクトシールが貼られているとプリント予約はできません。

全コマ予約〜カードの中の全画像をプリント予約する

1 **静止画を再生します。**

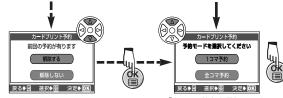
- 🎥 のついた画像は、プリントできません。

2 **凸 ボタンを押して、「カードプリント予約」画面を表示します。**

再生しているカードに、すでにプリント予約したコマがある場合は、その予約設定を残すか解除するかの選択画面が表示されます。(P. 175)

「全コマ予約」を選択します。

3 **△▽を押して「プリント枚数」か「情報プリント」（日付・時刻の設定）を選択します。どちらかを選択したら▷を押して設定を行ないます。**

4 設定を終えたら、 ㊋ を押します。
- トップメニューが表示されます。

5 ㊋ を押して、トップメニューから抜けます。
- 選択画面が消えて、画像が再生されます。
- 画面にプリント予約マークとプリント枚数が表示されます。

1 コマ予約～選択した画像のみをプリント予約する

1 静止画を再生します。
- 🎞 のついた画像は、プリントできません。

2 凸 ボタンを押して、「カードプリント予約」画面を表示します。

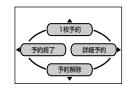
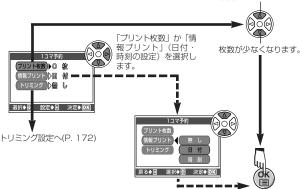
再生しているカードに、すでにプリント予約したコマがある場合は、その予約設定を残すか解除するかの選択画面が表示されます。(P. 175)

「1 コマ予約」を選択します。

9 プリント設定

3 △▽◁▷を押して、プリント予約したいコマを選択します。㊙を押します。
- メニューが表示されます。

画像を選択しているとき

4 プリント予約したい内容に応じて、十字ボタンで項目を選択します。

詳細予約：プリント枚数の設定・日付けと時刻入り印刷の設定・トリミング設定→**手順5へ。**
1枚予約：プリント枚数が1枚のみ・日付け入り印刷の設定。トリミング設定なし。→**手順6へ。**
予約解除：プリント予約の解除→**手順6へ。**
予約終了：プリント予約の終了→**手順7へ。**

5 「1コマ予約」画面で、「プリント枚数」・「情報プリント」（日付けと時刻の設定）・「トリミング」を設定します。それぞれの設定を終えたら、㊙を押します。
- 画像が再生されます。

6 **Ⓞ を押して、手順4のメニューを再度表示させます。◁ を押して「予約終了」を選択します。**
- 1コマ予約または全コマ予約を選択する「カードプリント予約」画面が表示されます。
- 続けて他の画像をプリント予約するときは、手順3～6を繰り返します。

7 **「カードプリント予約」画面が消えるまで、繰り返し ◁ を押します。**
- トップメニューが表示されます。

8 **Ⓞ を押して、トップメニューから抜けます。**
- プリント予約マーク・プリント枚数・日時が表示されていることを確認ください。プリント枚数の設定が1枚のときは、枚数は表示されず凸 マークのみです。

トリミング設定

モードダイヤル設定

撮影した画像の一部を拡大して、プリントします。

1 **「1コマ予約～選択した画像のみをプリントする」の手順1～5をします。手順5では「トリミング」を選択します。****（P. 169、170）**

↓

すでにトリミングが設定されている場合は、「トリミング」画面が表示されます。「再設定」を選択し、㊊を押します。

- 「決定」、「解除」を選択して㊊を押すと「1コマ予約」画面に戻ります。(P.170の手順5の画面)
  設定されているトリミングを保存→**決定**
  再度トリミングをしなおす→**再設定（手順2へ）**
  トリミングを解除する→**解除**

2 **トリミングのサイズを決める画面が表示されます。トリミングしたい画像の左上端の位置を決めます。以下の方法で、トリミング枠の角を動かします。**

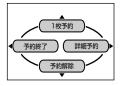
ズームレバーをW側に動かす（画面上では、枠の角が左上に向かって動きます）

ズームレバーをT側に動かす（画面上では、枠の角が右下に向かって動きます）

十字ボタンを押して、トリミング枠の位置を動かすことができます。動かしたい方向の矢印と同じ十字ボタンを押します。上下左右の限界位置に達したら、その方向の矢印は、表示されません。

3 Ⓞ を押して左上端の位置を決定します。

4 右下端の位置を決めます。トリミング枠の角を動かす方法は、手順2と同じです。Ⓞ を押して、右下端の位置を決定します。

- 設定されたトリミングサイズが約1秒間表示されます。

十字ボタンを押して、トリミング枠の位置を動かすことができます。動かしたい方向の矢印と同じ十字ボタンを押します。上下左右の限界位置に達したら、その方向の矢印は、表示されません。

5 「トリミング」画面（手順1の画面）で、「決定」を選択します。

- 「1コマ予約」画面に戻ります。

6 設定を終えるため、 ㊎ を2回押します。

7 ◁ を押して「予約終了」を選択します。
- 1コマ予約または全コマ予約を選択する「カードプリント予約」画面が表示されます。

8「カードプリント予約」画面が消えるまで、繰り返し ◁ を押します。
- トップメニューが表示されます。

9 ㊎ を押して、トップメニューから抜けます。

注意

- プリントされる画像の大きさは、プリンタの設定によります。トリミングの大きさが小さいと、プリントするときの拡大率が大きくなるため、プリント画像は粗くなります。
- 詳細なクローズアッププリントを行なうためには、TIFF、SHQまたはHQモードでの撮影をおすすめします。
- トリミング画面の縦横比は、十字ボタンを使って変えられますが、ズームレバーを使うと4：3に固定されます。 3:2 で記録されている画像も、縦横比が4:3にトリミングされます。

プリント予約を解除する

モードダイヤル設定 ▶

カード内のすべての画像のプリント予約を解除します。

1 十字ボタンで静止画を再生します。
- 🎥 のついた画像は、プリントできません。

2 凸 ボタンを押して、「カードプリント予約」画面を表示します
- 再生しているカードに、すでにプリント予約したコマがない場合は、「解除する」、「解除しない」の画面は、表示されません。

3 「解除する」を選択します。

■ 選択した画像のみの予約の解除

❶「解除しない」を選択して先へ進み、1コマ予約のなかのプリント枚数の設定を0にします。→1コマ予約の手順2〜4（P. 169、170）

❷ Ⓞ を押して、メニューを表示します。◁を押して「予約終了」を選択します。以下の手順をします。

4 ◁ を押して、トップメニューに戻ります。 Ⓞ を押して、トップメニューから抜けます。

外部フラッシュ

専用外部フラッシュを使って撮影する

専用外部フラッシュFL-40で、多彩なフラッシュ撮影を行うことができます。専用外部フラッシュのみでの撮影だけでなく、内蔵フラッシュと併用しての撮影も可能です。
専用外部フラッシュを使うと、カメラのフラッシュモード、露出設定を自動的に検出するなど、内蔵フラッシュと同様に扱うことができます。
さらに内蔵フラッシュと併用すると、内蔵フラッシュでキャッチライト効果を得る等、高度なフラッシュ撮影が可能になります。
専用外部フラッシュFL-40とカメラを接続するには、専用のフラッシュブラケットFL-BK01（別売）と専用ブラケットケーブルFL-CB01（別売）が必要となります。

モードダイヤル設定 P A/S/M/My S-Prg

1 外部フラッシュFL-40を専用フラッシュブラケットに取り付け、カメラの三脚穴に固定させてから、専用ブラケットケーブルをフラッシュブラケットとカメラの外部フラッシュ端子に接続します。

- 専用外部フラッシュ・フラッシュブラケット・ブラケットケーブルそれぞれの取扱説明書もお読みください。
- 外部フラッシュ端子のキャップはネジ式ですので、接続の際はキャップを廻して外し、ご使用ください。

外部フラッシュ端子

2 **トップメニューから「モードメニュー」→「撮影」→「フラッシュ選択」の順に選択します。**

外部フラッシュのみを使う場合

→「外部」を選択し、OK を押します。再度、OK を押すとメニューが消えます。

内蔵フラッシュと併用して、外部フラッシュを使う場合

→「内蔵＋外部」を選択し、OK を押します。再度、OK を押すとメニューが消えます。

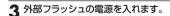
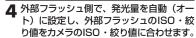
☞ **メニューの操作方法(P. 44)**

3 **外部フラッシュの電源を入れます。**

- 外部フラッシュのモードは、「TTL-AUTO」になります。
- シャッターボタンを半押しすると、カメラと通信をして自動的にフラッシュに「TTL-AUTO」が表示されます。カメラの液晶モニタが点灯しているときは、通信を続けているので、常に「TTL-AUTO」と表示されます。

4 **ϟ（フラッシュモード）ボタンでフラッシュモードを選択します。(P. 82)**

注 意

- 近距離撮影時は露出オーバー（明るすぎ）になることがありますので、その際は内蔵フラッシュのみで撮影してください。
- 内蔵フラッシュとFL-40を両方発光させる場合は、内蔵フラッシュは補助光源として発光しますので、FL-40の光量が不足する場合は露出が不足する場合があります。

市販の外部フラッシュを使って撮影する

専用フラッシュブラケットFL-BK01（別売）と専用ブラケットケーブルFL-CB01（別売）を使って、市販の外部フラッシュも使用できます。（モードダイヤルがA/S/M/My 設定時のみ）
使用できる市販の外部フラッシュについては次頁をお読みください。

モードダイヤル設定 ＞ **A/S/M/My**

外部フラッシュ端子

1 **外部フラッシュを専用フラッシュブラケットに取り付け、カメラの三脚穴に固定させてから、専用ブラケットケーブルをカメラの外部フラッシュ端子に接続します。**

2 **P. 53の「A/S/M/My モード設定」にしたがって、Mを選択します。シャッター速度と絞り値を設定します。(P. 53)**

- シャッター速度を遅く設定した場合、画像がぶれて撮影されますのでご注意ください。またフラッシュの効果を出すため、シャッター速度は1/200～1/300 までに設定されることをおすすめします。

3 **外部フラッシュの電源を入れます。**

4 **外部フラッシュ側で、発光量を自動（オート）に設定し、外部フラッシュのISO・絞り値をカメラのISO・絞り値に合わせます。**

- 外部フラッシュ側のモードの選択方法は、各フラッシュの取扱説明書をご覧ください。

注 意

- カメラのフラッシュモードは、市販の外部フラッシュには適用されません。外部フラッシュは、カメラのフラッシュモードが発光禁止でも発光します。
- お使いになる外部フラッシュがカメラに同調するか、あらかじめご確認の上ご使用下さい。

使用できる市販外部フラッシュについて

市販の外部フラッシュをお使いになる前に、下記の事項を必ずご確認ください。

（1）市販のフラッシュには、シンクロ端子が高圧タイプのものがあります。このようなフラッシュを使用した場合、カメラを故障させる原因になったり、正常に動作しない場合があります。お使いのフラッシュのシンクロ端子の仕様については、フラッシュのメーカーにお問い合わせ下さい。

（2）市販のフラッシュには、シンクロ端子の極性が逆の機種があり、この場合接続しても発光しません。フラッシュのメーカーへご相談下さい。

（3）外部フラッシュ使用時の露出は、外部フラッシュ側で調節する必要があります。外部フラッシュをオートモードでご使用になる場合は、カメラで設定されているF値とISO感度に合わせることのできる製品をお使い下さい。

（4）外部フラッシュのオートF値やISO感度をカメラと同条件に設定しても、撮影条件によっては適正露出にならない場合があります。このような場合は外部フラッシュ側のオートF値かISO値をシフトするか、マニュアルモードで距離を計算してご使用ください。但し、オートF値、ISO値のシフトは1段刻みが一般的でそれ以下の露出補正は出来ません。（カメラ側の露出補正は外部フラッシュ撮影においては無効となります。）

（5）照射角度は35mmフィルム換算で、32mmレンズ以上カバーする製品をご使用ください。但し、ワイド側の近距離撮影においては、画面下がけられる場合があります。フラッシュの配光を広げるワイドアダプタが付属されているものが理想的です。

（6）フル発光時の閃光時間が1/200秒以下の製品をご使用ください。
リングフラッシュ等閃光時間が長いものは、光の一部が露出に寄与しなくなる場合があります。

（7）**FL-40以外の通信機能付きフラッシュ、およびその付属品をお使いになると正常に機能しないだけでなく、故障の原因となる事がありますのでご使用にならないでください。**

修理に出す前にお確かめください

原因	こうしましょう	参照ページ
カメラが動かない、またはボタンを押しても動かない。		
①電池の残量がない。	❶新しい電池を入れてください。	P. 25
②電源が切れている。	❷モードダイヤルをOFF以外にして、電源を入れてください。	P. 30
③電池の向きが正しくない。	❸電池を正しく入れ直してください。	P. 25
④寒さで電池の性能が一時的に低下した。	❹電池が冷えきっています。電池を使用する前に室温になるまで温めてください。屋外では電池をポケットに入れるなどして温めてください。	—
⑤パソコンに接続している。	❺パソコンとの通信時は、カメラは動作しません。	—
⑥カメラがスリープモードになっています。	❻シャッターボタンやズームレバーを操作してください。	P. 30
ファインダ横の緑ランプとオレンジランプが同時に点滅している。		
①電池の残量がない。	❶新しい電池を入れてください。	P. 25
液晶モニタが点灯しない。		
①カメラがスリープモードになっています。	❶シャッターボタンやズームレバーを操作してください。	P. 30
シャッターボタンを押しても撮影ができない。		
①モードダイヤルが、▶にセットされている。	❶モードダイヤルを▶以外にセットしてください。	P. 52
②メモリゲージがすべて点灯している。	❷メモリーゲージの一番上が消灯するまで、お待ちください。	P. 22
③フラッシュの充電が完了していない。	❸一度シャッターボタンから指を離し、オレンジランプの点滅が終わってから、撮影してください。	P. 84

原因	こうしましょう	参照ページ
シャッターボタンを押しても撮影ができない。		
④ 🎥（ムービー）モードで撮影後、カードアクセスランプが点滅している。	❹撮影画像をカードに記録中です。カードアクセスランプが消えてから、撮影してください。	P. 76
⑤カードに問題がある。	❺エラーコード表示一覧でご確認ください。	P. 188
⑥カードの容量がいっぱいになった。	❻カードを交換する、不要な画像を消去するなどの操作を行ってください。消去する前、大切な画像はパソコンに転送してください。	P. 137
⑦撮影中やカードの書き込み中に電池がなくなった。	❼新しい電池と交換してください。	P. 25
⑧液晶モニタの表示が消えた。または、電池残量警告マークのみが点滅している。	❽電池を交換してください。（カード記録中の場合、完了するまでお待ちください。）	P. 25
⑨カードにライトプロテクトシールが貼られている、またはカメラにカードが入っていない。	❾新しいカードを入れてください。	P. 29
画像データに記録される日付が正しくない。		
①日付が設定されていない。	❶日付設定をしてください。（お買い上げ時には日付の設定がされていないので、記録されません。）	P. 32
②電池を抜いた状態で放置したので、日時設定が解除された。	❷再度、日付設定をしてください。	P. 32
自分で設定した機能が解除された。		
①設定を保持しないで、電源を切っている。	❶設定クリアをオフにしてください。	P. 143

原因	こうしましょう	参照ページ
画面表示が日本語でなくなった。		
①メニュー表示の言語が、日本語以外に設定されている。	❶言語を日本語に設定してください。	P. 35
フラッシュが発光しない。		
①フラッシュモードが発光禁止になっている。	❶ ϟ ボタンを押して、フラッシュモードを発光禁止以外にしてください。	P. 82
②明るい被写体である。	❷フラッシュを強制的に発光させたい場合は、強制発光モードにしてください。	P. 79
③連写モードが設定されている。	❸ドライブモードを単写に設定してください。	P. 95
④ 🎥（ムービー）モードで撮影している。	❹ 🎥 モード以外に設定してください。	P. 52
⑤パノラマ撮影が設定されている。	❺パノラマモードを解除してください。	P. 99
⑥ファンクション撮影が白板・黒板になっている。	❻ファンクション撮影をオフにしてください。	P. 103
液晶モニタ上で再生ができない。		
①撮影モードになっている。	❶モードダイアルを ▶ にセットしてください。	P. 119
②カードに画像が記録されていない。	❷液晶モニタに「画像が記録されていません」と表示されます。撮影してから再生してください。	P. 37、38、188
③カードに問題がある。	❸エラーコード表示一覧でご確認ください。	P. 188
④テレビに接続している。	❹テレビに接続しているときは、液晶モニタは点灯しません。	P. 140
ファインダが見えにくい。		
①視度調節が正しくない。	❶見やすいように調整してください。	P. 36

原因	こうしましょう	参照ページ
液晶モニタが見にくい。		
①液晶モニタの明るさが適切でない。 ②太陽光の下である。	❶見やすいように調整してください。 ❷太陽の光を手などでさえぎるか、移動して太陽の光をさけてください。	P. 156 —
画像の回転、プロテクト、1コマ消去、全コマ消去プリント予約、フォーマットができない。		
①カードにライトプロテクトシールが貼られている。	❶シールを剥がしてからご使用ください。（シールは再使用しないでください。）	P. 28
フラッシュを使って人物撮影したら、目が赤く写ってしまった。		
①フラッシュモードがオート発光になっている。	❶赤目軽減発光モードを使い、発生頻度を大幅に軽減できます。（フラッシュを用いた人物撮影では、目が赤く写ることがあります。これは網膜がフラッシュの光を反射するために、起こる現象で完全に防ぐことはできません。発生頻度や出方も個人差が大きく、また周囲の明暗等の撮影条件によっても異なります。）	P. 79
ピントの合っていない写真ができた。		
①シャッターボタンを押すときにカメラぶれが起こってしまった。 ②ピントを合わせたいものが、AFターゲットマークからはずれてしまった。 ③レンズが汚れていた。	❶カメラが動かないようにカメラを正しく構え、シャッターボタンを静かに押してください。 ❷ピントを合わせたいものを画面中央に持ってくるか、フォーカスロック撮影を行ってください。 ❸レンズをきれいにしてください。	P. 36、62 P. 63、64 P. 187

原因	こうしましょう	参照ページ
ピントの合っていない写真ができた。		
④セルフタイマー撮影で、カメラの前に立ってシャッターボタンを押した。	❹カメラの前に立たず、ファインダをのぞきながらシャッターボタンを押してください。	P. 94
⑤マニュアルフォーカスで被写体までの距離を確認せずに撮影してしまった。	❺マニュアルフォーカスの合焦距離範囲で撮影してください。	P. 68
撮影した画像が明るすぎる。		
①フラッシュモードが強制発光になっていた。	❶強制発光以外のフラッシュモードを選んでください。	P. 82
②被写体が明るすぎた。	❷露出補正をするか、カメラの向きを変えるなどの工夫をしてください。	P. 110
撮影した画像が暗い。		
①フラッシュを指などで覆ってしまった。	❶カメラを正しく構え、フラッシュを覆わないように気を付けてください。	P. 36
②撮りたいものがフラッシュ撮影範囲よりも遠くにあった。	❷フラッシュ撮影可能範囲内で撮影してください。	P. 83
③フラッシュモードが発光禁止になっている。	❸ϟボタンを押して、フラッシュモードを発光禁止以外にしてください。	P. 82
④逆光状態で小さい被写体を撮影した。	❹フラッシュモードを強制発光にセットするか、スポット測光モードにして撮影してください。	P. 79、86
⑤連写モードで撮影した。	❺連写モードでは、シャッター速度の最長秒時が短くなるので、暗い場所では通常よりも暗く写ります。	P. 95

原因	こうしましょう	参照ページ
室内で写した写真の色がおかしい。		
①照明の色が影響した。	❶照明に合わせてホワイトバランスを設定してください。	P. 112
②被写体に白い部分がなかった。	❷画角に白い被写体を入れて撮影するか、フラッシュモードを強制発光にして撮影してください。	P. 79
③ホワイトバランスの設定を間違えた。	❸光源に合わせてホワイトバランスを設定してください。	P. 112
画像の一部が欠けてしまった。		
①レンズに指やストラップがかかってしまった。	❶カメラを正しく構え、レンズに指やストラップをかけないように気を付けてください。	P. 36
画像のハレーション部に不自然な色がつく。		
①紫外線の影響で輝度差の大きい被写体（木漏れ日、夜景での明るい窓の枠、直射日光下の金属の反射など）を撮影すると、発生する場合があります。	❶●UVフィルターを使用します。全体の色再現バランスを崩す場合がありますので、左記の条件下のみでのご使用をお薦めします。 ●画像をパソコンでレタッチします。フォトレタッチソフト（Photoshop、Paint Shop Proなど）を使用して、レタッチします。不自然な色の部分をスポイトツールなどで抽出したあと、色域指定を行ない、色変換や色彩度の調整をする方法があります。レタッチの方法は、各ソフトウェアの取扱説明書をお読みください。	ー

原因	こうしましょう	参照ページ
カメラとテレビを接続しても、テレビに映像が出ない。		
① カメラの映像出力信号を間違えた。	❶ 使用する地域のビデオ出力の設定に合わせてください。	P. 165
② モードダイヤルの設定を間違えた。	❷ モードダイヤルを ▶ に設定してください。	P. 119
③ テレビの映像信号の設定を間違えた。	❸ テレビを映像入力モードにしてください。	P. 140

カメラのお手入れと保管

使用後のカメラの取り扱い

電源を切り、レンズキャップをつけてください。

カメラのお手入れ

1 カメラの電源を切ります。(P. 30)

2 電池を取り出します(P. 25)。(ACアダプタをお使いの場合は、まず接続コードプラグをカメラから抜き、その後電源プラグをコンセントから抜いてください。)

3 **カメラの外側**... 柔らかい布でやさしく拭いてください。汚れがひどい場合は、うすめた低刺激のせっけん水に布をひたして、硬く絞ってから、汚れを拭き取ります。そのあと、乾いた布でよく拭きます。海辺でカメラを使用した場合は、真水で浸した布を硬く絞って拭き取ります。

液晶モニタとファインダ... 柔らかい布でやさしく拭きます。

レンズ... レンズブロワー(市販)でほこりを吹き払って、レンズクリーニングペーパーでやさしく拭きます。

カード... 乾いた柔らかい布で拭きます。

注 意

- 絶対にベンジンやアルコールなどの強い溶剤や化学雑巾を使わないでください。
- お手入れをする前に、必ず電池やACアダプタをカメラから取り外してください。
- レンズを汚れたままにしておくと、かびが生えることがあります。

エラーコード表示一覧

このカメラでは各種の警告をエラーコードで表示します。エラー表示は点滅します。

液晶モニタ表示	原因	こうしましょう
カードを認識できません	カードが入っていません、または認識できません。	正しくカードを入れるか、別のカードを入れてください。
撮影可能枚数が0です	撮影可能枚数が0のため撮影できません。	カードを交換するか、不要なコマを消去してください。
書き込み禁止になっています	カードが書込み禁止になっています。	カードに貼られたプロテクトシールを剥がしてください。
このカードは使用できません	このカードで撮影、再生、消去をすることができません。	カードが汚れている場合は、クリーニングペーパーで拭いてから再度カードを入れてください。それでもこの表示が消えないときは、このカードは使用できません。
この画像は再生できません	記録されている画像がこのカメラでは再生することができません。	パソコンなどの画像ソフトで再生して下さい。それも出来ない場合は、画像ファイルの一部が壊れています。

液晶モニタ表示	原因	こうしましょう
カードセットアップ 電源オフ フォーマット 選択 実行 OK	カードがフォーマットされていません。	カードをフォーマットしてください。
画像が記録されていません	記録画像がないため、画像が再生できません。	撮影画像の入ったカードを入れてください。
カード残量がありません	カードに空き容量がなく、プリント予約データを含む新たな記録をすることができません。	カードを交換するか、不要なコマを消去してください。
カードカバーが開いています	カードカバーが開いています。	カードカバーを閉めてください。
電池残量がありません	電池残量がないため、カメラは動作しません。ファインダ横の緑ランプとオレンジランプが同時に点滅している。	新しい電池、または充電された電池と交換してください。
表示なし	カメラ内部の温度が高くなっています。	電池を抜いてカメラが冷えるまで待ってください。
その他	カスタマーサポートセンターにご相談ください。	

メニュー・マップ

● Pモード

トップメニュー	タブ	項目	選択肢
モードメニュー	撮影	セルフタイマー(P. 94)	オフ、オン
		ドライブ(P. 95)	単写、連写、AF連写、BKT(±0.3、±0.7、±1.0/x3、x5)
		ISO感度(P. 109)	オート、100、200、400
		フラッシュ補正(P. 85)	−2.0〜+2.0
		フラッシュ選択(P. 177)	内蔵+外部、外部
		スローシンクロ(P. 82)	先幕効果、赤目・先幕効果、後幕効果
		ノイズリダクション(P. 118)	オフ、オン
		マルチ測光(P. 87)	オフ、オン
		デジタルズーム(P. 78)	オフ、オン
		フルタイムAF(P. 66)	オフ、オン
		AF方式(P. 65)	iESP、スポット
		スーパーマクロ(P. 93)	オフ、オン
		パノラマ(P. 99)	
		合成ツーショット(P. 101)	
		ファンクション撮影(P. 103)	オフ、モノクロ、セピア、白板、黒板
		AFターゲット選択(P. 67)	
		撮影情報表示(P. 155)	オフ、オン
		ヒストグラム表示(P. 157)	オフ、オン
	画像	画質モード(P. 104)	TIFF(2288x1712、3:2 2288x1520、2048x1536、1600x1200、1280x960、1024x768、640x480) SHQ(2288x1712、3:2 2288x1520、プリント拡大3200x2400) HQ(2288x1712、3:2 2288x1520、プリント拡大3200x2400) SQ1(2048x1536、1600x1200、1280x960/高画質、標準) SQ2(1024x768、640x480/高画質、標準)
		ホワイトバランス(P. 111)	オート、プリセット(、、、1、2、3)、ワンタッチ
		WB補正(P. 114)	−7〜+7
		シャープネス(P. 115)	−5〜+5
		コントラスト(P. 116)	−5〜+5
		彩度(P. 117)	−5〜+5
	カード	カードセットアップ(P. 139)	フォーマット、中止

次のページにつづく

● Pモード（つづき）

トップメニュー	タブ	項目	選択肢
モードメニュー	設定	設定クリア(P. 143)	オフ、オン
		AあÄ文(P. 35)	日本語、ENGLISH、FRANCAIS、DEUTSCH
		PW ON設定(P. 159)	オフ、1、2
		PW OFF設定(P. 159)	オフ、1、2
		レックビュー(P. 158)	オフ、オン
		ビープ音(P. 156)	オフ、小、大
		マイモード設定(P. 151)	現設定（登録、中止）、クリア（クリア、中止）、カスタム＊／My1、My2、My3、My4
		ファイル名メモリ(P. 161)	リセット、オート
		ピクセルマッピング(P. 163)	
		モニタ調整(P. 156)	－……◆……＋
		日時設定(P. 32)	
		m/ft設定(P. 164)	m、ft
		ビデオ出力(P. 165)	NTSC、PAL
		ショートカット設定(P. 148)	A、B／「ターゲット選択」以外の撮影タブの項目すべてと画像タブに含まれる項目すべて
		カスタムボタン設定(P. 145)	VIRTUAL DIAL、AEロック、セルフタイマー、ドライブ、ISO感度、フラッシュ選択、スローシンクロ、ノイズリダクション、デジタルズーム、フルタイムAF、AF方式、スーパーマクロ、ファンクション撮影、撮影情報表示、ヒストグラム表示、画質モード、ホワイトバランス
セルフタイマー(P. 94)			オフ、オン
画質モード(P. 104)			前ページ画質モードの選択肢と同様
ドライブ(P. 95)			前ページドライブの選択肢と同様

＊「カスタム」の選択肢は、P. 154の「マイモード設定」が適応される項目をお読みください。

● A/S/M/My モード

トップメニュー	タブ	項目	選択肢
モードメニュー	撮影	セルフタイマー(P. 94)	オフ、オン
		ドライブ(P. 95)	単写、連写、AF連写、BKT(±0.3、±0.7、±1.0/x3、x5)＊
		ISO感度(P. 109)	100、200、400
		フラッシュ補正(P. 85)	−2.0～+2.0
		フラッシュ選択(P. 177)	内蔵+外部、外部
		スローシンクロ(P. 82)	先幕効果、赤目・先幕効果、後幕効果
		ノイズリダクション(P. 118)	オフ、オン
		マルチ測光(P. 87)	オフ、オン
		デジタルズーム(P. 78)	オフ、オン
		フルタイムAF(P. 66)	オフ、オン
		AF方式(P. 65)	iESP、スポット
		スーパーマクロ(P. 93)	オフ、オン
		合成ツーショット(P. 101)	
		ファンクション撮影(P. 103)	オフ、モノクロ、セピア、白板、黒板
		AFターゲット選択(P. 67)	
		撮影情報表示(P. 155)	オフ、オン
		ヒストグラム表示(P. 157)	オフ、オン
	画像	画質モード(P. 104)	TIFF(2288x1712、3:2 2288x1520、2048x1536、1600x1200、1280x960、1024x768、640x480) SHQ(2288x1712、3:2 2288x1520、プリント拡大3200x2400) HQ(2288x1712、3:2 2288x1520、プリント拡大3200x2400) SQ1(2048x1536、1600x1200、1280x960/高画質、標準) SQ2(1024x768、640x480/高画質、標準)
		ホワイトバランス(P. 111)	オート、プリセット(☀、☁、☀、1、2、3)、ワンタッチ
		WB補正(P. 114)	−7～+7
		シャープネス(P. 115)	−5～+5
		コントラスト(P. 116)	−5～+5
		彩度(P. 117)	−5～+5
	カード	カードセットアップ(P. 139)	フォーマット、中止

次のページにつづく

＊ Mモードでは選択できません。

注意：
- Pモードに設定した My モードでカメラを使用している場合、モードメニューは、Pモードのモードメニューと同じになります。P. 190のメニュー・マップをご覧ください。

● A/S/M/My モード（つづき）

トップメニュー	タブ	項目	選択肢
モードメニュー	設定	設定クリア(P. 143)	オフ、オン
		AあÄ文(P. 35)	日本語、ENGLISH、FRANCAIS、DEUTSCH
		PW ON設定(P. 159)	オフ、1、2
		PW OFF設定(P. 159)	オフ、1、2
		レックビュー(P. 158)	オフ、オン
		ビープ音(P. 156)	オフ、小、大
		マイモード設定(P. 151)	現設定（登録、中止）、クリア（クリア、中止）、カスタム＊／My1、My2、My3、My4
		ファイル名メモリ(P. 161)	リセット、オート
		ピクセルマッピング(P. 163)	
		モニタ調整(P. 156)	−······◆······＋
		日時設定(P. 32)	
		m/ft設定(P. 164)	m、ft
		ビデオ出力(P. 165)	NTSC、PAL
		ショートカット設定(P. 148)	A、B／「ターゲット選択」以外の撮影タブの項目すべてと画像タブに含まれる項目すべて
		カスタムボタン設定(P. 145)	VIRTUAL DIAL、AEロック、セルフタイマー、ドライブ、ISO感度、フラッシュ選択、スローシンクロ、ノイズリダクション、デジタルズーム、フルタイムAF、AF方式、スーパーマクロ、ファンクション撮影、撮影情報表示、ヒストグラム表示、画質モード、ホワイトバランス
A/S/M/My (P. 53)			A、S、M、My1、My2、My3、My4
画質モード(P. 104)			前ページ画質モードの選択肢と同様
ドライブ(P. 95)			前ページドライブの選択肢と同様

＊「カスタム」の選択肢は、P. 154の「マイモード設定」が適応される項目をお読みください。

注意：

● Pモードに設定した Myモードでカメラを使用している場合、モードメニューは、Pモードのモードメニューと同じになります。P. 190のメニュー・マップをご覧ください。

● / / / / / モード

トップメニュー	タブ	項目	選択肢
モードメニュー	撮影	セルフタイマー(P. 94)	オフ、オン
		ドライブ(P. 95)	単写、連写、AF連写、BKT(±0.3、±0.7、±1.0/x3、x5)
		ISO感度(P. 109)	オート、100、200、400
		フラッシュ補正(P. 85)	−2.0〜+2.0
		フラッシュ選択(P. 177)	内蔵+外部、外部
		スローシンクロ(P. 82)	先幕効果、赤目・先幕効果、後幕効果
		マルチ測光(P. 87)	オフ、オン
		デジタルズーム＊(P. 78)	オフ、オン
		フルタイムAF(P. 66)	オフ、オン
		AF方式(P. 65)	iESP、スポット
		スーパーマクロ＊(P. 93)	オフ、オン
		パノラマ＊(P. 99)	
		合成ツーショット(P. 101)	
		ファンクション撮影(P. 103)	オフ、モノクロ、セピア、白板、黒板
		AFターゲット選択(P. 67)	
		撮影情報表示(P. 155)	オフ、オン
		ヒストグラム表示(P. 157)	オフ、オン
	画像	画質モード(P. 104)	TIFF(2288x1712、3:2 2288x1520、2048x1536、1600x1200、1280x960、1024x768、640x480) SHQ(2288x1712、3:2 2288x1520、プリント拡大3200x2400) HQ(2288x1712、3:2 2288x1520、プリント拡大3200x2400) SQ1(2048x1536、1600x1200、1280x960/高画質、標準) SQ2(1024x768、640x480/高画質、標準)
		ホワイトバランス(P. 111)	オート、プリセット(☼、☁、☼、≒1、≒2、≒3)、ワンタッチ
		WB補正(P. 114)	−7〜+7
		シャープネス(P. 115)	−5〜+5
		コントラスト(P. 116)	−5〜+5
		彩度(P. 117)	−5〜+5
	カード	カードセットアップ(P. 139)	フォーマット、中止

次のページにつづく

＊ モードでは選択できません。

● ／／／／／ モード（つづき）

トップメニュー	タブ	項目	選択肢
モードメニュー	設定	設定クリア(P. 143)	オフ、オン
		AあÄ文(P. 35)	日本語、ENGLISH、FRANCAIS、DEUTSCH
		PW ON設定(P. 159)	オフ、1、2
		PW OFF設定(P. 159)	オフ、1、2
		レックビュー(P. 158)	オフ、オン
		ビープ音(P. 156)	オフ、小、大
		マイモード設定(P. 151)	現設定（登録、中止）、クリア（クリア、中止）、カスタム＊／My1、My2、My3、My4
		ファイル名メモリ(P. 161)	リセット、オート
		ピクセルマッピング(P. 163)	
		モニタ調整(P. 156)	－・・・・・◆・・・・・＋
		日時設定(P. 32)	
		m/ft設定(P. 164)	m、ft
		ビデオ出力(P. 165)	NTSC、PAL
		ショートカット設定(P. 148)	A、B／「ターゲット選択」以外の撮影タブの項目すべてと画像タブに含まれる項目すべて
		カスタムボタン設定(P. 145)	VIRTUAL DIAL、AEロック、セルフタイマー、ドライブ、ISO感度、フラッシュ選択、スローシンクロ、ノイズリダクション、デジタルズーム、フルタイムAF、AF方式、スーパーマクロ、ファンクション撮影、撮影情報表示、ヒストグラム表示、画質モード、ホワイトバランス
シーン選択(P. 52)			、、、、、、
画質モード(P. 104)			前ページ画質モードの選択肢と同様
セルフタイマー(P. 94)			前ページドライブの選択肢と同様

＊「カスタム」の選択肢は、P. 154の「マイモード設定」が適応される項目をお読みください。

● モード

トップメニュー
タブ
項目
選択肢
モードメニュー
撮影
セルフタイマー(P. 94)
オフ、オン
ISO感度(P. 109)
オート、100、200、400
スーパーマクロ(P. 93)
オフ、オン
ファンクション撮影(P. 103)
オフ、モノクロ、セピア
画像
ホワイトバランス(P. 111)
オート、プリセット(、 、 、 1 、 2 、 3)、ワンタッチ
WB補正(P. 114)
−7～+7
シャープネス(P. 115)
−5～+5
コントラスト(P. 116)
−5～+5
彩度(P. 117)
−5～+5
カード
カードセットアップ(P. 139)
フォーマット、中止
設定
設定クリア(P. 143)
オフ、オン
AあÄ文(P. 35)
日本語、ENGLISH、FRANCAIS、DEUTSCH
PW ON設定(P. 159)
オフ、1、2
PW OFF設定(P. 159)
オフ、1、2
ビープ音(P. 156)
オフ、小、大
ファイル名メモリ(P. 161)
リセット、オート
ピクセルマッピング(P. 163)
モニタ調整(P. 156)
− ······♦······ ＋
日時設定(P. 32)
ビデオ出力(P. 165)
NTSC、PAL
シーン選択(P. 52)
画質モード(P. 104)
HQ、SQ
デジタルズーム (P. 78)
オフ、オン

● ▶ モード

＊1 ムービー再生時は表示されません。
＊2 静止画再生時は表示されません。

メニュー機能初期設定

モード メニュー機能	P	A S M MY ＊1			
シーン選択	—				—
A/S/M/MY	—	A	—		
セルフタイマー	オフ				—
ドライブ	単写			—	
ISO感度	オート	100	オート		—
フラッシュ補正	±0			—	
フラッシュ選択	±0			—	
スローシンクロ	先幕効果			—	
ノイズリダクション	オフ		— （ はオンに固定）	—	
マルチ測光	オフ	オフ （M:機能選択不可）	オフ	—	
デジタルズーム	オフ		オフ （ :機能選択不可）	オフ	—
フルタイムAF	オフ			—	
AF方式	iESP			—	
スーパーマクロ	オフ（ :機能選択不可）				—
ファンクション撮影	オフ				—
AFターゲット選択	画面中央			—	
撮影情報表示	オフ			—	オフ
ヒストグラム表示	オフ			—	オフ
画質モード	HQ (2288 x 1712)			HQ (320 x 240)	—
ホワイトバランス	オート（プリセット選択時：晴天）				—

- 「—」の設定は、そのモードでは設定できませんが、他のモードで設定した状態で働くものがあります。

＊1 初期設定は、選択した撮影モードによって変わります。P・A・S・M・S-Prg（ 、 、 、 、 、 ）モードの欄をご覧ください。

モード／メニュー機能	P	A S M My ＊1			
WB補正	±0				—
シャープネス	±0				—
コントラスト	±0				—
彩度	±0				—
リサイズ	—				640 x 480
設定クリア	オン				
AあÄ文	日本語＊2				
PW ON設定	1				
PW OFF設定	1				
レックビュー	オン			—	
ビープ音	大				
マイモード設定	現設定			—	
ファイル名メモリ	リセット				—
モニタ調整	±0				
日時設定	年月日/2002/1/1				
m/ft設定	m			—	
ビデオ出力	NTSC＊2				
ショートカット設定	A:画質モード B:ドライブ			—	
カスタムボタン設定	VIRTUAL DIAL			—	
情報表示	—				オフ
インデックス表示	—				9

- 「—」の設定は、そのモードでは設定できませんが、他のモードで設定した状態で働くものがあります。

＊1 初期設定は、選択した撮影モードによって変わります。P・A・S・M・S-Prg（ 、 、 、 、 、 ）モードの欄をご覧ください。

＊2 一度設定したら、電池を抜いてもその値は保持されます。

モード別撮影機能一覧

機能＼モード	P	A S M ＊	（シーンモード）	（ムービー）
静止画撮影	○	○	○	—
ムービー撮影	—	—	—	○
A/S/M/ モード切替え	—	○	—	—
モード切替え	—	—	○	○
絞り値設定	—	○	—	—
絞り優先撮影	—	○	—	—
シャッター速度設定	—	○	—	—
シャッター優先撮影	—	○	—	—
マニュアル撮影	—	○	—	—
マイモード設定	○	○	○	—
マイモード撮影	—	○	—	—
ズーム	○	○	○（ では設定不可）	○
デジタルズーム	○	○	○（ では設定不可）	○
オートフォーカス	○	○	○	○
フォーカスロック	○	○	○	○
AF方式	○	○	○	—
フルタイムAF	○	○	○	—
AFターゲット選択	○	○	○	—
マニュアルフォーカス	○	○	○	—
フラッシュ オート発光	○	○	○	—
フラッシュ 赤目軽減発光	○	○	○	—
フラッシュ 強制発光	○	○	○	—
フラッシュ 先幕効果	○	○	○	—
フラッシュ 赤目・先幕効果	○	○	○	—
フラッシュ 後幕効果	○	○	○	—
フラッシュ補正	○	○	○	—
スポット測光	○	○	○	○
マルチ測光	○	○	○	—

モード／機能	P	A S M My*	シーンモード	ムービー
AEロック	○	○	○	—
マクロ撮影	○	○	○	○
スーパーマクロ撮影	○	○	○（ではは設定不可）	○
セルフタイマー撮影	○	○	○	○
連写	○	○	○	—
AF連写	○	○	○	—
オートブラケット撮影	○	○	○	—
パノラマ撮影	○	○	○（では設定不可）	—
合成ツーショット	○	○	○	—
ファンクション撮影	○	○	○	○
画質モード設定	○	○	○	○
ISO感度設定	○	○	○	○
露出補正	○	○	○	○
オートホワイトバランス	○	○	○	○
プリセットホワイトバランス設定 ☼, ☁, ☀, 1, 2, 3	○	○	○	○
ワンタッチホワイトバランス	○	○	○	○
WB補正	○	○	○	○
シャープネス設定	○	○	○	○
コントラスト設定	○	○	○	○
彩度設定	○	○	○	○
ノイズリダクション	○	○	のみ設定可	—
カスタムボタン設定	○	○	○	—

○：可　　—：不可

＊ A/S/M/My モードのモード切替えおよび My モードで選択した撮影モード（P、A、S、M、S-Prg（, , , , , ））によっては、使えない機能もあります。各機能のページをお読みください。

モード別撮影機能一覧（つづき）

機能 ＼ モード	P	A S M 🄼y*	撮影モード（S-Prg）	ムービー
ショートカット設定	○	○	○	－
設定クリア	○	○	○	○
AあÄ文	○	○	○	○
ビープ音	○	○	○	○
レックビュー	○	○	○	－
情報表示	○	○	○	－
ヒストグラム表示	○	○	○	－
PW ON/OFF設定	○	○	○	○
モニタ調整	○	○	○	○
ファイル名メモリ設定	○	○	○	○
ピクセルマッピング	○	○	○	○
m/ft設定	○	○	○	－
ビデオ出力設定	○	○	○	○

○：可　－：不可

＊ A/S/M/My モードのモード切替えおよびMy モードで選択した撮影モード（P、A、S、M、S-Prg（, , , , , ））によっては、使えない機能もあります。各機能のページをお読みください。

アフターサービス

● 保証書はお買い上げの販売店からお渡しいたしますので「販売店名・お買い上げ日」等の記入されたものをお受け取りください。もし記入もれがあった場合は、ただちにお買い上げの販売店へお申し出ください。また保証内容をよくお読みの上大切に保管してください。

● 本製品のアフターサービスに関するお問い合わせや、万一故障の場合はお買い上げの販売店、または裏表紙の当社サービスステーションにご相談ください。使用説明書等にしたがったお取扱いにより、本製品が万一故障した場合は、お買い上げ日より満一ヶ年間「保証書」記載内容に基づいて無料修理いたします。

● 保証期間経過後の修理等については原則として有料となります。

● 当カメラの補修用性能部品は、製造打ち切り後5年間を目安に当社では有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、期間後であっても修理可能な場合もありますので、お買い上げの販売店また、お近くの当社サービスステーションにお問い合わせください。

● 本製品の保証、修理、サービスは日本国内でのみ有効です。
本製品は日本国内専用のため、海外での修理受け付けはできません。万一、外国で故障・不具合が生じた場合は、持ち帰って日本国内の当社サービスステーションまでご依頼ください。

● 本製品の故障に起因する付随的損害(撮影に要した諸費用、および撮影により得られる利益の喪失等)については補償しかねます。また、運賃諸掛かりはお客様においてご負担願います。

● 修理品をご送付の場合は、修理箇所を指示した書面を同封し、十分な梱包でお送りください。また控えが残るよう、宅配便か書留小包のご利用をお願いいたします。

仕様

形式	デジタルカメラ(記録・再生型)
記録方式 静止画 ムービー	 デジタル記録、JPEG（DCF準拠)、TIFF非圧縮、 DPOF対応 QuickTime Motion JPEG に準拠
記録媒体	3V（3.3V）スマートメディア、4MB～128MB （2MBは使えません）
記録コマ数 （16MBカード使用時）	1枚(TIFF: 2288 x 1712) 約5枚(SHQ: 2288 x 1712) 約16枚(HQ: 2288 x 1712) 約20枚(SQ1: 2048 x 1536) 約76枚(SQ2: 1024 x 768)
カメラ部有効画素数	400万画素
撮像素子	1/1.8型(インチ)CCD固体撮像素子 413万画素（総画素数）
記録画素数	3200x2400ピクセル(プリント拡大：SHQ/HQ) 2288x1712ピクセル(TIFF/SHQ/HQ) 2288x1520ピクセル(TIFF/SHQ/HQ) 2048x1536ピクセル(TIFF/SQ1) 1600x1200ピクセル(TIFF/SQ1) 1280x960ピクセル(TIFF/SQ1) 1024x768ピクセル(TIFF/SQ2) 640x480ピクセル(TIFF/SQ2)
レンズ	オリンパスレンズ：6.5～19.5mm、F2.8、 6群8枚(35mmフィルム換算32～96mm相当)
測光方式	撮像素子によるデジタルESP測光およびスポット測光
絞り	F2.8～F11
シャッター 静止画 ムービー	メカニカルシャッター併用 1～1/1000秒　（Mモード：16～1/1000秒） （Sモード：4～1/1000秒） 1/30 ～ 1/8000秒
ファインダ	光学実像式ファインダ

液晶モニタ	1.8型(インチ)TFTカラー液晶(低温ポリシリコン)、 約114000画素
フラッシュ充電時間	約6秒(常温時、新品電池使用)
オートフォーカス	TTL方式AF、コントラスト検出方式／ 焦点調節範囲：2 cm〜∞
コネクタ	DC入力端子・USB端子・ビデオ出力端子(NTSC端子） ・外部フラッシュ端子
自動カレンダー機能	2099年まで自動修正
使用環境 温度 湿度	 0〜40℃(動作時)／−20〜60℃(保存時) 30〜90%(動作時)／10〜90%(保存時)
電源	電池はCR-V3（当社製LB-01）リチウム電池パック2個、あるいは単3ニッケル水素電池、ニッカド電池、アルカリ電池、リチウム電池4本を使用。 マンガン電池は使用できません。 AC アダプタ（別売）
大きさ	幅109.5mm 高さ76.5mm（突起部除く） 厚さ66.5mm
質量	295g(電池／カード別)

外観・仕様は改善のため予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

用語解説

画素数••••••••••••••••••••••
画像を形成する最小単位の点。画素数が多いほど、サイズの大きな画像を作るのに適しています。

画像サイズ •••••••••••••••••
画像を構成する点（ピクセル）の数で表した画像の大きさのこと。例えば、640 x 480で撮影した画像は、パソコンのモニタの設定が640 x 480のときではモニタ全体に表示されますが、1024 x768ではモニタの一部分にだけ表示されます。

銀塩写真•••••••••••••••••••••
ハロゲン化銀を使った、従来からあるフィルムを用いた写真のことをいいます。

けられ••••••••••••••••••••••
撮影画面内に邪魔なものが入り、被写体が完全に写らないとき、またファインダで覗いたときに、撮影レンズの鏡胴で視野の一部が見えないことも、けられといいます。撮影レンズに不適切なフードを使った場合など、視野の四隅が暗くなることもいいます。

コントラスト検出方式 ••••••••••
被写体までの距離を測るのに、使用している方法。被写体のコントラストの大小を検出することで、ピントがあったかどうかを検出します。

絞り ••••••••••••••••••••••••
レンズを通して入ってくる光量を調節する機構。値が小さいほど光が多く入り、値が大きいほど入る光が少なくなります。そのレンズで使える最小の絞り値にすることを、開放するといい、絞り値を大きくするのを絞り込むといいます。

シンクロ端子 •••••••••••••••••
外部フラッシュとカメラとの接続のための端子。

スリープモード（待機状態）••••
電池を節約するためのモード。電源を入れたままカメラを一定時間放置すると、電池を節約するためにカメラは動作を停止します。シャッターボタンや十字ボタンなどの操作をすると、すぐにカメラは動作します。

デジタルESP測光••••••••••••
(electro selective pattern)
CCD出力を分割測光によって、周辺と中心部を個別に測光し、演算して露出を決める測光方法。

バックライト •••••••••••••••••
液晶モニタを背面から照らすための光源。

フラッシュブラケット ••••••••••
フラッシュとカメラを連結させる器具。

リングフラッシュ •••••••••••••
フラッシュの発光体であるクセノン管を、ちょうど蛍光灯のサークラインのように、リング状にしたフラッシュ。

露出 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
画像が写るために得る光の量。シャッター速度で時間、絞りでレンズを通して入ってくる光の量を、調節して露出を決めます。

アルファベット順

Aモード ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(aperture priority mode)
絞り優先AEモード。絞り値は自分で決め、カメラが絞り値にしたがってシャッター速度を変化させ、適正な露出で撮影するモード。

AE ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(automatic exposure)
自動露出。カメラに内蔵された露出計で自動的に決める方式。このカメラには、絞りとシャッタースピードをカメラに任せるPモード、絞り値を決めてシャッタースピードをカメラに任せるAモード、シャッタースピードを決めて絞り値をカメラに任せるSモードの3種類のAEがあります。Mモードでは、絞り値とシャッタースピードの両方を決める必要があります。

CCD ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(charge coupled device)
レンズを通して入ってきた光りを受けて、電気信号に変換する素子。このカメラでは、413万個の点で受けてRGBの信号に変換して一つの画像を作り出します。

DCF ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(design rule for camera file system)
電子情報技術産業協会(JEITA)で制定された、画像ファイルに関する規格。

DPOF
(digital print order format)
デジタルカメラの自動プリントアウト情報を記録するフォーマット。撮影したい画像を保存したカードにプリントしたい画像の指定や、枚数の指定情報を記録することで、DPOF対応のプリントアウトサービスや、家庭でのプリントアウトを自動で行うことができます。

EV ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(exposure value)
露出値。絞り値がF1、シャッター速度が1秒のときの光量をEV0と規定し、それより絞りを一段絞ったり、シャッター速度を一段早くするごとに、数値は1ずつ多くなります。EVは明るさとISO感度でも表せます。

ISO ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
国際標準化機構(ISO)の規格で決められた、フィルム感度の表示法。「ISO 100」と表記します。数値が大きくなるほど、光に対する感度が強くなり、少ない光でも感光します。

JPEG ･･････････････････････
（joint photographic experts group）
カラー静止画の圧縮方式。このカメラで撮影した写真（画像）は、画質をＳＨＱ/ＨＱ/ＳＱに設定すると、JPEG形式でカードに記録されます。パソコンに読み込めば、グラフィックス用のアプリケーションソフトで加工したり、インターネット閲覧ソフト（ブラウザ）で見れます。

Mモード ･･････････････････････
(manual mode)
シャッター速度と絞り値を、自分で設定して撮影するモード。

NTSC/PAL ･･････････････････
(National Television Systems Committee/ Phase Alternating Line)
テレビの放送方式。NTSCは主に日本、北米、韓国で使用され、PALは主にヨーロッパ諸国や中国で使用されています。

Pモード ･･････････････････････
(program mode)
プログラムAEモード。カメラが自動的に、適正な絞り値とシャッター速度を設定して撮影するモード。

Sモード ･･････････････････････
(shutter speed priority mode)
シャッタースピード優先AEモード。シャッタースピードを自分で決め、カメラがシャッタースピードにしたがって絞り値を変化させ、適正な露出で撮影するモード。

TIFF ･･････････････････････････
(tagged image file format)
モノクロやカラーの画像データを圧縮しないで保存するためのフォーマット。スキャナ用やグラフィックス用のアプリケーションで扱えます。

TFT (thin-film transistor) カラー液晶モニタ ･････････････
薄膜技術によるカラー液晶モニタ。

TTL (through-the-lens) 方式 ･･････････････････････････
カメラ内部に受光体を置き、レンズを通ってきた光を直接測光する露出調節機構。

TTL-AUTO ････････････････････
外部フラッシュの機能。ストロボから発光された光を、撮影レンズを通してカメラの受光体で受け、この光量調節信号をストロボ本体に発信して、発光量をコントロールする方式。

索引

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

ら行

アルファベット順

お問い合わせ窓口

商品に関する技術的なお問い合わせ窓口

オリンパス光学工業株式会社カスタマーサポートセンター
〒192-8507　東京都八王子市石川町2951

● ホームページによる情報提供
製品仕様、パソコン接続、OS対応、Q&Aなど各種情報を、当社ホームページでご提供しております。
オリンパスホームページ
http://www.olympus.co.jp/
より「サポート」→「デジタルカメラ／プリンタ関連」へ進み、ご利用ください。

● 電話・FAXによるお問い合わせ

フリーダイヤル **0120-084215**

携帯電話・PHSからは **0426-42-7499**
FAX **0426-42-7486**

調査等の都合上、回答までにお時間をいただく場合がありますので、ご了承ください。
営業時間　9:30〜17:00（土・日曜、祝日及び弊社定休日を除く）

お問い合わせいただく前に（お願い）

より迅速、正確にお答えするために、お手数ですが別冊（デジタルカメラ／パソコン接続操作説明書）の巻末のサポート用カルテの内容を、あらかじめご確認ください。

オリンパス光学工業株式会社

〒163-8610　東京都新宿区西新宿1の22の2　新宿サンエービル

●ホームページによる情報提供について

製品仕様、パソコンとの接続、OS対応の状況、Q&Aなどの各種情報を、当社のホームページでご提供しております。

オリンパスホームページ

http://www.olympus.co.jp/

より「サポート」→「デジタルカメラ／プリンタ関連」へ進み、ご利用ください。

●電話でのご相談窓口

フリーダイヤル

0120-084215

携帯電話・PHS**からは　0426-42-7499**

FAX　**0426-42-7486**

調査等の都合上、回答までにお時間をいただく場合がありますので、ご了承ください。

営業時間　9：30〜17：00（土・日曜、祝日及び弊社定休日を除く）

国内サービスステーション（修理受付窓口）

※土・日曜、祝日および年末年始は原則として休業させていただきます。オリンパスプラザ内の東京サービスステーションは土曜も営業しております。

東　京	〒101-0052	千代田区神田小川町1の3の1　小川町三井ビル(オリンパスプラザ内)	Tel.03(3292)1931
札　幌	〒060-0034	札幌市中央区北4条東1の2の3　札幌フコク生命ビル	Tel.011(231)2320
仙　台	〒981-3133	仙台市泉区泉中央1の13の4 泉エクセルビル	Tel.022(218)8421
名古屋	〒460-0003	名古屋市中区錦2の19の25　日本生命広小路ビル	Tel.052(201)9571
大　阪	〒542-0081	大阪市中央区南船場2の12の26　オリンパス大阪センター	Tel.06(6252)6991
広　島	〒730-0013	広島市中区八丁堀16の11　日本生命広島第2ビル	Tel.082(228)3821
福　岡	〒810-0004	福岡市中央区渡辺通3の6の11　福岡フコク生命ビル	Tel.092(761)4466

1AG6P1P1376 – –　　VT386601